

保 健 学 専 攻
(博士後期課程)

杏林大学 大学院 保健学研究科 (博士後期課程) 保健学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
<p>保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の語彙に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。</p>	<p>保健学研究科保健学専攻博士後期課程では、教育目標を達成するために、修士課程において、修士論文を以下のように定める。修士の要件を満たし、これらすべてを修了したと認められる学生に、博士(保健学)の学位を授与する。</p> <p>(1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識 ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。 (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力 ・欧米の学術論文を、仮説の設定・検証、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。 (3) 専門分野における課題発見能力 ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を養見できる。 (4) 研究遂行能力 ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザインを構築し、分析・論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけて発表することができる。</p> <p>(5) 高い倫理観 ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー</p> <p>保健学研究科保健学専攻博士後期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、保健・医療・福祉領域の専門分野を、さらに臨床検査・生命科学「保健学」「臨床工学」「臨床工学」「臨床工学」の4専門分野に分けて、以下に示した教育課程編成の方針に基づき、コースワークをバランスよく配置する。コースワークは講義と演習を適切に組み合わせ、専門知識の効果的な修得につながる授業を行う。これらの科目は体系的に理解できるよう、カリキュラムマップにより可視化する。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。</p> <p>(1) 教育内容 (1-1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識を修得するために ・専攻する専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの最新専門知識を修得するために、4専門分野それぞれに講義科目「薬物動態解析学」、心理学、「先端臨床工学」、生理学、「基礎工学」などを配置する。 (1-2) 先行研究を批判的に吟味できる能力を培うために ・欧米の学術論文を、仮説の設定・研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味できる能力を修得するために、各専門分野に欧米の学術論文を論議し、集団でディスカッションを行うセミナー形式のジャーナルクラブ「感染症学セミナー」「疫学セミナー」「救急医学」「薬理学」「生化学」「基礎工学」などを配置する。 (1-3) 専攻する専門分野における課題発見能力を培うために ・研究課題発見能力として求められる、学際的・国際的な視野での科学的思考力と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を培うために各専門分野に講義科目、セミナーを配置する。 (1-4) 研究遂行能力や高い倫理観、国際的視野を培うために ・自ら発見した課題の解決に向け、自立して行える研究遂行能力・論文執筆能力・論文発表の際に必要な能力を修得し、研究者としての高い倫理観と国際性を培うために、リサーチワークを配置する。</p> <p>(2) 教育方法 (2-1) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を培うために ・学術論文の抄読、プレゼンテーション、クリティカルな討論を積極的に行い、問題発見能力を修得できる能動的学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-2) 研究遂行や、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。</p> <p>(3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上げられているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を評価する。集団討論、口頭討論、口頭試験、レポートなど複数の方法で、課題発見能力の測定を行う。 (3-3) 博士論文発表会および博士論文発表会において、研究遂行能力や倫理観・国際性・論文執筆能力・論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付いているかを測定する。</p>	<p>保健学研究科保健学専攻博士後期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。</p> <p>(1) 求める学生像、資質 (1-1) 保健・医療・福祉領域の最新専門知識や高度技術を修得するとともに、学際的な視点を深め、高度専門職業人としての実践力や指導力のレベルアップを図りたいという意欲を持っている人 (1-2) 保健・医療・福祉行政における問題・課題発見能力と解決能力を高め、その成果を保健・医療・福祉行政に反映させたいという熱意を持っている行政職の人 (1-3) 保健・医療・福祉領域の教育・研究者としての専門的基礎を確立し、グローバルに活躍したいという意欲を持っている人</p> <p>(2) 求める学習成果 【卒業認定・学位授与の方針】(ディプロマ・ポリシー) 及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 保健・医療・福祉とその関連領域の修士課程を修了者としての、高度かつ専門的な知識や技術を有している。(専門的知識・専門的技能) (2-2) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の欧米の学術論文を読みこなせる英語力を有する。(専門的知識・専門的技能・国際性) (2-3) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の課題解決のための研究遂行能力、論文執筆能力や論文発表におけるプレゼンテーション能力を有する。(研究遂行能力) (2-4) 主体性、協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。(コミュニケーション能力) (2-5) 研究倫理を熟知し、重要性を十分認識している。(倫理観) (2-6) 平易に妥協することなく、忍耐強く研究に取り組むことができる。(研究遂行能力)</p> <p>(3) 入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 志願する専門分野に関する専門科目、英語科目、面接から求める学生像、資質および学修成果を評価する。 (3-2) 社会人特別選抜 志願する専門分野の課題に対する小論文、英語科目、面接から、求める社会人学生像、資質および学修成果を評価する。</p>

保健学専攻 博士後期課程

臨床検査・生命科学分野

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【臨床検査・生命科学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
臨床検査・生命科学	感染症疫学	宮澤 博	2		○	×	×	★	★	★	★	★	230
	免疫学	田口 晴彦	2		○	○	×	★	★	★	★		230
	細胞診断学	大河戸 光章	2	○		○	×	★					230
	機能分子化学	岡田 洋二	2	○		×	○	★					230
	分子解剖学	瀧上 周	2	○		○	○	★					231
	感染制御学	藏田 訓	2	○		×	○	★	★				231
	薬物動態解析学	高津 博勝	2		○	○	×	★					232
	神経生物学	田中 浩輔	2		○	○	○	★	★	★	★	★	232
	生体侵襲と免疫	米谷 正太	2		○	×	×	★	★	★	★		233
	分子解剖学（感覚系）	堀口 幸太郎	2	○		○	○	★					233
	神経病理学	渡部 和彦	2		○	×	×	★	★	★	★	★	233
	腫瘍組織学	新井田 素子	2		○	×	○	★		★			234
	計算科学	田中 薫	2	○		×	×	★					234
	遺伝子解析技術	相磯 聡子	2		○	○	×				★		235
	分子解剖学セミナー	瀧上 周	2		○	○	○	★					235
	免疫学セミナー	田口 晴彦	2		○	○	×	★	★	★			235
	神経生物学セミナー	田中 浩輔	2	○	○	○	○	★	★	★	★	★	236
	応用免疫学セミナー	宮澤 博	2		○	×	×	★	★				236
	細胞診・病理セミナー	大河戸 光章	2		○	○	×	★	★	★			236
	生体分子検査学セミナー（1）	相磯 聡子	2		○	○	×	★	★	★			237
	生体分子検査学セミナー（2）	八巻 明子	2	○		×	×	★	★	★			237
	特別研究 I	相磯 聡子	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	237
	特別研究 I	岡田 洋二	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	237
	特別研究 I	坪下 幸寛	4	○	○	—	—		★	★	★	★	238
	特別研究 I	田中 浩輔	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	238
	特別研究 I	島田 厚良	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	238
	特別研究 I	山田 慎	4	○	○	—	—		★	★	★	★	239
	特別研究 I	滝 智彦	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	239
	特別研究 I	大森 拓哉	4	○	○	—	—				★		239
	特別研究 II	相磯 聡子	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	239
特別研究 II	岡田 洋二	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	240	
特別研究 II	坪下 幸寛	2	○	○	—	—		★	★	★	★	240	
特別研究 II	田中 浩輔	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	240	

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【臨床検査・生命科学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R3)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
臨床検査・生命科学	特別研究Ⅱ	島田 厚良	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	241
	特別研究Ⅱ	山田 慎	2	○	○	—	—		★	★	★	★	241
	特別研究Ⅱ	滝 智彦	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	241
	特別研究Ⅱ	大森 拓哉	2	○	○	—	—				★		242
	特別研究Ⅲ	相磯 聡子	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	242
	特別研究Ⅲ	岡田 洋二	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	242
	特別研究Ⅲ	坪下 幸寛	2	○	○	—	—		★	★	★	★	243
	特別研究Ⅲ	田中 浩輔	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	243
	特別研究Ⅲ	島田 厚良	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	243
	特別研究Ⅲ	山田 慎	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	243
	特別研究Ⅲ	滝 智彦	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	244
特別研究Ⅲ	大森 拓哉	2	○	○	—	—				★		244	

【保健学専攻 臨床検査・生命科学分野 博士後期課程 履修モデル】
 ★生命科学の研究者を志す大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野の臨床検査・生命科学分野の科目から4科目と特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する。(計16単位)
- ・副科目として、看護学専攻に配置されている統計学Ⅰ、統計学Ⅱと保健学分野の疫学を履修する。(計6単位)

修了要件 (20単位以上)							
科目と単位	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主科目	専門分野科目 分子解剖学 2		神経生物学セミナー 2	生体分子検査学セミナー(1) 2	生体分子検査学セミナー(2) 2		16
	特別研究Ⅰ(通年) 2	特別研究Ⅰ(通年) 2		特別研究Ⅱ 2		特別研究Ⅲ 2	
主科目小計	4	2	2	4	2	2	
副科目	他専攻／他専門分野科目 統計学Ⅰ 2 疫学 2	統計学Ⅱ 2					6
	副科目小計	4	2	0	0	0	
合計	8	4	2	4	2	2	22

【科目名】感染症疫学
【授業コード】22H10012
【代表教員】宮澤 博
【授業概要】

病原微生物やその毒素などに対する抗体の総合結合力 (avidity) の評価が、感染症の血清学的診断における新たなツールとして検討されている。本講義では avidity の評価方法について文献的に調査し、その有用性と臨床検査へ導入する際の問題点について考察する。また実際にいくつかの評価方法を実施し、それらを比較考察し、感染症の疫学調査への応用を考える。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- ・先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

抗体の総合結合力 (avidity) および affinity maturation を理解し、その評価の仕方と血清学的検査法への応用について学ぶ。

＜個別目標 (SBOs) ＞

- ①抗体の総合結合力 (avidity) とその成熟について説明することができる。
- ②現在実施されている avidity 評価法を分類し、その特徴を述べられる。
- ③演習を通して avidity と抗体価との違いについて理解する。
- ④臨床検査への導入における課題を考察する。

【授業計画】

1. 免疫学的測定法の基本 [講義・質疑応答]
抗原抗体反応と測定原理について理解する。
2. 抗体の親和性と親和性の成熟 [講義・質疑応答]
抗体の量と質の違い、親和性の成熟とは何かを理解する。
3. 抗体の avidity の評価と利用に関する研究 [講義・質疑応答]
抗体 avidity の評価の方法論、現状の問題点について学ぶ。
- 4-7. 間接 ELISA による抗体価の算出 [演習・質疑応答]
演習を通じて間接 ELISA を学び、抗体量の求め方を理解する。
- 8-12. Stringent Immunoassay (SIA) の構築と Ab avidity の評価 [演習・質疑応答]
SIA の条件を検討し、抗体 avidity を測定する。
13. ワクチン接種後の再感染 (secondary vaccine failure:SVF) [講義・質疑応答]
Primary vaccine failure か SVF かが問題となった事例における SIA の利用。
14. 受講生によるプレゼンテーション [プレゼンテーション・質疑応答]
免疫学的測定法の特徴を整理し、感染症の疫学調査にはどのような方法が適するかを考察し、発表する。
15. まとめ [講義・質疑応答]
感染症疫学および血清学的診断の有用性について。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (60%)、口頭試問 (40%)

【備考】

【科目名】免疫学
【授業コード】22H10022
【代表教員】田口 晴彦
【授業概要】

自然免疫と適応免疫との連携メカニズムについて講義するとともに、関連する最新論文を選び、研究デザイン、データ解析、および免疫学の意義について教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- ・先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテ

ーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

＜一般目標 (GIO) ＞

- ①免疫系、特に自然免疫と適応免疫との連携について理解する。
 - ②免疫に関する論文における研究手法、データとその意義について理解する。
- ＜個別目標 (SBOs) ＞
- ①ヒトの免疫における自然免疫の意義がわかる。
 - ②ヒトの免疫における獲得免疫の意義がわかる。
 - ③自然免疫と適応免疫との連携についてメカニズムがわかる。
 - ④ヒトの免疫系と個の確立について考察できる。

【授業計画】

1. 自然免疫 [講義・質疑応答]
非特異的な免疫応答の重要性について学ぶ。
2. 自然免疫の制御 [講義・質疑応答]
自然免疫の制御機構について学ぶ。
- 3-4. 適応免疫 (1-2) [講義・質疑応答]
特異的免疫機構である適応免疫を液性免疫と細胞性免疫に分け、その機構について学ぶ。
- 5-7. 適応免疫の制御 (1-4) [講義・質疑応答]
エフェクター細胞の活性化メカニズムと抑制・不応答機構について学ぶ。
- 8-10. 最新論文 (Journal of Immunology) よりデータ解析と免疫学的意義 [講義・質疑応答]
Journal of Immunology より文献を選出し、研究手法について学ぶ。
- 11-13. 最新論文 (Infection and Immunity) よりデータ解析と免疫学的意義 [講義・質疑応答]
Infection and Immunity より文献を選出し、研究手法について学ぶ。
- 14-15. 最新論文 (Journal of Infectious Diseases) よりデータ解析と免疫学的意義 [講義・質疑応答]
Journal of Infectious Diseases より文献を選出し、研究手法について学ぶ。
(フィードバック方法) 課題についてのフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】細胞診断学
【授業コード】22H10031
【代表教員】大河戸 光章
【授業概要】

細胞診と組織診について講義するとともに、関連する最新論文を選び、研究デザイン、データ解析、細胞学的意義について教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

＜学位授与方針との関連＞

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

＜一般目標 (GIO) ＞

- ①細胞診と組織診について理解する。
- ②細胞診に関する論文における研究手法、データとその意義について理解する。

＜個別目標 (SBOs) ＞

細胞診の意義がわかる。

【授業計画】

- 1-2. 細胞診 [講義・質疑応答]
- 3-4. 組織診 [講義・質疑応答]
5. 細胞材料を用いた免疫組織化学染色 [講義・質疑応答]
6. 細胞材料を用いた分子生物学的手法 [講義・質疑応答]
- 7-10. 最新論文 (Cancer cytopathology) よりデータ解析と細胞学的意義 [講義・質疑応答]
- 11-15. 最新論文 (Acta cytologica) よりデータ解析と細胞学的意義 [講義・質疑応答]
(フィードバック方法) 課題についてのフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (100%)

【備考】

【科目名】機能分子化学
【授業コード】22H10041
【代表教員】岡田 洋二
【授業概要】

活性酸素による生体分子の酸化障害を理解するために「Antioxidant Methodology in vivo and in vitro Concepts」をテキストとして、以下の事項について講義する。

1. 活性酸素の一般的性質と測定法の原理
2. 酸化障害を抑制する抗酸化物質

3. 抗酸化作用の定量的解析及び評価法

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO) 》

各種活性酸素の特性を修得し、その特性を活かしてどのように定性定量分析を行えばよいか、更に活性酸素によって生じる酸化障害を抗酸化物質がどのように抑制しているかを理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

①活性酸素種の特徴および反応性について理解できる。

②生体内で起こっている過酸化反応および酸化ストレスについて理解できる。

③天然由来の抗酸化物質について構造的・機能的に理解できる。

④抗酸化酵素の機能について理解できる。

⑤酸化促進剤の機序について理解できる。

【授業計画】

1. Free radicals and antioxidants [講義・質疑応答]
2. Assessment of oxidative stress and antioxidant status in humans [講義・質疑応答]
3. Application of the comet assay to study oxidative DNA-damage in human cells [講義・質疑応答]
4. Human consumption of carotenoid-rich vegetables [講義・質疑応答]
5. Analysis of products of antioxidant reactions by mass spectrometry and detection of endogenous malondialdehyde-deoxyguanosine adducts in humans [講義・質疑応答]
6. Assessment of LDL oxidation [講義・質疑応答]
7. Impact of nutrient additives and supplements on the shelf life and stability of foods and beverages [講義・質疑応答]
8. Anthocyanins in edible plant parts [講義・質疑応答]
9. Structure-activities of natural antioxidants [講義・質疑応答]
10. In vitro methods for characterizing potential prooxidant and antioxidant action of nonnutritives substances in plant foods [講義・質疑応答]
11. Regulatory Antioxidant Enzymes [講義・質疑応答]
12. A novel fluorescence assay to evaluate antioxidant efficacy [講義・質疑応答]
13. Measurement of tocopherol efficacy in fats and oils [講義・質疑応答]
14. まとめ1 [講義・質疑応答]
15. まとめ2 [講義・質疑応答]

(フィードバック方法) 前回の講義内容については、次回の講義冒頭で説明を行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(70%)、口頭試問(30%)

【備考】

【科目名】分子解剖学

【授業コード】22H10051

【代表教員】瀧上 周 【担当教員】堀口 幸太郎

【授業概要】

現代解剖学の一分野として、分子解剖学がある。解剖学領域で発展を続ける本来の顕微鏡法の発達と、生化学・免疫学・分子生物学的技術を融合させることにより、タンパク質や核酸が細胞内外のどのような構造に局在しているかが明らかになり、その細胞の機能を予測することが可能となっている。その領域の中で、特に脳神経系における分子解剖学に焦点を当てて、その研究の実態について深く理解する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO) 》

分子解剖学の意義と必要性を理解し、分子解剖学研究の具体的な例を挙げて説明できるようになる。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①分子解剖学の概要について述べるができる。
- ②脳神経系の発生・分化の分子メカニズムを説明できる。
- ③神経再生と細胞治療の現状を概説できる。
- ④感覚系のそれぞれの分子メカニズムについて述べるができる。
- ⑤記憶学習、情動の分子メカニズムについて例を挙げて説明できる。
- ⑥神経・精神疾患の分子メカニズムについて概説できる。

【授業計画】

1. 分子解剖学とは何か [講義・質疑応答] (瀧上)
解剖学はマクロとミクロに大別されるが、ミクロの組織学を分子レベルで理解する分子解剖学について概説する。
- 2-3. 脳神経系の発生・分化の分子解剖学 [講義・質疑応答] (堀口)
脳神経系の発生・分化の分子メカニズムについて進化論的観点を持って分子解剖学的に学ぶ。
- 4-5. 神経系の再生の分子解剖学 [講義・質疑応答] (堀口)
ノーベル賞を受賞された山中伸弥教授が開発された人工万能細胞に代表されるように、再生医学の進歩は著しい。再生医療に関わるトピックスを紹介しながら、現状について分子解剖学的に学ぶ。
- 6-8. 感覚系の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)
視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚について、それぞれどのような分子メカニズムによって外界の刺激を受容するかについて分子解剖学的に学ぶ。

9-10. 情動の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

情動の鍵となる扁桃体における神経回路と分子メカニズムについて分子解剖学的に学ぶ。

11-12. 記憶学習の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

記憶学習の鍵となる海馬と大脳皮質の神経回路と分子メカニズムについて分子解剖学的に学ぶ。

13-14. 神経・精神疾患の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

パーキンソン病、ALS、アルツハイマー病、統合失調症、自閉症スペクトラム、などの疾患について学ぶと同時に、それぞれの原因に関する分子メカニズムについて分子解剖学的に学ぶ。

15. まとめ [講義・質疑応答] (瀧上)

これまでに学んだものから特に興味をもったテーマについて受講生自身がプレゼンテーションを行い、質疑応答を行い、理解を深める。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータを整理して検討し、資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習、復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、口頭試問(20%)

【備考】

【科目名】感染制御学

【授業コード】22H10061

【代表教員】蔵田 訓

【授業概要】

医療機関における感染制御(Infection Control)は危機管理のひとつとして非常に重要な意義を持っている。本科目では、感染制御に必須である感染症の予防法や治療法を解説するとともに、医療機関はもとより、広く社会で起こりうる感染症も視野に入れた包括的な感染制御とサーベイランス理論について講義する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

《一般目標 (GIO) 》

感染制御(infection control)を実践するために必要な感染予防の理論と方法、統計学、サーベイランス指標を知り、病原体別・感染部位別・感染経路別アウトブレイクの事例を科学的・疫学的に分析・考察するための専門知識と手法を修得する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①感染制御の重要性を述べるができる。
- ②標準予防策、感染経路別予防策、バリアプリコーションの内容を説明できる。
- ③消毒(disinfection)の理論と消毒薬(disinfectant)の化学的特性を説明できる。
- ④消毒薬耐性菌の耐性メカニズムと対処法を説明できる。
- ⑤滅菌(sterilization)の理論と方法を系統的に説明できる。
- ⑥薬剤耐性菌の耐性メカニズム、耐性菌の伝播・拡散メカニズムを説明できる。
- ⑦薬剤耐性菌のモニタリングを行うことができる。
- ⑧薬剤耐性菌サーベイランスに必要な細菌の性状分析・遺伝子型別を行うことができる。
- ⑨抗菌薬の薬物動態(PK)と薬力学(PD)について述べるができる。
- ⑩抗菌薬の適正使用に対する考察に積極的な態度を示す。
- ⑪アウトブレイクの調査事例分析に興味と積極的な態度を示す。
- ⑫国内外の感染症の発生動向に興味を示し、常に積極的な情報収集を行う。
- ⑬輸入感染症対策の現状と問題点について述べるができる。
- ⑭バイオテロ対策の現状と問題点について述べるができる。

【授業計画】

1. 感染対策の歴史と国内外の現状 [講義・質疑応答]
日本・海外における感染症の歴史の変遷と現状について学ぶ。
2. 滅菌と消毒の理論と実際 [講義・質疑応答]
主な滅菌法の理論と方法、消毒剤の種類・種類と抗微生物スペクトルについて学ぶ。
3. 感染対策の基本:標準予防策、感染経路別予防策、バリアプリコーション [講義・質疑応答]
スタンダードプリコーションを基本とする各種感染予防策の概念と実施方法について学ぶ。
4. 薬剤耐性:耐性のメカニズム耐性菌の拡散・伝播 [講義・質疑応答]
医療関連感染で問題となる薬剤耐性菌の種類と耐性メカニズム、耐性の菌株・菌種間伝播のメカニズムについて学ぶ。
5. 薬剤耐性菌のモニタリング [講義・質疑応答]
医療関連感染で問題となる薬剤耐性菌のモニタリング、施設内におけるサーベイランス手法について学ぶ。
6. 化学療法:抗菌薬の最小発育阻止濃度とブレイクポイント [講義・質疑応答]
in vitro, in vivoにおける抗菌薬の効果判定基準の考え方と問題点について学ぶ。
7. 抗菌薬のPK-PD [講義・質疑応答]
主要な抗菌薬の薬物動態、化学療法上の問題点について学ぶ。
8. 抗菌薬の適正使用 [講義・質疑応答]
感染症治療または感染予防のための抗菌薬投与の現状と問題点について学び、耐性菌の出現を防ぐための適正使用について考える。
9. サーベイランスの指標(表現型の型別と遺伝子の型別) [講義・質疑応答]
感染症サーベイランス、薬剤耐性菌サーベイランスの臨床細菌学的(生物化学的)指標と分子疫学的指標について学ぶ。
10. 感染症の数理モデル [講義・質疑応答]

- 感染症の発生動向を精査・予測するための数理モデルの理論と基礎について学ぶ。
- 病原体別のアウトブレイク調査事例 [講義・質疑応答]
医療関連感染症のアウトブレイク事例を提示し、病原体別の分析方法と調査結果の考え方について学ぶ。
 - 感染部位別のアウトブレイク調査事例 [講義・質疑応答]
医療関連感染症のアウトブレイク事例を提示し、感染部位別の分析方法と調査結果の考え方について学ぶ。
 - 感染経路別のアウトブレイク調査事例 [講義・質疑応答]
医療関連感染症のアウトブレイク事例を提示し、感染経路別の分析方法と調査結果の考え方について学ぶ。
 - 輸入感染症とバイオテロ対策 [講義・質疑応答]
日本における輸入感染症の現状と対策、バイオテロの発生抑止策と発生時の対応について学ぶ。
 - まとめと総合討論 [講義・質疑応答]
今までの講義内容のまとめと総合討論を行う。
(フィードバック方法) 質疑応答で提示した課題提示された質問の解説は次回の講義時に行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】薬物動態解析学

【授業コード】22H10072

【代表教員】高津 博勝

【授業概要】

薬に対する感受性は一人ひとりでは違いがある。医薬品の剤形と投与方法によっても受容体における薬物濃度を決定する、薬の体内動態は同じではない。この問題を解決するためには、薬物の吸収、分布、代謝、排泄の四つの過程を、数学的に評価する速度論的パラメータを算出し、正確な投与計画を立てなければならぬ。この科目ではそれらの基礎知識を学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

◀学位授与方針との関連▶

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

◀一般目標 (GIO) ▶

薬物の作用とその動態について速度論的取り扱いができ、パラメータの算出から投与計画を立てることができる。

◀個別目標 (SBOs) ▶

- ①薬物動態の基礎である ADME を説明することができる。
- ②薬物動態を変化させる要因を説明することができる。
- ③コンパートメントモデルを説明することができる。
- ④薬物相互作用を理解することができる。

【授業計画】

1. 薬物動態とは [講義・小テスト]

薬物動態学とは、生体膜透過機構について学ぶ。

2. 薬物動態パラメータ [講義・小テスト]

薬物動態を表すパラメータとは何かについて学ぶ。

3. 吸収: Absorption [講義・小テスト]

薬の吸収 (absorption) とは何か。基本的事項を学ぶ。

4. 分布: Distribution [講義・小テスト]

薬の分布 (distribution) とは何か。基本的事項を学ぶ。

5. 代謝 1: Metabolism [講義・小テスト]

薬の代謝 (metabolism) とは何か。基本的事項を学ぶ。

6. 代謝 2: Metabolism [講義・小テスト]

薬物代謝と薬効・副作用の関係について、基本的事項を学ぶ。

7. 排泄: Excretion [講義・小テスト]

薬の排泄 (excretion) とは何か。基本的事項を学ぶ。

8. ADME のまとめ [講義・小テスト]

ここまでの事項についてまとめを行う。

9. 薬物動態を変動させる要因 1 [講義・小テスト]

小児・高齢者における薬物動態。基本的事項を学ぶ。

10. 薬物動態を変動させる要因 2 [講義・小テスト]

妊娠中・疾患時における薬物動態。基本的事項を学ぶ。

11. コンパートメントモデル 1 [講義・小テスト]

コンパートメントモデルとは、基本的事項を学ぶ。

12. コンパートメントモデル 2 [講義・小テスト]

ADME と様々なコンパートメントモデルについて、基本的事項を学ぶ。

13. 相互作用 1 [講義・小テスト]

薬物の相互作用とは、基本的事項を学ぶ。

14. 相互作用 2 [講義・小テスト]

ADME における薬物相互作用について、基本的事項を学ぶ。

15. まとめ [講義・小テスト]

これまでの講義を振り返り、まとめを行う。

フィードバック方法: 各回の確認テストのフィードバックを次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回のテーマに関連する基礎的な事項を学習し、ノートにまとめておくこと。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、資料やノートに基づいて学習しておくこと。

※全ての回において、予習は60分、復習は60分必要とする。

※授業外学習時間(予習・復習等)は60時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。

【評価方法】

レポート(30%)、口頭試問(20%)、課題(50%)

【備考】

※履修登録前に【必ず】担当教員に連絡を取ること。

◀テキスト▶

1. 実戦で学ぶ! 薬物動態学 浅沼晋 ISBN: 9784798057965 秀和システム

◀参考書▶

1. 薬物動態のイロハ 加藤基浩 ISBN: 9784525727413 南山堂

2. 基礎からの薬物動態学 第2版 弓田長彦 ISBN: 978463994508 テコム

3. はじめての薬物速度論-薬物動態の基礎 加藤基浩 ISBN: 9784525727215 南山堂

【科目名】神経生物学

【授業コード】22H10082

【代表教員】田中 浩輔

【授業概要】

生体は、個体を構成する各器官が互いに連携しあい、調和のとれた活動を行うことで生命活動を営んでいる。その連携には神経系が大きな役割を果たしている。この神経系は、多くの動物で多くのニューロンが複雑な回路を構成し、その責を担っている。本講義では、無脊椎動物から脊椎動物まで、様々な動物の神経回路の構造や働き、修飾メカニズムを解説する。テーマごとに中心となる論文を紹介しつつ、解説する。動物の示す多様な行動、あるいは個体内の器官系の連関の礎にある神経回路とその活性化について学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

◀学位授与方針との関連▶

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

◀一般目標 (GIO) ▶

動物が示す様々な行動、器官系の連関機構の基になる神経系の構造とその駆動メカニズムを学ぶ。さらに可塑的な変化も踏まえダイナミックに活動を変化させる神経系を深く理解し、神経系の研究に必要な知識の修得およびそれをもとに考察する能力を養う。

◀個別目標 (SBOs) ▶

- ①ニューロンの電気的特性を理解し、説明できる。
- ②シナプスの可塑性のメカニズムを理解できる。
- ③特殊な性質を持つニューロンの特性と機能を理解できる。
- ④運動出力プログラムの形跡機構を理解できる。
- ⑤感覚情報処理機構を理解できる。
- ⑥神経回路の働きを修飾する調節神経や神経ホルモンの働きを理解できる。
- ⑦神経回路の活性や連関が、動物行動を発現する理解できる。

【授業計画】

1. Excitable membrane [講義・質疑応答]

ニューロンの膜電位とその変化メカニズム概略を解説する。

2. Synaptic transmission [講義・質疑応答]

ニューロン間や終板などでみられる synaptic transmission のメカニズムについて解説する。

3. Central pathways of the siphon withdrawal reflex in Aplysia 1

[講義・質疑応答]

アメフラシの水管引っ込み反射の中枢神経機構について解説する。

4. Central pathways of the siphon withdrawal reflex in Aplysia 2

[講義・質疑応答]

アメフラシの水管引っ込み反射に関わるシナプス伝達の可塑性について学ぶ。

5. Mechanism of escape behaviors [講義・質疑応答]

イカ、エビ、コオロギなどにみられる巨大軸索の関わる逃避行動について解説する。

6. Mechanisms for pattern generation 1 [講義・質疑応答]

昆虫の飛翔や魚類の遊泳のもととなる神経機構について学ぶ。

7. Mechanisms for pattern generation 2 [講義・質疑応答]

甲殻類の口胃神経節のニューロン回路が示す pattern generation 機構について学ぶ。

8. Sensory processing 1 [講義・質疑応答]

カイコガやハチの定位にみられる神経機構を学ぶ。

9. Sensory processing 2 [講義・質疑応答]

フクロウの音源定位にみられる感覚情報の処理機構について学ぶ。

10. Sensory modulation of behaviors 1 [講義・質疑応答]

逃避行動に関わる神経回路に存在する non-spiking neuron 特徴とその作用について学ぶ。

11. Sensory modulation of behaviors 2 [講義・質疑応答]

口胃神経回路が形成するモータープログラムに対する感覚入力による修飾機構について学ぶ。

12. Neurohumoral modification of motor output [講義・質疑応答]

ザリガニやコオロギの闘争に関わる神経回路に対する神経ホルモンの作用について学ぶ。

13. Neural regulation of cardiac performance in crustaceans [講義・質疑応答]

甲殻類を例に心臓拍動と血液分配の神経機構を学ぶ。

14. Enteric nervous system [講義・質疑応答]
様々な動物での消化管神経系と消化管運動に対する作用をによる調節機構について学ぶ。
15. まとめ [講義・まとめ・質疑応答]
ニューロン、筋運動との連関機構についてまとめ、レポートとして提出する。
(フィードバック方法) 各回授業の冒頭に前回の授業のまとめと確認を行う。

【準備学習】

(予習)

1-14. 各回のテーマについて、参考文献の関連部分をあらかじめ読んでおく。

15. これまでの14回の復習で行ったレポートに目を通しておく。

(復習)

1-15. 各回の授業内容、指摘された内容などをレポート (A4紙1枚程度) としてまとめポートフォリオを作成する。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

適宜 論文を提示する

参考書: 「カンデル神経科学」金澤一郎、宮下 保司 監訳、ISBN-13: 978-4895927710、メディカルサイエンスインターナショナル

【科目名】 生体侵襲と免疫

【授業コード】 22H10092

【代表教員】 米谷 正太

【授業概要】

クリティカルな状況にある患者の病態を的確に把握するためには、生体侵襲と生体反応についての理解が必要である。生体侵襲に対して免疫を含めた生体がどのような反応メカニズムをとるかについて講義するとともに、感染症に伴う生体反応に関連する論文を選び、研究デザイン、データ解析法を学習する目的で輪読会を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO) 》

①生体侵襲と生体反応について理解する。

②生体侵襲、特に感染症に関する論文での研究手法、データとその意義について理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

①生体侵襲の種類について理解する。

②生体侵襲における生体反応 (免疫反応をふくめた) についてメカニズムがわかる。

③感染症に対する生体反応について理解する。

【授業計画】

1-5. 生体侵襲、生体の恒常性、免疫システムについて

[講義・プレゼンテーション・質疑応答]

6-10. 侵襲による生体反応について [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

神経系の反応、内分泌系の反応、炎症反応、代謝系の反応について学ぶ。

11-15. 生体侵襲、それに伴う免疫反応を含めた生体反応に関する文献を抽出し、データの解析法を学ぶ。 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

(フィードバック方法) フィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

学生は予め指定された講義に関する内容を PowerPoint にまとめ 20-30 程度のプレゼンテーションを行う。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション (80%)、口頭試問 (20%)

【備考】

【科目名】 分子解剖学 (感覚系)

【授業コード】 22H10101

【代表教員】 堀口 幸太郎 **【担当教員】** 瀧上 周

【授業概要】

現代解剖学の一分野として、分子解剖学がある。解剖学領域で発展を続ける本来の顕微鏡法の発達と、生化学・免疫学・分子生物学的技術を融合させることにより、タンパク質や核酸が細胞内外のどのような構造に局在しているかが明らかになり、その細胞の機能を予測することが可能となっている。その領域の中で、特に脳神経系における分子解剖学に焦点を当てて、その研究の実践について深く理解する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO) 》

分子解剖学の意義と必要性を理解し、分子解剖学研究の具体的な例を挙げて説明できるようになる。

《個別目標 (SBOs) 》

①分子解剖学の概要について述べる事ができる。

②脳神経系の発生・分化の分子メカニズムを説明できる。

③神経再生と細胞治療の現状を概説できる。

④感覚系のそれぞれの分子メカニズムについて述べる事ができる。

⑤記憶学習、情動の分子メカニズムについて例を挙げて説明できる。

⑥神経・精神疾患の分子メカニズムについて概説できる。

【授業計画】

1. 分子解剖学とは何か [講義・質疑応答] (瀧上)

解剖学はマクロとミクロに大別されるが、ミクロの組織学を分子レベルで理解する分子解剖学について概説する。

2-3. 脳神経系の発生・分化の分子解剖学 [講義・質疑応答] (堀口)

脳神経系の発生・分化の分子メカニズムについて進化論的観点を持って分子解剖学的に学ぶ。

4-5. 神経系の再生の分子解剖学 [講義・質疑応答] (堀口)

ノーベル賞を受賞された山中伸弥教授が開発された人工万能細胞に代表されるように、再生医学の進歩は著しい。再生医療に関わるトピックスを紹介しながら、現状について分子解剖学的に学ぶ。

6-8. 感覚系の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚について、それぞれどのような分子メカニズムによって外界の刺激を受容するかについて分子解剖学的に学ぶ。

9-10. 情動の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

情動の鍵となる扁桃体における神経回路と分子メカニズムについて分子解剖学的に学ぶ。

11-12. 記憶学習の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

記憶学習の鍵となる海馬と大脳皮質の神経回路と分子メカニズムについて分子解剖学的に学ぶ。

13-14. 神経・精神疾患の分子解剖学 [講義・質疑応答] (瀧上)

パーキンソン病、ALS、アルツハイマー病、統合失調症、自閉症スペクトラム、などの疾患について学ぶと同時に、それぞれの原因に関する分子メカニズムについて分子解剖学的に学ぶ。

15. まとめ [講義・質疑応答] (瀧上)

これまでに学んだものから特に興味をもったテーマについて受講生自身がプレゼンテーションを行い、質疑応答を行い、理解を深める。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータを整理して検討し、資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習、復習など) は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (20%)

【備考】

【科目名】 神経病理学

【授業コード】 22H10112

【代表教員】 渡部 和彦

【授業概要】

神経系の疾患、特に神経変性疾患の病態解明と治療法の開発を研究する上で必要な形態学的、生化学的、薬理的、分子病理学的実験解析手法を詳説し、自立して研究できる能力を身につけることを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

神経系の疾患、特に神経変性疾患の病態解明と治療法の開発を研究する上で必要な形態学的、生化学的、薬理的、分子病理学的実験解析手法を学ぶ。

《個別目標 (SBOs) 》

①神経系の疾患、特に神経変性疾患の解析に必要な臨床神経病理学、組織細胞化学、超微形態学を理解し説明できる。

②神経系の疾患、特に神経変性疾患の解析に必要な生化学的実験手法を理解し説明できる。

- ③神経系培養細胞に対する薬剤や化合物を用いた薬理学的実験手法を理解し説明できる。
 ④神経系培養細胞に対する遺伝子導入・発現抑制法、組換えウイルス作製導入法などの分子生物学的実験手法を理解し説明できる。
 ⑤神経変性疾患齧歯類モデルに関する病態解析および治療法開発のための動物実験手法を理解し説明できる。

【授業計画】

- 1-3. 神経変性疾患の病理形態学 [講義・質疑応答]
 神経変性疾患の解析に必要な臨床神経病理形態学、組織細胞化学、超微形態学を学ぶ。
 4-6. 神経変性疾患の実験生化学 [講義・質疑応答]
 神経変性疾患の解析に必要な生化学の実験手法を学ぶ。
 7-8. 神経変性疾患の実験薬理学 [講義・質疑応答]
 神経系培養細胞に対する薬剤や化合物を用いた薬理学的実験手法を学ぶ。
 9-11. 神経変性疾患の実験神経細胞病理学 [講義・質疑応答]
 神経系培養細胞に対する遺伝子導入・発現抑制法、組換えウイルス作製導入法を学ぶ。
 12-14. 神経変性疾患の実験動物学 [講義・質疑応答]
 神経変性疾患モデル動物の病態解析法、治療実験手法を学ぶ。
 15. まとめ [講義・質疑応答]
 今回の講義内容をまとめる。
 (フィードバック方法) 前回の講義に関する試問と解説を講義冒頭で行う。

【準備学習】

- (予習)
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 (復習)
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(50%)、口頭試問(50%)

【備考】

【科目名】 腫瘍組織学

【授業コード】 22H10122

【代表教員】 新井田 素子

【授業概要】

近年の特に脳腫瘍領域の特徴を踏まえて腫瘍の発生と進展様式について、分子生物学および組織学などの科学的手法を用いて論文作成まで教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- ・専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

学習者は、腫瘍発生と進展結果による病態の理解ができるようになり、治療法などへ活用できる研究能力を修得することができます。

《個別目標 (SBOs)》

- ①腫瘍について十分に説明ができる。
- ②発癌機構について十分に説明ができる。
- ③転移浸潤について十分に説明ができる。
- ④治療について十分に説明ができる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]
 2. 主に脳腫瘍およびその他の腫瘍に関する最近の知見① [講義・質疑応答]
 主に脳腫瘍およびその他の腫瘍に関する最近の知見の講義
 3. 主に脳腫瘍およびその他の腫瘍に関する最近の知見② [講義・質疑応答]
 主に脳腫瘍およびその他の腫瘍に関する最近の知見の講義
 4. 主に脳腫瘍およびその他の腫瘍に関する最近の知見③ [講義・質疑応答]
 主に脳腫瘍およびその他の腫瘍に関する最近の知見の講義
 5. 関心領域の抽出方法とまとめ、背景の作成法① [講義・質疑応答]
 関心領域の抽出方法とまとめ、背景の作成法の講義
 6. 関心領域の抽出方法とまとめ、背景の作成法② [講義・質疑応答]
 関心領域の抽出方法とまとめ、背景の作成法の講義
 7. 実験計画の作成方法① [講義・質疑応答]
 実験計画の作成方法の講義
 8. 実験計画の作成方法② [講義・質疑応答]
 実験計画の作成方法の講義
 9. 実験の倫理および手技、手法に関して① [講義・質疑応答]
 実験の倫理および手技、手法についての講義
 10. 実験の倫理および手技、手法に関して② [講義・質疑応答]
 実験の倫理および手技、手法についての講義
 11. 実験結果の評価方法に関する解説① [講義・質疑応答]
 実験結果の評価方法に関する解説の講義
 12. 実験結果の評価方法に関する解説② [演習・質疑応答]
 実験結果の評価方法に関する解説の講義
 13. 研究課題の考察方法および論文引用の方法① [講義・質疑応答]
 研究課題の考察方法および論文引用の方法の講義
 14. 研究課題の考察方法および論文引用の方法② [講義・質疑応答]
 研究課題の考察方法および論文引用の方法の講義
 15. 研究をまとめる方法および発表、発信方法 [演習・質疑応答]
 研究をまとめる方法および発表、発信方法の講義
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習が不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分を必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

脳腫瘍に限らず、広く分子生物学的手法を用いた脳神経研究に興味のある学生を募集します。

【科目名】 計算科学

【授業コード】 22H10131

【代表教員】 田中 薫

【授業概要】

計算科学の概要を講義と演習で理解する。人工知能のベースとなる機械学習や創薬に期待される計算化学について、ワークステーションやスーパーコンピュータの実演を交えて講義する。さらに、数台から10台程度のコンピュータを用いて、分散コンピューティングの計算演習を行う。小規模のモンテカルロシミュレーションを題材として、システムの構築からコーディング、計算結果の評価までを行う。受講には、数学や統計学、LANの構築、Linux、C、Pythonについて経験があることが望ましい。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO)》

計算科学の概要と将来性について、講義と実演から学び理解する。また、HPCについて分散コンピューティングの演習から処理方法や課題について理解する。

《個別目標 (SBOs)》

分散コンピューティングの演習から計算の効率化について理解する。

【授業計画】

1. 計算科学概論 [講義・演習]
 計算科学について概説する。
2. 数理モデル [講義・演習]
 数理モデルについて概説する。
3. ML(機械学習) 1 [講義・演習]
 機械学習について概説する。
4. ML(機械学習) 2 [講義・演習]
 実装例を用いて概説する。
5. 計算化学 [講義・演習]
 計算化学について概説する。
6. HPCの概要 [講義・演習]
 HPCについて概説する。
7. メニューコアプロセッシング、ワークステーションの利用 [講義・演習]
 メニューコアプロセッシング、ワークステーションの利用について概説する。
8. OpenMPの利用 [講義・演習]
 OpenMP, OpenCLの利用について概説する。
9. 分散コンピューティング、スーパーコンピュータの利用 [講義・演習]
 分散コンピューティング、スーパーコンピュータの利用について概説する。
10. 分散コンピューティング演習(1) [講義・演習]
 ネットワークシステムを構築する。
11. 分散コンピューティング演習(2) [講義・演習]
 コーディングを行う。
12. 分散コンピューティング演習(3) [講義・演習]
 コーディングを行う。
13. 分散コンピューティング演習(4) [講義・演習]
 計算実験を行う。
14. 分散コンピューティング演習(5) [講義・演習]
 計算実験の評価を行う。
15. まとめ [講義・演習]
 まとめを行う。
 (フィードバック方法) 授業内試問のフィードバックは講義内で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. LANの構築、Linux、Pythonなどの基礎的な知識を復習しておくこと。

(復習)

- 1-15. 毎回の講義内容をまとめておくこと(下記項目参照)。

- A. コンピュータの基礎
- B. ネットワークの基礎、ネットワークプロトコル(SSH, FTPなど)
- C. 基礎的な数学、物理学、統計学
- D. プログラミング(C言語、Python)
- E. Linuxの取り扱い

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

課題(50%)、試験(50%)

【備考】

【科目名】 遺伝子解析技術
【授業コード】 22H10142
【代表教員】 相磯 聡子
【授業概要】

遺伝子およびその産物であるタンパク質の機能や構造の解明は、これらを対象とした様々な技術の発展が基盤となってなされてきた。本科目では従来から広く用いられてきた優れた解析技術に加え、ポストゲノム時代に確立したハイスループットな手法について、実験書をテキストとして原理とプロトコールの詳細を理解する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO) 》

遺伝子解析に関する基礎的技術、さらに多様な先端技術の原理と応用範囲、問題点を理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①各解析技術の原理を理解する。
- ②各解析技術の応用範囲と限界を理解する。
- ③各自の研究を発展的に展開するために、どのような技術を新たに用いるべきか考察することができる。

【授業計画】

1. 培養細胞、組織、血清からの核酸の抽出 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
試料の収集から核酸の抽出までを学ぶ。
2. 突然変異体遺伝子の作製法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
大腸菌を用いた変異遺伝子の作製を行う。
3. RACE 法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
RNAの末端配列を決定する方法を学ぶ。
4. トランスフェクション法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
培養細胞に外来遺伝子を導入する方法を学ぶ。
5. high resolution melting 法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
塩基置換の検出法を学ぶ。
6. ノザンプロット法、RT-PCR 法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
RNAの解析法を学ぶ。
7. リアルタイムPCR法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
核酸の定量法を学ぶ。
8. 培養細胞の特異的遺伝子ノックダウン法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
RNAi を利用した遺伝子の不活性化法を学ぶ。
9. 免疫沈降法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
抗体を用いたタンパク質の精製法を学ぶ。
10. ウェスタン法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
タンパク質の解析法を学ぶ。
11. ルシフェラーゼアッセイ [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
リポーター遺伝子を用いた解析法を学ぶ。
12. DNA マイクロアレイ法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
遺伝子発現の網羅的解析法を学ぶ。
13. 次世代シーケンサーと RNA の解析 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
次世代シーケンサーによる RNA のシーケンシング法について学ぶ。
14. ChIP-seq 法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
タンパク質結合領域の検出法を学ぶ。
15. メチル化 DNA の解析 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
DNA のメチル化領域の検出法を学ぶ。
(フィードバック方法) レポート (レジュメ) に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】 分子解剖学セミナー

【授業コード】 22H10152

【代表教員】 瀧上 周

【授業概要】

分子解剖学関連の原著論文の輪読を行う。受講者は自分が担当する論文の内容についてプレゼンテーションを行ない、その後、ディスカッションを全員で行なう。この演習を通じて、科学論文を批判的に読む (critical reading) 能力を身につけ、さらにプレゼンテーションスキルとディスカッションスキルを向上させる。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO) 》

科学原著論文を正確に理解できるだけでなく、批判的に読む (critical reading) 能力を身につけ、さらにプレゼンテーションスキルとディスカッションスキルを向上させる。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①科学原著論文を正確に理解できるようになるとともに、さらに批判的に読む能力を養成する。
- ②科学原著論文を正確にかつ批判的にプレゼンテーションできる能力を養成する。

- ③質疑応答を通して、尋ねる側と答える側の両方の立場になって、議論できる能力を養成する。

【授業計画】

- 1-3. 脳神経系の発生・分化の分子解剖学に関連した原著論文の輪読 [演習]
脳神経系の発生・分化の分子メカニズムに関する最新の原著論文を輪読し正確に内容を理解するとともに、批判的に読む訓練を行う。
- 4-5. 神経系の再生の分子解剖学に関連した原著論文の輪読 [演習]
特に再生医療に関する最新の原著論文を輪読し、批判的に読む訓練を行う。
- 6-8. 感覚系の分子解剖学に関連した原著論文の輪読 [演習]
視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の分子メカニズムに関する最新の原著論文を輪読し正確に内容を理解するとともに、批判的に読む訓練を行う。
- 9-10. 情動の分子解剖学に関連した原著論文の輪読 [演習]
情動の鍵となる扁桃体における神経回路と分子メカニズムに関する最新の原著論文を輪読し正確に内容を理解するとともに、批判的に読む訓練を行う。
- 11-12. 記憶学習の分子解剖学に関連した原著論文の輪読 [演習]
記憶学習の鍵となる海馬と大脳皮質の神経回路と分子メカニズムに関する最新の原著論文を輪読し正確に内容を理解するとともに、批判的に読む訓練を行う。
- 13-14. 神経・精神疾患の分子解剖学に関連した原著論文の輪読 [演習]
パーキンソン病、ALS、アルツハイマー病、統合失調症、自閉症スペクトラムなどのそれぞれの原因の分子メカニズムに関する最新の原著論文を輪読し正確に内容を理解するとともに、批判的に読む訓練を行う。
15. まとめ [演習]
これまでに学んだものから特に興味をもったテーマに関する原著論文を選んで受講生自身が論文の内容についてプレゼンテーションを行い、質疑応答を行い、理解を深める。(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の輪読で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータを整理して検討し、資料を作成すること。
(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習、復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (20%)

【備考】

【科目名】 免疫学セミナー

【授業コード】 22H10162

【代表教員】 田口 晴彦

【授業概要】

最新の免疫学に関する話題を提供しその意義、機能や役割などについて教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
《一般目標 (GIO) 》
免疫に関する論文を読み、理解できる。
《個別目標 (SBOs) 》
①提供される論文の意義が理解できる。
②論理の展開と解析手法が理解できる。
③データ解析法とその意義が理解できる。

【授業計画】

- 1-4. Principles of innate and adaptive immunity に関する総説について精読する。 [演習]
自然免疫と適応免疫について学ぶ。
- 5-7. The effector mechanisms of adaptive immunity に関する総説について精読する。 [演習]
適応免疫について学ぶ。
- 8-10. The front line of host defense に関する総説について精読する。 [演習]
免疫学の最新論文を読み理解する。
- 11-13. Journal of Immunology 掲載論文について精読する。 [演習]
Journal of Immunology 掲載論文を選出し、その研究内容について学ぶ。
14. Infection and Immunity 掲載論文について精読する。 [演習]
Infection and Immunity 掲載論文を選出し、その研究内容について学ぶ。
15. Journal of Infectious Diseases 掲載論文について精読する。 [演習]
Journal of Infectious Diseases 掲載論文を選出しその研究内容について学ぶ。
(フィードバック方法) 課題についてのフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 予め指定した英文論文を理解しておくこと。
(復習)
- 1-15. 毎回の授業内容をまとめておくこと。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】神経生物学セミナー

【授業コード】22H10171 22H10172

【代表教員】田中 浩輔 【担当教員】伊藤 慎

【授業概要】

神経生物学関連の原著論文の精読を行い、科学的論理形成の方法を学ぶ。また精読した内容は、各自プレゼンテーションを行う。また、各プレゼンテーションに対して参加者全員でのディスカッションを行う。この演習を通じて、論文のクリティカルリーディングの能力を養成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

関連分野の英文科学論文から正しく情報を読み取る。また、クリティカルリーディングを行えるようにすることで、論文にあるオリジナリティーを正しく理解し、かつ問題点を見極める能力を養う。また、参加者全員でのディスカッションによりディスカッション技術を向上させる。《個別目標 (SBOs) 》

①神経生物学分野の英語論文を正しく理解できる。

②論文の持つオリジナリティーを正しく理解できる。

③論文の問題点を正しく批評できる。

④適切なプレゼンテーションを行うことができる。

⑤自分の意見を論理的に話すことができる。

【授業計画】

1-5. 論文精読 (1) 【講義・質疑応答】 (田中、伊藤)

運動制御系神経経路に関する論文を精読する。

6-7. 精読論文 (1) のプレゼンテーションとディスカッション (1)

【プレゼンテーション・質疑応答】 (田中、伊藤)

精読してきた論文の内容をプレゼンテーションし、参加者と討論する。

8-12. 論文精読 (1) 【講義・質疑応答】 (田中、伊藤)

中枢神経回路の比較生体生化学に関する論文を精読する。

13. 精読論文 (2) のプレゼンテーションとディスカッション (2)

【プレゼンテーション・質疑応答】 (田中、伊藤)

精読してきた論文の内容をプレゼンテーションし、参加者と討論する。

14. ディスカッション (3) 【講義・質疑応答】 (田中、伊藤)

他の参加者の発表する論文のディスカッションを行う。

15. まとめ 【講義・質疑応答】 (田中、伊藤)

これまでの読んだ論文の構成、内容、討論の論点などをまとめ、ポートフォリオを作成する。

(フィードバック方法) 毎回セミナーの冒頭で前回のまとめを行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション (20%)、口頭試問 (40%)、レポート (40%)

【備考】

適宜 論文を提示する

参考書:「カandel神経科学」金澤一郎、宮下 保司 監訳、ISBN-13 : 978-4895927710、メディカルサイエンスインターナショナル

【科目名】応用免疫学セミナー

【授業コード】22H10182

【代表教員】宮澤 博

【授業概要】

イムノアッセイを利用した超高感度測定法について取り上げる。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

《一般目標 (GIO) 》

イムノアッセイによる高感度検出法を確立するための方法論を理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

①抗原測定のための各種イムノアッセイの原理と特性について述べられる。

②抗原や抗体の精製法と標識法を理解する。

③サンドイッチ ELISA による抗原測定法を構築するためのポイントと説明できる。

④逆サンドイッチ ELISA による抗体測定法を構築するためのポイントと特性を説明できる。

⑤ラテラルフローイムノアッセイによる抗原検出法について説明できる。

【授業計画】

1. イムノアッセイの原理と応用 【講義・質疑応答】

各種イムノアッセイの原理と特性の違いを理解する。

2. イムノアッセイ構築にあたっての抗体の選択 【講義・質疑応答】

高親和性抗体の選択の必要性和選択方法について理解する。

3. 抗体や抗原の精製法 【講義・質疑応答】

抗体や抗原の精製の方法と精製度確認について。

4. 抗体や抗原の標識方法 【講義・質疑応答】

ELISA に用いる酵素やビオチンの標識方法について。

5. 測定法確立にあたって検討すべき項目 【講義・質疑応答】

各種分析パラメーターの意味と検討方法について。

6. 各種分析パラメーターの算出 【講義・質疑応答】

実測値を用いて、室内精度、偏り、直線性、特異性、検出限界 (DL) および定量限界 (QL) を算出する。

7-8. サンドイッチ ELISA の構築 【講義・質疑応答】

抗体固相化時の注意点、抗体濃度の選び方と非特異反応の抑制法について。

9. サンドイッチ ELISA による抗原測定の実例 【講義・質疑応答】

室内環境中ダニアレルゲンの測定および個人曝露量評価について。

10-11. 逆サンドイッチ ELISA の構築 【講義・質疑応答】

抗原固相化の方法、酵素標識抗原の使用希釈の決め方。抗体検出特性について。

12. 逆サンドイッチ ELISA の実用例 【講義・質疑応答】

応用例を説明し、利点と限界について学ぶ。

13-14. ラテラルフローイムノアッセイ 【講義・質疑応答】

POCT に多用されるラテラルフローイムノアッセイの原理、影響する因子および特性について。

15. イムノアッセイの原理と応用に関するプレゼンテーション

【プレゼンテーション・質疑応答】

Monovalent 抗原を定量するためのイムノアッセイについてプレゼンする。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (20%)

【備考】

【科目名】細胞診・病理セミナー

【授業コード】22H10192

【代表教員】大河戸 光章

【授業概要】

免疫組織学および分子生物学的手法解析に基づいた細胞診の研究および現在話題になっている新しい技術や理論についての研究に関連した論文を精読する細胞診の確立に貢献した過去の研究および現在話題になっている新しい技術や理論についての研究に関連した論文を精読する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO) 》

英語原著論文の読解力を高めることにより、医療の中で応用されている細胞診診断学、免疫組織学、分子生物学の包括的理解を得ると共に、現在の問題点を把握する。

《個別目標 (SBOs) 》

①論文の内容を正確に理解する。

②論旨の展開法を理解する。

③技術の応用法を修得する。

【授業計画】

1-6. 学術論文の精読 【プレゼンテーション】

免疫組織学および分子生物学的手法を用いた細胞診に関する論文を精読する。

7-14. 学術論文の精読 【プレゼンテーション】

現在話題になっている新しい方法、理論に関する論文を精読する。

15. 総合討論 【討論】

1-14 の内容で特に重要と考えられる内容について討論する。

(フィードバック方法) レポート (レジюме) に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、レポート(50%)

【備考】

【科目名】生体分子検査学セミナー(1)

【授業コード】22H10202

【代表教員】相磯 聡子

【授業概要】

生体分子、特に核酸の情報に基づく診断法、治療薬への反応性や易罹患者の解析法の確立に貢献した過去の研究および現在話題になっている新しい技術や理論についての研究に関連した論文を精読する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標(GIO)》

英語原著論文の読解力を高めることにより、医療の中で応用されている分子生物学、分子遺伝学の包括的理解を得ると共に、現在の問題点を把握する。

《個別目標(SBOs)》

- ①論文の内容を正確に理解する。
- ②論旨の展開法を理解する。
- ③技術の応用法を修得する。

【授業計画】

- 1-6. 学術論文の精読 [プレゼンテーション]
分子生命科学の発展に重要な貢献を果たした論文を精読する。
- 7-14. 学術論文の精読 [プレゼンテーション]
現在話題になっている新しい方法、理論に関する論文を精読する。
- 15. 総合討論 [討論]
1-14の内容で特に重要と考えられる内容について討論する。
(フィードバック方法) レポート(レジュメ)に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-14. 精読する論文を事前に指示するのでその内容をまとめたレジュメを作成する。
15. 14回目までに読んだ論文を見直しておく。
(復習)
- 1-14. 使用した論文の参考文献のうち重要なものを選び、必要な情報を取得する。
15. ノートを見直しておく。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、レポート(50%)

【備考】

【科目名】生体分子検査学セミナー(2)

【授業コード】22H10211

【代表教員】八巻 明子

【授業概要】

生体分子に関連する総説や原著論文を読み、俯瞰した広い視点から課題について議論する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標(GIO)》

論文の論点を理解し説明できる。

《個別目標(SBOs)》

自分に必要な情報収集ができる。

【授業計画】

- 1-4. 糖質に関する総説や原著論文の輪読 [講義・質疑応答]
- 5-8. タンパク質に関する総説や原著論文の輪読 [講義・質疑応答]
- 9-12. 遺伝子に関する総説や原著論文の輪読 [講義・質疑応答]
- 13-15. 各自で興味を持った生体分子に関連する総説や原著論文のプレゼンテーション [講義・質疑応答]

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(50%)、口頭試問(50%)

【備考】

【科目名】特別研究I

【授業コード】22H11A1 22H11A2

【代表教員】相磯 聡子

【授業概要】

がんの診断における血中マイクロRNAを研究テーマとし、研究の背景を把握し、研究課題の選定、研究方針の決定を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標(GIO)》

- 生命科学分野の研究において、研究計画を作成するために必要なあらゆる能力を身につける。
- 《個別目標(SBOs)》
- ①国内外の当該研究の現状を把握する。
- ②適切な実験方法を選択することができる。
- ③研究倫理に関する事項に適切に対応することができる。
- ④研究計画書を作成することができる。
- ⑤関連する技術を修得する。

【授業計画】

- 1-6. 関連研究の文献調査 [調査]
- 7-12. 研究方法の検討 [調査]
- 13-16. 研究計画書の作成 [演習]
- 17-19. 実験の準備 [演習]
- 20-28. 予備実験の実施 [演習]
- 29-30. データ解析 [演習]

(フィードバック方法) レジュメや計画書案などに対するフィードバックは次回に行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

博士後期課程の講義などとのスケジュール調整を行う。適宜、打ち合わせのためのレジュメや計画書案などを作成する。

【科目名】特別研究I

【授業コード】22H11B1 22H11B2

【代表教員】岡田 洋二

【授業概要】

この特別研究では、
①研究テーマを決定するための文献調査方法と実験計画の立案方法
②実際の実験などから得られたデータの収集方法
③実験結果を生かした論文作成方法
について教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

【授業計画】

- 1-3. 文献調査方法 [演習]
研究テーマに関連する研究論文（国内・国外）の探索方法について指導・実践する。
- 4-6. 実験計画方法 [演習]
研究テーマに沿った実験のスケジュール・プロトコルについて指導・実践する。
7. 実験系における実験ノートの作成方法 [演習]
実験結果の記載方法について指導・実践する。
- 8-12. 研究テーマに関する最新論文紹介 [演習]
研究テーマに関連する研究論文（国内・国外）の紹介を、パワーポイントを使用して実践する。
- 13-27. 論文作成方法 [演習]
研究成果の収集・整理方法、学術論文構成方法などについて指導・実践する。
- 28-30. 学会発表方法 [演習]
研究成果の発表（口頭・ポスター）方法について指導・実践する。
（フィードバック方法）演習に対するフィードバックは、次回授業で行う。

【準備学習】

- （予習）
- 1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
（復習）
 - 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間（予習復習など）は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問（30%）、論文（70%）

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H11C1 22H11C2

【代表教員】坪下 幸寛

【授業概要】

博士論文作成に向けて、研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - ・専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標（GIO）》

研究課題を明確にする。

《個別目標（SBOs）》

- ①興味の対象を抽出することができる。
- ②関連論文を抽出することができる。
- ③研究手法を明確にすることができる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
興味の対象を明らかにする。
- 9-16. 関連文献の検討 [演習]
関連論文、先行研究について理解する。
- 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
関連論文、先行研究の研究手法について理解する。
- 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
研究テーマを決定し、その研究計画を作成する。
（フィードバック方法）課題についてのフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- （予習）
- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
（復習）
 - 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間（予習復習など）は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問（50%）、研究計画書（50%）

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H11D1 22H11D2

【代表教員】田中 浩輔

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 - ・先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
- 9-16. 関連文献の検討 [演習]
- 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
- 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
（フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

（予習）

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
（復習）
 - 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間（予習復習など）は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問（50%）、研究計画書（50%）

【備考】

博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程の調整をする。ゼミ前日までにレジメと文献のコピーを指導教員に提出する。

適宜 関連論文を提示する

参考書：「カンデル神経科学」金澤一郎、宮下 保司 監訳、ISBN-13：978-4895927710、メディカルサイエンスインターナショナル

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H11E1 22H11E2

【代表教員】島田 厚良

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 - ・先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標（GIO）》

脳と免疫系の相互作用について理解する。

《個別目標（SBOs）》

敗血症のような全身性炎症によって脳組織微小環境が変容する際の分子・細胞レベルでの事象を研究する方法論を理解する。

【授業計画】

1. 研究倫理：研究活動における不正行為（捏造・改ざん・盗用その他の不正行為全体）について知り、自らが不正をしない規律を身につける。 [演習]
- 2-8. 研究テーマの検討 [演習]
自分の明らかにしたい研究テーマの概要を構想する。
- 9-16. 関連文献の検討 [演習]
想定した研究テーマに関連した文献を精読し、想定研究テーマをより明確にする。
- 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
研究テーマを遂行する上での必要技術の確認を行い、方法論を検討する。

21-30. 研究計画書の作成 [演習]
これまでの検討を踏まえ、研究テーマの決定、詳細な研究計画書を作成する。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 I

【授業コード】 22H1T1F1 22H1T1F2

【代表教員】 山田 慎

【授業概要】

学位論文作成に向けて自らの研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

≪一般目標 (GIO) ≫

研究課題を明確にして、研究計画を作成する。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

9-16. 関連文献の検討 [演習]

17-20. 研究方法の検討 [演習]

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理や検討をして、必要な資料を準備、作成すること。

(復習)

1-30. 演習内容をまとめ、手法や意義を理解・再検討すること。

学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 I

【授業コード】 22H1T1G1 22H1T1G2

【代表教員】 滝 智彦

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

≪一般目標 (GIO) ≫

研究課題を明確にする。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①興味の対象を抽出することができる。

②関連論文を抽出することができる。

③研究方法を明確にすることができる。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

興味の対象を明らかにする。

9-16. 関連文献の検討 [演習]

関連論文、先行研究について理解する。

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

関連論文、先行研究の研究手法について理解する。

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

研究テーマを決定し、その研究計画を作成する。

(フィードバック方法) 課題についてのフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

博士論文の研究テーマ決定に当たっては、関連論文、先行研究の十分な理解が必要であり、十分な授業外学習をすることが望ましい。

【科目名】 特別研究 I

【授業コード】 22H1T1H1 22H1T1H2

【代表教員】 大森 拓哉

【授業概要】

高度情報化の現代の社会の中で、情報を的確に収集・分析することは必要不可欠である。本講義では人間行動の調査の方法の習得・データの収集・分析といった一連の流れを経験し、体得することを目的とする。同時に、人間行動のシミュレーションをプログラムを作成することによって行う。最終的には、心理学、統計学、プログラミングの知識と技法を体得し、人間行動の理解とモデリング全般が行えることを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行

い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション

能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

≪一般目標 (GIO) ≫

データサイエンスの体系的な理解、および人間行動理解のための心理学的な知識を習得する。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①データ分析に必要なプログラミングができる。(技能)

②人間行動分析のための理論を説明できる。(知識)

③データ分析に必要な数理モデルを作成できる。(技能)

【授業計画】

1-3. 研究テーマの検討 [演習]

4-6. 先行研究の検索と分析 [演習]

7-10. 研究計画の作成 [演習]

11-21. 研究の実施 [演習]

22-25. 結果の解析と考察 [演習]

26-28. 論文の作成 [演習]

29-30. プレゼンテーションの準備と発表 [演習・プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 演習に対するフィードバックは、次回の授業で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理や検討をして必要な資料を準備、作成すること。

(復習)

1-30. 演習内容をまとめ、手法や意義を理解・再検討すること。

学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、論文・プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 II

【授業コード】 22H1T2A1 22H1T2A2

【代表教員】 相磯 聡子

【授業概要】

がんの診断における血中マイクロ RNA を研究テーマとする。研究計画書に基づいて実験を行い、問題点を解決しつつ、研究を展開することができるよう指導する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

研究計画に基づいて実験を行い、その結果に基づいて研究を展開することができる。

《個別目標 (SBOs)》

- ①適切な方法を用い実験をすることができる。
- ②実験機器、試薬などを適切に使用および管理することができる。
- ③研究倫理に配慮しつつ研究を行うことができる。
- ④実験データを適切に処理することができる。
- ⑤問題点を分析し解決することができる。

【授業計画】

- 1-2. 予備実験結果の考察 [演習]
- 3-4. 中間報告 [プレゼンテーション]
- 5-6. 実験計画の修正 [演習]
- 7-13. 確認実験の実施 [演習]
- 14-15. データ解析 [演習]

(フィードバック方法) レジュメや計画書案などに対するフィードバックは次回に行う。研究の進捗状況を研究報告会において発表し(3-4 コマ目)、関連する教員の助言を参考に必要に応じ研究計画の修正を行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。適宜、データ整理、調査、報告書の作成などを行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H1T2B1 22H1T2B2

【代表教員】岡田 洋二

【授業概要】

- この特別研究では、①研究テーマを決定するための文献調査方法と実験計画の立案方法
- ②実際の実験などから得られたデータの収集方法
- ③実験結果を生かした論文作成方法について教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

【授業計画】

- 1-2. 文献調査方法 [演習]
研究テーマに関連する研究論文(国内・国外)の探索方法について指導・実践する。
- 3-4. 実験計画方法 [演習]
研究テーマに沿った実験のスケジュール・プロトコールについて指導・実践する。
5. 実験系における実験ノート作成方法 [演習]
実験結果の記載方法について指導・実践する。
- 6-9. 研究テーマに関する最新論文紹介 [演習]
研究テーマに関連する研究論文(国内・国外)の紹介を、パワーポイントを使用して実践する。
- 10-13. 論文作成方法 [演習]
研究成果の収集・整理方法、学術論文構成方法などについて指導・実践する。
- 14-15. 学会発表方法 [演習]
研究成果の発表(口頭・ポスター)方法について指導・実践する。
(フィードバック方法) 演習に対するフィードバックは、次回授業で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(30%)、論文(70%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H1T2C1 22H1T2C2

【代表教員】坪下 幸寛

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法指導する。倫理審査が必要な場合は、倫理審査が受けられるように指導する。さらに、研究が適切に進められるよう指導を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

具体的な研究方法を明確にし、遂行する。

《個別目標 (SBOs)》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表できる。

【授業計画】

- 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
特別研究Iで作成された研究テーマを確認し、研究概要をまとめる。
- 3-5. 研究方法の検討 [演習]
具体的な研究手法について検討する。
- 6-10. 文献検索 [演習]
最新文献を参考にし、研究を遂行する。
- 11-13. 研究の遂行 [演習]
研究を遂行する。
- 14-15. プレゼンテーションの準備 [演習]
研究内容の中間まとめを行い、発表できるように準備する。
(フィードバック方法) 課題が有る場合は、次回の講義で説明し、フィードバックする。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H1T2D1 22H1T2D2

【代表教員】田中 浩輔

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

適宜 関連論文を提示する

参考書:「カンデル神経科学」金澤一郎、宮下 保司 監訳、ISBN:13: 978-4895927710、メディカルサイエンスインターナショナル

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H1T2E1 22H1T2E2

【代表教員】島田 厚良

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標(GIO)》

内部疾患の病態および薬物療法について理解する。特に臓器移植に関しては、移植治療の概要と免疫抑制剤の副作用を理解する。

《個別目標(SBOs)》

造血幹細胞移植前後の理学療法に関して理解する。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-9. 文献検索 [演習]

10-13. 実験 [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H1T2F1 22H1T2F2

【代表教員】山田 慎

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法が立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標(GIO)》

研究課題を明確にして、研究計画を作成する。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-7. 文献検索 [演習]

8-13. 実験 [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理や検討をして、必要な資料を準備作成すること。

(復習)

1-15. 演習内容をまとめ、手法や意義を理解・再検討すること。学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H1T2G1 22H1T2G2

【代表教員】滝 智彦

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法指導する。倫理審査が必要な場合は、倫理審査が受けられるように指導する。さらに、研究が適切に進められるよう指導を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標(GIO)》

具体的な研究方法を明確にし、遂行する。

《個別目標(SBOs)》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表できる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

特別研究Iで作成された研究テーマを確認する。

3-5. 研究方法の検討 [演習]

具体的な研究手法について検討する。

6-10. 文献検索 [演習]

最新文献を参考にし、研究を遂行する。

11-13. 研究の遂行 [演習]

研究を遂行する。

14-15. プレゼンテーションの準備 [演習]

研究内容の中間まとめを行い、発表できるように準備する。
(フィードバック方法) 課題が有る場合は、次の講義で説明し、フィードバックする。
【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究II
【授業コード】 22H1T2H1 22H1T2E2
【代表教員】 大森 拓哉
【授業概要】

高度情報化の現代の社会の中で、情報を的確に収集・分析することは必要不可欠である。本講義では人間行動の調査の方法の習得・データの収集・分析といった一連の流れを経験し、体得することを目的とする。同時に、人間行動のシミュレーションをプログラムを作成することによって行う。最終的には、心理学、統計学、プログラミングの知識と技法を体得し、人間行動の理解とモデリング全般が行えることを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標(GIO)》
データサイエンスの体系的な理解、および人間行動理解のための心理学的な知識を習得する。
《個別目標(SBOs)》
①データ分析に必要なプログラミングができる。(技能)
②人間行動分析のための理論を説明できる。(知識)
③データ分析に必要な数理モデルを作成できる。(技能)

【授業計画】
1-3. 研究テーマの検討 [演習]
4-6. 先行研究の検索と分析 [演習]
7-10. 研究計画の作成 [演習]
11-21. 研究の実施 [演習]
22-25. 結果の解析と考察 [演習]
26-28. 論文の作成 [演習]
29-30. プレゼンテーションの準備と発表 [演習・プレゼンテーション]
(フィードバック方法) 演習に対するフィードバックは、次の授業で行う。

【準備学習】
(予習)
1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理や検討をして必要な資料を準備、作成すること。
(復習)
1-30. 演習内容をまとめ、手法や意義を理解・再検討すること。学習の不足している点については補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(50%)、論文・プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 特別研究III
【授業コード】 22H1T3A1 22H1T3A2
【代表教員】 相磯 聡子
【授業概要】

特別研究IIIでは、特別研究IIの研究報告会で指摘された問題点を含め、研究遂行上の問題点を解決し、研究論文にまとめることができるように指導する。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
《一般目標(GIO)》

研究遂行上の問題点を解決し、研究論文を作成することができる。

【授業計画】
1-2. データの確認 [演習]
3-4. 研究結果の分析と考察 [演習]
5-6. 論文内容、構成の検討 [演習]
7-13. 論文作成 [演習]
14-15. 研究報告 [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) レジューメや計画書案などに対するフィードバックは次回に行う。
研究成果を研究報告会において発表する。関連する教員の助言を参考に論文に修正を加え、博士論文として十分な学術的価値をもったものにする。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。適宜、データの確認、文献調査などを行う。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究III
【授業コード】 22H1T3B1 22H1T3B2
【代表教員】 岡田 洋二
【授業概要】

この特別研究では、
①研究テーマを決定するための文献調査方法と実験計画の立案方法
②実際の実験などから得られたデータの収集方法
③実験結果を生かした論文作成方法
について教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

【授業計画】
1-2. 文献調査方法 [演習]
研究テーマに関連する研究論文(国内・国外)の探索方法について指導・実践する。

3-4. 実験計画方法 [演習]
研究テーマに沿った実験のスケジュール・プロトコールについて指導・実践する。
5. 実験系における実験ノートの作成方法 [演習]
実験結果の記載方法について指導・実践する。

6-9. 研究テーマに関する最新論文紹介 [演習]
研究テーマに関連する研究論文(国内・国外)の紹介を、パワーポイントを使用して実践する。

10-13. 論文作成方法 [演習]
研究成果の収集・整理方法、学術論文構成方法などについて指導・実践する。
14-15. 学会発表方法 [演習]
研究成果の発表(口頭・ポスター)方法について指導・実践する。
(フィードバック方法) 演習に対するフィードバックは、次回授業で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(30%)、論文(70%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ
【授業コード】22H1T3C1 22H1T3C2
【代表教員】坪下 幸寛
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。

《個別目標 (SBOs) 》

博士論文として十分な学術的価値を持ったものにできる。

【授業計画】

1. 研究内容の再検討、整理 [演習]

研究内容について再検討する。

2-3. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

研究内容をブラッシュアップする。

4-12. 論文構成、内容整理 [演習]

論文を作成し、更生および内容について検討する。

13. 論文作成、討議 [演習]

論文内容のブラッシュアップを行う。

14-15. プレゼンテーション [演習]

研究内容を発表できるように準備する。

(フィードバック方法) 課題がある場合は、次回の講義で説明フィードバックする。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ
【授業コード】22H1T3D1 22H1T3D2
【代表教員】田中 浩輔
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-12. 論文作成、討議 [演習]

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(20%)、論文(50%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

適宜関連論文を提示する

参考書:「カンデル神経科学」金澤一郎、宮下 保司 監訳、ISBN-13: 978-4895927710、メディカルサイエンスインターナショナル

【科目名】特別研究Ⅲ
【授業コード】22H1T3E1 22H1T3E2
【代表教員】島田 厚良
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO) 》

内部疾患の病態および薬物療法について理解する。特に臓器移植に関しては、移植治療の概要と免疫抑制剤の副作用を理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

造血幹細胞移植前後の理学療法に関して理解する。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-12. 論文作成、討議 [演習]

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ
【授業コード】22H1T3F1 22H1T3F2
【代表教員】山田 慎
【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

実験結果を正しく解析・考察し、学術論文を作成する。

【授業計画】

1-3. 研究内容の整理、再検討 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-13. 論文作成、討議 [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理や検討をして、必要な資料を準備作成すること。

(復習)

1-15. 演習内容をまとめ、手法や意義を理解・再検討すること。学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(30%)、プレゼンテーション(30%)、論文(40%)

【備考】

【科目名】特別研究III

【授業コード】22HIT3G1 22HIT3G2

【代表教員】滝 智彦

【授業概要】

特別研究IIIでは、特別研究IIの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

特別研究IIと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。

《個別目標 (SBOs) 》

博士論文として十分な学術的価値を持ったものができる。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

研究内容について再検討する。

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

研究内容をブラッシュアップする。

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

論文を作成し、更生および内容について検討する。

10-12. 論文作成、討議 [演習]

論文内容のブラッシュアップを行う。

13-15. プレゼンテーション [演習]

研究内容を発表できるように準備する。

(フィードバック方法) 課題が有る場合は、次回の講義で説明フィードバックする。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究III

【授業コード】22HIT3H1 22HIT3H2

【代表教員】大森 拓哉

【授業概要】

高度情報化の現代の社会の中で、情報を的確に収集・分析することは必要不可欠である。本講義では人間行動の調査の方法の習得・データの収集・分析といった一連の流れを経験し、体得することを目的とする。同時に、人間行動のシミュレーションをプログラムを作成することによって行う。最終的には、心理学、統計学、プログラミングの知識と技法を体得し、人間行動の理解とモデリング全般が行えることを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行

い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO) 》

データサイエンスの体系的な理解、および人間行動理解のための心理学的な知識を習得する。

《個別目標 (SBOs) 》

①データ分析に必要なプログラミングができる。(技能)

②人間行動分析のための理論を説明できる。(知識)

③データ分析に必要な数理モデルを作成できる。(技能)

【授業計画】

1-3. 研究テーマの検討 [演習]

4-6. 先行研究の検索と分析 [演習]

7-10. 研究計画の作成 [演習]

11-21. 研究の実施 [演習]

22-25. 結果の解析と考察 [演習]

26-28. 論文の作成 [演習]

29-30. プレゼンテーションの準備と発表 [演習・プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 演習に対するフィードバックは、次回の授業で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理や検討をして必要な資料を準備、作成すること。

(復習)

1-30. 演習内容をまとめ、手法や意義を理解・再検討すること。学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、論文・プレゼンテーション(50%)

【備考】

保健学専攻 博士後期課程

保健学・救急救命学分野

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【保健学・救急救命学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ	
				春	秋	夜間	土曜							
保 健 学 ・ 救 急 命 学	疫学	照屋 浩司	2	○		○	×	★	★	★	★	★	248	
	養護教育学	大嶺 智子	2	○		○	×	★		★		★	248	
	心理学	下島 裕美	2	○		×	○	★		★			248	
	人類生態学	出嶋 靖志	2	○	○	○	×	★	★			★	249	
	産業保健学	岡本 博照	2	○		×	×	★	★	★	★		249	
	保健福祉学	片桐 朝美	2	○		×	×	★	★	★	★	★	250	
	臨床心理学	中島 亨	2	○		○	×	★	★	★	★	★	250	
	保健学特別講義 I	休講												
	保健学特別講義 II	休講												
	疫学セミナー	照屋 浩司	2		○	○	×	★	★	★	★			250
	環境問題演習	出嶋 靖志	2	○	○	○	×	★	★	★	★	★	251	
	保健科教材研究	大嶺 智子	2		○	○	×	★		★		★	251	
	養護実践学A	亀崎 路子	2	○		×	×	★	★	★			252	
	養護実践学B	亀崎 路子	2		○	×	×	★	★	★			252	
	養護実践学セミナー	亀崎 路子	2		○	×	×	★	★	★			252	
	保健学特別演習 I	休講												
	保健学特別演習 II	休講												
	心肺蘇生法演習	山田 賢治	2	○		×	×	★	★	★				253
	救急病態学	玉田 尚	2	○		×	×	★	★	★				253
	救急救命学特別講義 I	堀淵 志穂里	2	○		×	×	★		★				253
救急救命学特別講義 II	松岡 弘芳	2	○		×	×	★		★				253	
災害医学セミナー	山田 賢治	2	○		×	×	★	★	★				254	
外傷セミナー	玉田 尚	2	○		×	×	★	★	★				254	
救急救命学特別演習 I	休講													
救急救命学特別演習 II	休講													
特別研究 I	亀崎 路子	4	○	○	—	—				★	★	★	254	
特別研究 I	下島 裕美	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★		255	
特別研究 I	樽井 武彦	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★		255	
特別研究 I	山田 賢治	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★		255	
特別研究 I	松岡 弘芳	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★		256	
特別研究 II	亀崎 路子	2	○	○	—	—		★	★	★	★		256	
特別研究 II	下島 裕美	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★		256	
特別研究 II	樽井 武彦	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★		257	
特別研究 II	山田 賢治	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★		257	

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【保健学・救急救命学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
救 保 急 健 救 学 命 学 学	特別研究Ⅱ	松岡 弘芳	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	257
	特別研究Ⅲ	亀崎 路子	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	258
	特別研究Ⅲ	下島 裕美	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	258
	特別研究Ⅲ	樽井 武彦	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	258
	特別研究Ⅲ	山田 賢治	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	259
	特別研究Ⅲ	松岡 弘芳	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	259

【保健学専攻 保健学・救急救命学分野 博士後期課程 履修モデル】
★保健学領域の教育・研究者を目指す大学院生の履修例

- ・主科目として、保健学・救急救命学分野の科目うち、専門分野である保健学に関する科目を5科目と特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する。(18単位)
- ・副科目として、看護学専攻に配置されている統計学Ⅰと統計学Ⅱを履修する。(4単位)

修了要件 (20単位以上)								
科目と単位		1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター	5 セメスター	6 セメスター	計
主科目	専門分野科目	保健福祉学 2	保健科教材研究 2	養護教育学 2	養護実践学セミナー 2	養護実践学A 2		18
	特別研究	特別研究Ⅰ (通年) 2	特別研究Ⅰ (通年) 2		特別研究Ⅱ 2		特別研究Ⅲ 2	
主科目小計		4	4	2	4	2	2	
副科目	他専攻／他専門分野科目	統計学Ⅰ 2	統計学Ⅱ 2					4
	副科目小計	2	2	0	0	0	0	
合計		6	6	2	4	2	2	22

【科目名】疫学

【授業コード】22H20011

【代表教員】照屋 浩司

【授業概要】

疫学とは、「もの考え方」の理論であり、すべての分野の研究は、その吟味の対象であるといえる。各自の研究に関連する分野から題材を得て、疫学的視点から論じることにより、それぞれの分野における研究の質を高めることを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

自身の研究や文献の抄読に役立てるために、疫学の基本およびやや高度な考え方や手法を理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

①疫学的なものの考え方について理解する。

②演習を通して、疫学的な思考を実践し、疫学的手法への理解を深める。

【授業計画】

1-2. 疫学研究方法 (2回) [講義・演習・質疑応答]

さまざまな疫学研究方法の詳細について理解する。

3-4. 疫学指標と危険度の考え方 (2回) [講義・演習・質疑応答]

相対危険度、オッズ比、寄与危険度、寄与危険割合、集団寄与危険割合など、危険度の考え方を理解する。

5-6. 統計学的解析の基礎 (2回) [講義・演習・質疑応答]

変数の尺度、質的・量的データの要約方法、二変数間の関連について検討するためのやや高度な統計解析手法について理解する。

7. 因果関係とは [講義・演習・質疑応答]

曝露と帰結の3つのパターンを理解し因果関係を判定するための着眼点について学ぶ。

8. 疫学研究に伴う誤差 [講義・演習・質疑応答]

疫学研究で注意すべき選択バイアス、情報バイアスについて学ぶとともに、交絡要因の制御方法について理解する。

9. 疫学研究における倫理問題 [講義・演習・質疑応答]

人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を紐解きつつ、とくに疫学研究を倫理的に実施するための要件について学ぶ。

10-12. 演習 I (3回) [講義・演習・質疑応答]

疫学的エピソードを題材とした演習に取り組み理解を深める。

13-14. 演習 II (2回) [講義・演習・質疑応答]

疫学的エピソードを題材とした演習に取り組み理解を深める。

15. まとめ [講義・演習・質疑応答]

本講の全体について、総括する。

(フィードバック方法) 課題などのフィードバックは講義時間内に行うとともに、添削後返却する。

【準備学習】

疫学や保健統計の学習は難解であり、親しみにくい領域であると思われる。分かりやすい解説とするので、復習に重点をおいた学習を心がけること。

パソコンの基本的な操作、およびマイクロソフト社のワード、エクセル、パワーポイントの各アプリケーションの基本的な操作が可能であることが望ましい。

(予習)

1-15. 配布資料を参考に、当日予定の項目について事前に予備的な知識を得て、それ

ぞれの日ごとに、十分に予習を行うこと。(各日 30分)

(復習)

1-15. 配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること。(各日 60分)

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート・口頭試問 (100%)

【備考】

【科目名】養護教育学

【授業コード】22H20021

【代表教員】大嶺 智子

【授業概要】

養護教諭養成教育の歴史、カリキュラム、各職務範囲において求められる専門性について、学会など (日本養護教諭教育学会、日本養護教諭養成大学協議会、学校保健学会) 関連資料、および文献などをもとに考察し、課題を探る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、

課題を発見できる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

複雑化多様化した社会背景を踏まえて、学校教育・健康課題解決の意義、養護教諭の専門性について認識を深める。

《個別目標 (SBOs) 》

①養護教諭、および養護教諭養成教育の歴史を整理し、説明できる。

②養護教諭の専門性について考え、各養成機関の共通性と特長について説明できる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

使用する文部科学省発表の資料 (中教審答申、特別部会論点整理など) について確認し、熟読を課す。

2. 教育職員免許法、養護教諭養成教育の歴史 [講義・質疑応答]

教員養成の原則と教員養成の根拠法を理解する。また養護教諭養成教育の歴史も学ぶ。

3. 中教審答申「チームとしての学校」を深め、養護教諭の役割、使命について考える。

[講義・質疑応答]

中教審答申を読み解き、現状の課題や国が目指していることを認識する。

4. 教育課程企画特別部会論点整理「2030年の社会と子供たちの未来」を考える。(1)

[講義・質疑応答]

内容の把握を行い、要点を整理する。

5. 教育課程企画特別部会論点整理「2030年の社会と子供たちの未来」を考える。(2)

[講義・質疑応答]

論点整理の内容を踏まえて、養護教諭の立場で 2030 年の社会や子供たちの未来を考える。

6. 各養成機関カリキュラムの特長 (1) [講義・質疑応答]

研究資料を用いて、教員養成系大学のカリキュラムの概要を認識する。

7. 各養成機関カリキュラムの特長 (2) [講義・質疑応答]

教員養成系以外の大学のカリキュラム概要を認識する。

8. 学校保健安全法 (1) [講義・質疑応答]

学校保健安全法の内容を認識する。

9. 学校保健安全法 (2) [講義・質疑応答]

旧法である学校保健法との比較を行い、法改正の経緯、意図を理解する。

10. 養護教諭養成大学協議会教育課程検討委員会におけるカリキュラムの検討 (1)

[講義・質疑応答]

2008 年度～2013 年度の委員会で得られた知見について学ぶ。

11. 養護教諭養成大学協議会教育課程検討委員会におけるカリキュラムの検討 (2)

[講義・質疑応答]

2013 年度～今日までの検討結果を把握し、学士課程教育・大学院教育・卒後教育の課題について考える。

12. 日本学校保健学会の歴史と研究活動 (1) [講義・質疑応答]

学会発表から見える社会的背景や健康・教育課題について考える。(1) 第 1 回～29 回

13. 日本学校保健学会の歴史と研究活動 (2) [講義・質疑応答]

学校保健学会学会発表から見える社会的背景や健康・教育課題について考える。

(2) 第 30 回～65 回

14. 日本養護教諭教育学会の歴史と研究活動 [講義・質疑応答]

学会発表から見える養護教諭の課題意識について考える。

15. まとめ [講義・質疑応答]

授業の振り返りを行い、自身の認識に影響を与えた内容について発表する。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討して資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、口頭試問 (50%)

【備考】

【科目名】心理学

【授業コード】22H20031

【代表教員】下島 裕美

【授業概要】

心理学の視点から保健・医療・福祉領域の諸問題について考える力を修得することを目的とする。心理学の基礎的な理論と研究事例について講師が講義を行い、その内容に関してディスカッションを行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO) 》

最新の心理学理論に関する専門的知識を修得し、保健・医療・福祉の現場で応用する能力と研究遂行能力を身につける。

《個別目標 (SBOs) 》

①保健・医療・福祉における諸問題に関連する心理学の理論を説明することができる。(知識)

②心理学の視点から保健・医療・福祉における諸問題に適切に対応できる。(技能)

③保健・医療・福祉における諸問題に対して、心理学の視点から積極的に対策を考える態度を示す。(態度・習慣)

【授業計画】

1. 心理学と保健学 [講義・質疑応答]
授業内容の概要と授業の進め方・学習方法について説明する。
2. 感覚と知覚 [講義・質疑応答]
感覚と知覚の理論と研究例を紹介する。
- 3-4. 記憶 (1) (2) [講義・質疑応答]
記憶の理論と研究例を紹介する。
- 5-6. 学習 (1) (2) [講義・質疑応答]
学習の理論と研究例を紹介する。
- 7-8. 思考 (1) (2) [講義・質疑応答]
思考の理論と研究例を紹介する。
- 9-10. 動機づけ (1) (2) [講義・質疑応答]
動機づけの理論と研究例を紹介する。
- 11-12. 対人関係と集団 (1) (2) [講義・質疑応答]
対人関係と集団の理論と研究例を紹介する。
13. 自己と文化 [講義・質疑応答]
自己と文化の理論と研究例を紹介する。
14. ジェンダー [講義・質疑応答]
ジェンダーの理論と研究例を紹介する。
15. まとめ [ディスカッション]
これまでの授業内容についてディスカッションする。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは講義内で実施する。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、講義内容に関する資料を熟読しておくこと。
(復習)
 - 1-15. 各回とも、講義内容をまとめ、最終レポート作成の準備を進めること。
学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(60%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】 人類生態学

【授業コード】 22H20041 22H20042

【代表教員】 出嶋 靖志

【授業概要】

人類生態学(Human Ecology)は保健学の最も基礎的かつ中核的学問分野である。時代の変化とともに「環境と人類との関わりがどのように健康に影響するか」は、ますます重要なテーマとなっていく。本講義は大学院の最高レベルの授業の一つとして、科学としての保健学(健康科学)に触れ、人の健康とエコロジーについて本質的理解を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

〈一般目標(GIO)〉

環境と生態系について基礎知識を修得し、健康と環境との関わりについて多視点で考える能力を身につける。

〈個別目標(SBOs)〉

①医学・医療と保健学・健康科学との違いについて説明できる。

②環境と健康の相互作用について説明できる。

③環境問題に潜む倫理問題について指摘し、科学的に論証できる。

④社会・文化環境と人々の暮らしや健康との関係を説明できる。

【授業計画】

1. 健康と疾病、医学と医療と健康科学 [講義・質問応答]
健康の定義、健康と疾病との関係について解説し、医学・医療・健康科学の定義とそれらの関連について基礎的な説明を行う。
2. 環境とは [講義・質問応答]
環境認識、環境の構成要素、生態学的複合としての環境について解説する。
3. 生態系のなかの人間 [講義・質問応答]
ヒトは他の様々な生物とともに生態系の一員である。生態系の構造と機能を解説しながら健康との関わりについて考察する。
4. 人類の進化と環境 [講義・質問応答]
初期の進化から多様化に至るプロセスを環境との関わりに触れながら解説する。
5. 居住、生業、社会 [講義・質問応答]
居住の場所、生存の単位としての社会集団、生業のパターンについて解説する。
6. 食生活と栄養 [講義・質問応答]
栄養の意味、食習慣、行動のパターン、味覚について解説する。
7. 栄養生態学の視野 [講義・質問応答]
前回の講義内容を環境との関係において再考察する。
8. 病気の生態学 [講義・質問応答]
第1回の授業をもとに、疾病と様々な健康状態の地理的分布、時間的変化について考察する。
9. 人口学と集団の規模～人口静態と人口動態 [講義・質問応答]
集団の健康を把握するための手法の一つである人口学について説明し、人口統計の意味を解説する。
10. 生活と人口変動～寿命と健康寿命 [講義・質問応答]
生命表と平均余命について解説し平均寿命と健康寿命の意味について考察する。

11. 生物学的適応と文化的適応 [講義・質問応答]
前回学んだ寿命についての知識をもとに、適応の意味について考察する。
12. 様々な適応像1～中米 [講義・質問応答]
映像を見ながら中米の人々の適応例について考察する。
13. 様々な適応像2～インドネシア [講義・質問応答]
映像を見ながらインドネシアの捕鯨生活者の人々の適応例について考察する。
14. 様々な適応像3～高地 [講義・質問応答]
アンデス高原の居住者の適応例を実際の調査資料を見ながら考察する。
15. まとめ [授業内試験と討論]
これまでの授業内容を確認する試験と討論を行なう。
(フィードバック方法) 課題レポートを課した場合のフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

(復習)

1-15. 授業内容をA4用紙1枚にまとめておくこと。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、レポート(50%)

【備考】

【科目名】 産業保健学

【授業コード】 22H20051

【代表教員】 岡本 博照

【授業概要】

現代のわが国の労働環境を取り巻く諸問題の一つにストレスを起因とした心身の健康障害がある。本講義ではストレスを起因とした心身の健康障害に焦点を当て、その労働生理や産業ストレス理論を解説し、それらがもたらす疾病の病態を理解する。また、研究や実践現場で活かせるようにストレスを起因とした心身の健康障害に関する指標の知識を整理し、解説する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・

分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、

高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

〈一般目標(GIO)〉

わが国の産業保健分野における諸問題を正しく認識し、これまでに培った産業保健学分野の知識のほか、新たに調査研究に必要な新規の知識や理論を学び、それらを活かして研究や実践現場で活動できることを目標とする。

〈個別目標(SBOs)〉

①わが国の産業保健の実情を把握する。

②労働生理の理論とその指標について説明でき、それを研究や実践現場に活かすことができる。

③産業ストレスの理論とその指標について説明でき、それを研究や実践現場に活かすことができる。

④産業精神保健で用いるメンタルヘルス指標について説明でき、それを研究や実践現場に活かすことができる。

【授業計画】

1. 産業保健総論1 [講義・質疑応答]
わが国の産業保健制度や労働衛生法規について学ぶ。
2. 産業保健総論2 [講義・質疑応答]
他国の産業保健制度について学ぶ。
3. 産業保健総論3 [講義・質疑応答]
わが国の産業保健での重要課題について学ぶ。
4. 労働生理1 [講義・質疑応答]
労働生理の概要を学ぶ。
5. 労働生理2 [講義・質疑応答]
労働生理指標の種類とその性質について学ぶ。
6. 労働生理3 [講義・質疑応答]
論文を用いて、疲労に関する生理指標について学ぶ。
7. 産業ストレス1 [講義・質疑応答]
産業ストレスの理論について学ぶ。
8. 産業ストレス2 [講義・質疑応答]
ストレスの指標について学ぶ。
9. 産業ストレス3 [講義・質疑応答]
各職種でのストレスについて学ぶ。
10. 産業ストレス4 [講義・質疑応答]
論文を用いて、医療職のストレスについて学ぶ。
11. 産業精神保健1 [講義・質疑応答]
わが国の職場でのメンタルヘルスの現状と対策について学ぶ。
12. 産業精神保健2 [講義・質疑応答]
産業精神保健で使用されるメンタルヘルスの指標の特性について学ぶ。
13. 産業精神保健3 [講義・質疑応答]
論文を用いて、過重労働者のメンタルヘルスについて学ぶ。
14. 産業精神保健4 [講義・質疑応答]
アルコール問題について学ぶ。

15.受講生による産業保健のプレゼンテーション 【講義・質疑応答】
自分でテーマを選び、それに該当した論文を検索し、その要約を発表する。
(フィードバック方法) 授業内での口頭試問のフィードバックは講義時間内に行う。レポートのフィードバックは次回の講義時間内に行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

【評価方法】
口頭試問(30%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)
【備考】

【科目名】保健福祉学
【授業コード】22H20061
【代表教員】片桐 朝美
【授業概要】

保健福祉サービスの歴史の経緯、法・制度のしくみ、社会的課題を整理し理解を深める。これらを踏まえこれからの保健福祉分野におけるサービス提供の課題をディスカッションを通して探る。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》
社会福祉基礎構造改革を契機とした保健福祉の考え方や制度を理解し、「安心した生活」、「人の尊厳」を重視した保健福祉サービスについて研究テーマ設定・遂行できる能力を修得する。
《個別目標 (SBOs) 》
①社会福祉基礎構造改革以前の保健福祉について説明できる。
②社会福祉基礎構造改革以降の保健福祉について説明できる。
③社会調査の基本的方法について概説できる。
④地域ケアシステムを概説できる。
⑤研究における倫理の要点を説明できる。

【授業計画】
1-2. 措置制度と契約 【講義・質疑応答】
措置制度と契約について講義を行う。
3-4. 成年後見制度 【講義・質疑応答】
成年後見制度について講義を行う。
5. 就労支援制度 【講義・質疑応答】
就労支援制度 について講義を行う。
6-7. 更生保護制度 【講義・質疑応答】
更生保護制度について講義を行う。
8-10. 社会調査の基礎 【講義・質疑応答】
社会調査について講義を行う。
11-12. 地域ケアシステム 【講義・質疑応答】
地域ケアシステムについて講義を行う。
13-14. 研究に関する倫理 【講義・質疑応答】
研究に関する倫理について講義を行う。
15. まとめ 【講義・質疑応答】
保健福祉学で学習してきた内容のまとめを行う。
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(50%)、レポート(50%)
【備考】

【科目名】臨床心理学
【授業コード】22H20071
【代表教員】中島 亨
【授業概要】

救命救急に必要な心理学および精神医学の知識の獲得と医療現場の実践について学ぶことを目的とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
《一般目標 (GIO) 》
「臨床心理学」に関する知識を修得して、自らの心の健康の保持・増進を図ることをねらいとしている。「臨床心理学」の理論を理解して、相談活動、カウンセリング活動に必要な実践的能力を培う。
《個別目標 (SBOs) 》
①心の健康について、日常の社会的トピックスから関心を深め、医療・産業・福祉・教育現場における実践的な保健活動を展開することができる。
②心の健康のあり方を精神保健および心理学的な観点から医療モデルと成長モデルについて理解する。
③心の健康問題を「適応」「正常」という観点から理解する。
④他職種との専門家・関係諸機関との連携を理解する。

【授業計画】
《医療倫理》
1. 医療倫理 【講義・質疑応答】
《平時医療》
2. 心気状態—おそらく最も多い対応事例— 【講義・質疑応答】
3. 精神病状態と抑うつ状態—最も救急が必要な状態は摂食の低下— 【講義・質疑応答】
4. 自殺・自傷行動と衝動行為/解離状態—薬物多量服用は3次対応— 【講義・質疑応答】
5. 摂食障害—精神疾患で最も死亡率の高い障害— 【講義・質疑応答】
6. アルコールと物質依存—急性アルコール中毒の背後にあるもの— 【講義・質疑応答】
7. てんかん(意識消失)と画像情報の重要性—意識障害の場合可能なら画像情報を— 【講義・質疑応答】
8. 外因性精神障害—精神疾患として変だと思ったら高次医療機関を— 【講義・質疑応答】
9. 到着時死亡への対応 【講義・質疑応答】
10. 虐待を見抜く 【講義・質疑応答】
11. 認知症と意識障害—自分で意思を告げられない人への対応— 【講義・質疑応答】
12. 精神保健福祉法と触法患者への対応 【講義・質疑応答】
《災害時医療》
13. 災害心理学/ブリーフサイコセラピー 【講義・質疑応答】
14. 災害時における自己保全の必要性とトリアージの現実 【講義・質疑応答】
15. 医療従事者以外への First Aid 教育 【講義・質疑応答】
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
レポート(100%)
【備考】

【科目名】疫学セミナー
【授業コード】22H20102
【代表教員】照屋 浩司
【授業概要】

疫学的な研究手法を用いた各領域の英文の原著論文、疫学の方法論に関する英文の成書などの抄読およびセミナー形式のディスカッションを通して、疫学についての理解を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、

課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO)》

英文の原著論文、疫学の方法論に関する英文の成書などの抄読およびディスカッションを通して、疫学についての理解を深める。

《個別目標 (SBOs)》

①良質な英文の原著論文などを読みこなすことができる。

②抄読およびセミナーを通して、疫学に関する理解を深める。

【授業計画】

1-8. 生活習慣病に関する疫学の領域から [演習・質疑応答]

生活習慣病に関する、英文の原著論文、疫学の方法論に関する英文の成書の抄読およびディスカッションを通して、疫学についての理解を深める。

9-15. 環境疫学、産業疫学の領域から [演習・質疑応答]

環境疫学、産業疫学に関する、英文の原著論文、疫学の方法論に関する英文の成書の抄読およびディスカッションを通して、疫学についての理解を深める。

(フィードバック方法) 課題などのフィードバックは講義時間内に行うとともに、添削後返却する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 配布資料を十分に読み込み、事前に予備的な知識を得て、当日のディスカッションの準備を行うこと。(各日 60 分)

(復習)

1-15. 配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること。(各日 30 分)

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート・口頭試問 (100%)

【備考】

【科目名】 環境問題演習

【授業コード】 22H20111 22H20112

【代表教員】 出嶋 靖志

【授業概要】

環境についての基礎を身につけるだけでなく、環境と健康の相互作用について理解する。科学的な基礎事項を学んだ上で、過去の公害問題や現代の環境問題に潜む倫理的な諸問題にも言及し、環境問題を科学的・論理的に考察することの重要性を説く。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

環境と生態系について基礎知識を修得し、健康と環境の相互作用について多視点で考える能力を身につける。

《個別目標 (SBOs)》

①医学・医療と保健学・健康科学との違いについて説明できる。

②環境と健康の相互作用について説明できる。

③環境問題に潜む倫理問題について指摘し、科学的に論証できる。

④社会・文化環境と人々の暮らしや健康との関係を説明できる。

【授業計画】

1. 健康と疾病、医学と医療と保健学・健康科学 [講義・質問応答]

健康の定義、健康と疾病との関係について解説し、医学・医療・健康科学の定義とそれとの関連について基礎的な説明を行う。

2. 生態系の構造と機能 [講義・質問応答]

環境の分類と生態系の構造と機能について説明し、生態系の一員としての人間の健康と環境との相互作用について詳説する。

3. 化学的環境 1: 水と空気 [講義・質問応答]

日常接する環境要因である水や空気が健康にどのように関わっているかを説明し汚染の把握方法について示す。

4. 化学的環境 2: 有機塩素系化合物 [講義・質問応答]

環境汚染物質を考える上で重要な有機塩素系化合物についてその開発の歴史と実際に起きた健康障害について映像を見ながら説明する。

5. 化学的環境 3: 有機金属系化合物 [講義・質問応答]

前回に引き続き環境汚染物質として重要な有機金属系化合物について説明し、水俣病やイタイイタイ病を例に日本の学者が行ってきたことを紹介する。

6. 化学的環境 4: 廃棄物とリサイクル [講義・質問応答]

廃棄物がどのように処理されているかを説明する。さらに映像資料を見ながらリサイクルが成り立っている場合と成り立っていない場合の違いについて考察する。

7. 物理的環境 1: 温熱と体温調節 [講義・質問応答]

環境温度の変化と体温調節のメカニズムについて説明し、温度環境の変化にどのように対応すべきかについて考察する。

8. 物理的環境 2: 騒音振動と健康 [講義・質問応答]

物理的環境要因のひとつである音の性質と騒音の意味について説明し、様々な場面で曝露する騒音の健康影響について考察する。

9. 物理的環境 3: 放射線と健康 [講義・質問応答]

電離放射線と非電離放射線の違いと生態影響について説明する。

10. 物理的環境 4: 巨大科学技術の安全性 [講義・質問応答]

過去の航空機事故や原子力発電所事故を例に、巨大科学技術の安全性の本質について考察する。

11. 社会・文化的環境: 原発事故と震災復興と風評被害と食の安全 [講義・質問応答]

放射性物質の健康影響を第一に考えたときに見えてくる真の復興とは何かについて被災地と非被災地の関係を軸に考察する。

12. 地球環境問題 1: 地球温暖化 [講義・質問応答]

IPCC のデータ改ざん〜京都議定書〜パリ会議への経緯を説明しながら、本当に二酸化炭素を含む温室効果ガスだけで地球は暖かくなるのかについて考察する。

13. 地球環境問題 2: 環境ホルモン [講義・質問応答]

蓄積性の環境汚染物質ではなく、微量で生体影響を及ぼす環境ホルモンについて説明し、この研究をめぐる日本の学者が何をしてきたかを紹介する。

14. 地球環境問題 3: プラスチック汚染 [講義・質問応答]

世界で大量に消費されているプラスチック製品の廃棄物がどのように地球規模の汚染を引き起こしているのかについて映像資料を見ながら説明する。

15. まとめ [授業内試験・まとめ]

授業内試験と解説を行う。

(フィードバック方法) 課題レポートを課した場合のフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 教科書の該当ページを探して読んでおく。

(復習)

1-15. 習った内容を自分なりにまとめておく。

※全ての回、予習は 60 分、復習は 45 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】 保健科教材研究

【授業コード】 22H20122

【代表教員】 大嶺 智子

【授業概要】

WHO が 1986 年のオタワ憲章において、新しい健康戦略としてのヘルスプロモーション「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」を提唱した。学校をその展開の拠点として位置づけた「ヘルスプロモーションスクール」の提案もなされているが、30 年余りが経過した今日、わが国では学習指導要領や学校保健安全法の中に、公にはヘルスプロモーションを推進していくための方策は示されてきているが、課題は多く、ヘルスプロモーションの展開は遅れている実情にある。少子高齢化が一層進み、A I が色々な分野で人々に代わって活躍するであろう社会を子どもたちが生き抜くにはどうしたらよいか課題を探る。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

教育現場におけるヘルスプロモーション展開の課題について述べるができる。

《個別目標 (SBOs)》

①学校保健安全法第 9 条 (保健指導) について理解し、養護教諭・一般教諭の役割について述べるができる。

②小学校における保健教育の課題について述べるができる。

③教科書の内容を分析評価し、自分の意見を述べるができる。

【授業計画】

1. ヘルスプロモーションについて (1) [講義・質疑応答]

ヘルスプロモーションについて認識を深める。

2. ヘルスプロモーションについて (2) [講義・質疑応答]

養護教諭の歴史にみるヘルスプロモーションの展開

3. 現代的健康課題、2030 年の健康課題 [講義・質疑応答]

中央教育審議会答申、論点整理の資料を読み解き、教育現場の健康課題を整理する。

4. 学校保健安全法第 9 条 (保健指導) [講義・質疑応答]

第 9 条の内容を知り、養護教諭・一般教諭の役割の認識を深める。

5-7. 小学校の教科書分析 [講義・質疑応答]

採択されている小学校の保健科教科書 (5 社) をそれぞれ分析評価する。

8-10. 中学校の教科書分析 [講義・質疑応答]

採択されている中学校の保健科教科書 (4 社) をそれぞれ分析評価する。

11-12. 高校の教科書分析 [講義・質疑応答]

採択されている高校の教科書 (3 社) をそれぞれ分析評価する。

13-14. 保健学習の教材研究 [プレゼン・質疑応答]

教科書の単元を 2 つ設定し、模擬授業案を作成し、模擬授業を行う。

15. まとめ [講義・質疑応答]

授業を振り返りヘルスプロモーションの展開を担う一人としての目標を立てる。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-12. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を調べ、事前に配付された資料を熟読する。それを踏まえ、次回テーマに関して自身の考えを整理し資料を作成すること。(形式は自由)

13-15. これまでの学習を踏まえ、保健教科書を教材として指導案作成を行い、プレゼンテーションの準備を行う。

(復習)

1-15. 講義内容をまとも学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は30分とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、口頭試問(20%)

【備考】

【科目名】 養護実践学A

【授業コード】 22H20131

【代表教員】 亀崎 路子

【授業概要】

養護教諭の職務の特質、歴史的背景、専門性、資質・能力、キャリア形成などに関する概念枠組みの整理を行い、追求すべき研究課題を討議する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

養護教諭の職務の特質や歴史的背景、専門性、資質・能力、キャリア形成などに関する国内外の研究の動向を探索し、概念枠組みの整理を行い、追求すべき研究課題とその方法を述べることができる。

《個別目標 (SBOs)》

①養護教諭に関する追求すべき研究課題を、職務の特質や歴史的背景、社会的背景、理論的背景、実践的背景に基づいて、研究の意義や目的を説明することができる。

②養護教諭に関する研究課題を追求するうえで必要な概念規定や概念枠組みを整理することができる。

③養護教諭に関する研究課題を追求するうえで、妥当性のある研究方法を説明することができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション [演習]

自身の研究課題について、ディスカッションを通じて研究の意義を探究、整理する。

2-6. 養護教諭に関する追求すべき研究課題 [演習]

研究課題を明らかにする上で、研究の背景と意義及び目的について探求、整理する。

7-10. 研究課題における概念規定や概念枠組み [演習]

研究課題を明らかにする上で、必要な概念について探求、整理する。

11-14. 養護教諭に関する研究課題を追求するための研究方法 [演習]

研究課題を明らかにする上で、適切な研究方法、妥当性の確保について探求、整理する。

15. まとめ [演習]

自身の研究課題を整理する。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. テーマに応じて関連文献を読み、プレゼンテーション資料を作成する。

(復習)

1-15. 各回の内容を研究ノートに整理する。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(20%)

【備考】

【科目名】 養護実践学B

【授業コード】 22H20142

【代表教員】 亀崎 路子

【授業概要】

学校保健および養護教諭の養護実践の理論的背景、学校において機能する養護の役割や支援の特質について討議を行い、追求すべき研究課題を探究する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

学校保健および養護実践学の立場から追求すべき研究課題について、課題と背景、研究的な意

義、研究方法の観点から論述することができる。

《個別目標 (SBOs)》

①学校保健及び養護実践学の立場から追求すべき研究課題について、必要性や意義を、理論背景、実践的背景、社会背景の観点から先行研究などの関連資料に基づき、説明することができる。

②学校保健及び養護教諭の実践に関する文献を幅広く検討し、近接領域との比較検討を踏まえ概念枠組みの整理ができる。

③研究課題を追求するうえで、妥当性のある研究方法を説明することができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション [演習]

自身の研究課題について、ディスカッションを通じて研究の意義を探究、整理する。

2-6. 学校保健および養護実践学の立場から追求すべき研究課題 [演習]

研究課題を明らかにする上で、研究の背景と意義及び目的について探求、整理する。

7-10. 学校保健および養護実践に関する研究課題を追求するうえで必要な概念規定概念枠組み [演習]

研究課題を明らかにする上で、必要な概念について探求、整理する。

11-14. 学校保健および養護実践の研究課題を追求するための研究方法 [演習]

研究課題を明らかにする上で、適切な研究方法、妥当性の確保について探求、整理する。

15. まとめ [演習]

自身の研究課題を整理する。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. テーマに応じて関連文献を読み、プレゼンテーション資料を作成する。

(復習)

1-15. 各回の内容を研究ノートに整理する。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(20%)

【備考】

【科目名】 養護実践学セミナー

【授業コード】 22H20152

【代表教員】 亀崎 路子

【授業概要】

現代社会において問題となっている子どもの健康課題、学校生活への不適応などの顕在化する問題、解決のための養護教諭の役割、支援のための連携・協働、ネットワークづくりについて探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

現代社会において問題となっている子どもの健康課題、学校生活への不適応や顕在化する困難さ、解決のための養護教諭の役割、支援のための連携・協働、ネットワークづくりについて論述することができる。

《個別目標 (SBOs)》

①現代の子どもの健康課題や学校生活における問題について文献や実践などから考察し求められる養護実践を説明できる。

②1に対する養護教諭の役割や支援のための連携・協働、ネットワークづくりに関する方策を立てることができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション [演習]

子どもの健康課題について概観し、追究する意義について討議する。

2-4. 現代的な子どもの健康課題の探求 [演習]

現代社会において問題となっている子どもの健康課題について文献や実践事例などにより討議する。

5-7. 健康課題をもつ子どもの学校生活における問題 [演習]

現代的な子どもの健康課題をもつ子どもの学校生活における問題について文献や実践事例などにより討議する。

8-10. 健康課題をもつ子どもと養護教諭の役割 [演習]

健康課題をもつ子どもへの支援と養護教諭の役割について文献や実践事例などにより討議する。

11-14. 子ども支援のための連携・協働・ネットワークづくり [演習・プレゼンテーション]

子ども支援をめぐる連携・協働・ネットワークづくりについて文献や実践事例などにより討議し、方策を立て、発表する

15. まとめ [演習]

子どもの健康課題と自身の研究課題との関連を整理する。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回のテーマについて関連文献をあらかじめ読みプレゼン資料を作成する。

(復習)

1-15. 各回の内容をレポートにまとめる。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】心肺蘇生法演習

【授業コード】22H20181

【代表教員】山田 賢治

【授業概要】

心肺蘇生法に関する英文論文や原書などを抄読する。またその内容を引用論文を交えて発表し、心肺蘇生法について理解を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

英文論文を読み内容を理解し解説できる。

《個別目標 (SBOs)》

①英文論文や原書を読解できる。

②内容について評価し他者と討議できる。

③レポートを作成でき、内容を解説できる。

【授業計画】

- 1-5. 原書の輪読 [演習・グループワーク・質疑応答]
心肺蘇生法に関する原書を取り上げ、輪読と解説、討議を行う。
6-10. 英文論文の抄読Ⅰ [演習・グループワーク・質疑応答]
病院内医療における心肺蘇生法に関する英文論文を取り上げ、抄読と解説、討議、レポート作成を行う。
11-15. 英文論文の抄読Ⅱ [演習・グループワーク・質疑応答]
病院内医療、特に蘇生後の医療や予後に関する英文論文を取り上げ、抄読と解説、討議、レポート作成を行う。
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- 使用する原書はセミナー開始に先立ってあらかじめ示すので各自確認すること。各回で検討文献について、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。(予習)
1-15. 各回までに原書や英文論文を読解し、内容をA4用紙1枚にまとめておくこと。可能な範囲で関連文献や資料を収集してあらかじめ読んでおくこと。また各自が担当する回については所定の様式に従ってレポートを作成し、必要な配布資料を準備しておくこと。(復習)
1-15. 各回の演習内容を整理し、配布資料やレポートを修正しておくこと。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(100%)

【備考】

【科目名】救急病態学

【授業コード】22H20191

【代表教員】玉田 尚

【授業概要】

救急医療において遭遇することの多い症候、疾患について、病態の理解と同時に治療方針決定の過程について自ら調べ理解し、討議を行う。また、救急医療において遭遇することの多い急死・突然死について、死亡にいたる過程を説明することができるように病態生理を調べ理解し、討議を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

救急医療で遭遇することの多い症候や疾患について、その病態生理や死に至る過程について理解し、説明することができる。

《個別目標 (SBOs)》

- ①救急疾患についてその病態生理について述べる事ができる。
②救急疾患の症候についてその発生機序について分析ができる。
③救急疾患の死亡事例についてその病態を説明できる。
④突然死症例について、その原因を推定することができる。

【授業計画】

- 1. 救急疾患の症候、外的要因による救急病態、「人の死」について知識の整理 [講義・質疑応答]
知識の整理をする。課題について情報提供し、課題を選択する。
2-4. 救急疾患にみられる症候について解説 [プレゼン・討議、質疑応答]
自分の興味のある救急疾患に関する症候について、病態生理を解説する。
5-7. 慢性疾患の急性増悪、急変の症候について解説 [プレゼン・討議、質疑応答]
自分の興味のある救急疾患に関する症候について、病態生理を解説する。

- 8-10. 急性疾患による死亡・突然死について [プレゼン・討議、質疑応答]
急性疾患による死亡や突然死について、その死亡にいたる過程について調べ、討議する。
11-14. 外的要因による救急病態について [プレゼン・討議、質疑応答]
外傷をのぞく外的要因(中毒、異常環境下など)の病態について、調べ、討議する。
15. 症例検討 [プレゼン・討議、質疑応答、まとめ]
症例検討を行う。全体のまとめを行う。
(フィードバック方法) フィードバックは毎回の講義中に行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、プレゼンテーション(60%)

【備考】

【科目名】救急救命学特別講義Ⅰ

【授業コード】22H20201

【代表教員】堀淵 志徳里

【授業概要】

救急現場で遭遇する疾患に関して、疫学、診療の社会的意義から臨床医療にわたり総合的に考察し、心肺蘇生に関してはガイドラインの基に立ち返ることで、その意義を考察する。また、労働者としての救急救命士の問題を考察する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

救急医療現場で遭遇するさまざまな病態を様々な角度からアプローチし、よりよい活動を継続的にできるようになるためにはどうすればよいかを考える力を身につける。

《個別目標 (SBOs)》

- ①救急疾患の病態生理の分析ができる。
②対応する際のガイドラインおよびそのバックグラウンドを説明できる。
③救急救命士として、最先端治療を理解した搬送の重要性に関して説明できる。

【授業計画】

- 1-3. 心肺蘇生法 [講義・質疑応答]
心肺蘇生法の歴史的変遷、ガイドラインの内容、およびガイドラインのもととなった文献へと知識を広げ、現在の心肺蘇生法の意味に関して考察する。
4-6. 心肺停止傷病者搬送後の治療・予後 [講義・質疑応答]
心肺停止傷病者の病院搬送後に行われる治療と、その予後に関して、原因ごとの違い、ガイドライン変遷に伴う変化に関して、考察する。
7. まとめⅠ [グループワーク・質疑応答]
個々が興味を持ったテーマについて討論を行い疑問点を整理する。
8-11. 症例検討 [講義・質疑応答]
具体的事例をもとに、現場、救急隊の判断、医師の考えなどについて、討議形式で学ぶ。
12. まとめⅡ [グループワーク・質疑応答]
個々が興味を持ったテーマについて討論を行い疑問点を整理する。
13. 循環器救急疾患の最新治療 [講義・質疑応答]
循環器救急疾患の最新治療に関して学び、その知識が救急救命士活動にどう影響するかに関して議論する。
14. レポート作成、発表準備 [自己学習・質疑応答]
これまでの内容を踏まえ、興味を持った内容に関して、レポートを作成し、レポート内容に関してプレゼンテーションの準備を行う。
15. 発表 [プレゼン・グループワーク]
レポート内容に関して、プレゼンテーションを行い、討論を行う。
(フィードバック方法) 症例検討に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-14. 各回のテーマについて関連文献や資料をあらかじめ読んでおき、必要な資料を整理しておくこと。
15. プレゼンテーションの準備をする。
(復習)
1-15. 各回の授業内容をまとめておく。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習等)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】救急救命学特別講義Ⅱ

【授業コード】22H20211

【代表教員】松岡 弘芳

【授業概要】

病院内救護において重要な腹部疾患について、各疾患の病因、病態生理、鑑別診断法、治療法の概要を学習し、病院内救護における観察や判断、処置の要点について考察する。救急現場で遭遇する急性腹症の原因は多岐にわたる。このうち、腹部外傷・消化管穿孔・腹膜炎などの腹部・消化器系救急疾患の特徴や、救急対応について総合的に考察する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- ・専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO) 》

救急現場で遭遇する急性腹症のさまざまな病態について、腹部・消化器系疾患を中心にによりよい初期対応を行えるよう考える力を身につける。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①腹部救急疾患の病態生理が理解できる。
- ②急性腹症ガイドラインおよびそのバックグラウンドを説明できる。
- ③病院前救護においてよりよい初期対応が選択できる。

【授業計画】

- 1-3. 腹部救急疾患の病態生理 [講義・質疑応答]
 - 腹部救急疾患の病態生理を理解し、鑑別・診断法、治療法の概要を学び、観察と判断の要点について考察する。
- 4-6. 腹部救急疾患の初期対応 [講義・質疑応答]
 - 急性腹症ガイドラインについて理解し、腹部・消化器系救急疾患に対する対処の要点、適切な初期対応について考察する。
- 7. まとめⅠ [質疑応答]
 - 個々が興味を持ったテーマについて討論を行い、疑問点を整理する。
- 8-11. 症例検討 [講義・質疑応答]
 - 腹部救急疾患の具体的事例をもとに、病態生理を分析し、観察や判断、処置の要点などについて、討議形式で学ぶ。
- 12. まとめⅡ [質疑応答]
 - 個々が興味を持ったテーマについて討論を行い、疑問点を整理する。
- 13-14. レポート作成、発表準備 [自己学習・質疑応答]
 - これまでの内容を踏まえ、興味を持った内容に関して必要な文献検索等を行い、考察を加えてレポートを作成する。また、その内容に関してプレゼンテーションの準備を行う。
- 15. 発表 [プレゼンテーション・グループワーク]
 - レポート内容に関して、プレゼンテーションを行い、討論を行う。

(フィードバック方法) 症例検討に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 - (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (60%)、プレゼンテーション (40%)

【備考】

【科目名】 災害医学セミナー

【授業コード】 22H20221

【代表教員】 山田 賢治

【授業概要】

災害医学に関する英文論文や原書などを抄読する。またその内容を引用論文を交えて発表し、災害医学について理解を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- ・先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- ・専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO) 》

英文論文を読み内容を理解し解説できる。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①英文論文や原書を読解できる。
- ②内容について評価し他者と討議できる。
- ③レポートを作成でき、内容を解説できる。

【授業計画】

- 1-5. 原書の輪読 [演習・グループワーク・質疑応答]
 - 災害医学に関する原書を取り上げ、輪読と解説、討議を行う。
- 6-10. 英文論文の抄読Ⅰ [演習・グループワーク・質疑応答]
 - 自然災害と災害時医療に関する英文論文を取り上げ、抄読と解説、討議、レポート作成を行う。
- 11-15. 英文論文の抄読Ⅱ [演習・グループワーク・質疑応答]
 - 各種の大規模災害に関する英文論文を取り上げ、抄読と解説、討議、レポート作成を行う。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- 使用する原書はセミナー開始に先立ってあらかじめ示すので各自確認すること。各回で検討文献について、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。
- (予習) 1-15. 各回までに原書や英文論文を読解し、内容をA4用紙1枚にまとめておくこと。可能な範囲で関連文献や資料を収集してあらかじめ読んでおくこと。また各自が担当す

る回については所定の様式に従ってレポートを作成し、必要な配布資料を準備しておくこと。

(復習)

- 1-15. 各回の演習内容を整理し、配布資料やレポートを修正しておくこと。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (100%)

【備考】

【科目名】 外傷セミナー

【授業コード】 22H20231

【代表教員】 玉田 尚

【授業概要】

外傷に関する国内外の文献にあたり、事例報告、英文総説や、原書論文などを抄読し、外傷の病態と治療戦略の理解を深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- ・先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- ・専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO) 》

外傷についての国内外の雑誌にあたり、症例報告、英文総説や原書論文を読んで、日本との相違などを知り、外傷に関する理解を深める。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①外傷について和文総説を読み知識を身につける。
- ②外傷についての英文総説を読んで理解し日本との相違を説明できる。
- ③外傷についての国内外の原書論文や症例報告を読んで知識を身に付ける。
- ④症例報告について、病態生理や治療戦略を説明できる。

【授業計画】

- 1. 外傷学の復習と授業計画の説明 [討議、質疑応答]
 - 外傷学を復習し知識と理解を確認、資料配布。
- 2. 外傷に関する和文総説の抄読 [プレゼン、討議、質疑応答]
 - 総説を抄読し、知識を整理する。
- 3. 外傷に関する英文総説の抄読 [プレゼン、討議、質疑応答]
 - 総説を抄読し、日本との違いについて討議する。
- 4-7. J of Trauma の論文中で関心のあるものを抄読 [プレゼン、討議、質疑応答]
 - 主に、症例報告、原書論文を選択し、抄読。
- 8-11. Critical care medicine の論文中で外傷に関連のあるものを抄読 [プレゼン、討議、質疑応答]
 - 外傷の病態生理を中心に記述されている論文を選択し、抄読。
- 12-14. Acute Medicine & Surgery の論文中で外傷に関連のあるものを抄読 [プレゼン、討議、質疑応答]
 - 外傷の治療戦略を中心に記述されている論文を選択し、抄読。
- 15. プレゼンテーションおよびディスカッション [プレゼン、討議、質疑応答]
 - 最も興味のある論文について紹介し、内容について討議する。

(フィードバック方法) 毎回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
 - (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (40%)、プレゼンテーション (60%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅰ

【授業コード】 22H21A1 22H21A2

【代表教員】 亀崎 路子

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- ・研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身に付け、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- 高い倫理観
- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 - 9-16. 関連文献の検討 [演習]
 - 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
 - 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 - 1-30. 博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成する。
ゼミ前日までにレジュメと文献のコピーを指導教員に提出する。
(復習)
 - 1-30. 各回の内容を研究ノートにまとめる。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H21C1 22H21C2

【代表教員】下島 裕美

【授業概要】

特別研究では、研究計画に基づき、調査や検討を行い、博士論文を作成する過程を学ぶ。特別研究 I は、研究計画の立案、倫理審査受審の準備、研究実施に着手する段階までを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる
 - 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
 - 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
 - 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
- 《一般目標 (GIO) 》
自らの関心および研究計画に基づき、博士論文の作成に向けて調査や検討を行い、論文を作成する手順について理解する。
- 《個別目標 (SBOs) 》
- ①適切な作業仮説の設定ができる。
 - ②それに基づいた研究プロトコルが作成できる。
 - ③得られたデータの統計解析が適切にできる。
 - ④内外の関連文献を批判的にレビューできる。
 - ⑤得られたデータに基づいて簡潔な科学論文が作成できる。

【授業計画】

- 1. 研究指導全体のオリエンテーション [演習]
 - 2. 研究計画の確認およびスケジュールの調整 [演習]
 - 3-5. 資・試料の収集方法について [演習]
 - 6-8. 関連文献の収集方法について [演習]
 - 9-13. 研究の倫理について [演習]
 - 14-16. 先行研究の検討1 研究目的の明確化 [演習]
 - 17-19. 先行研究の検討2 先行研究の問題点と課題 [演習]
 - 20-22. 研究目的と研究方法の妥当性の検討 [演習]
 - 23-24. 研究の意義の明確化 [演習]
 - 25-26. 関連文献の整理 [演習]
 - 27-28. 関連文献の意味づけ [演習]
 - 29-30. 論文の構成と整理について [演習]
- (フィードバック方法) 課題の提出等を求めた場合は、フィードバックとして、時間内に解説を行うとともに、原則として添削後返却する。

【準備学習】

- (予習)
 - 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
(復習)
 - 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H21D1 22H21D2

【代表教員】樽井 武彦

【授業概要】

自己の興味ある分野の中から、学位論文作成に向けて研究テーマを明確にし、先行研究に関連する最新文献をチェックして具体的な研究方法を計画立案する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 - 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
 - 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
 - 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
- 《一般目標 (GIO) 》
自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。
- 《個別目標 (SBOs) 》
- ①実行可能な研究テーマを選択できる。
 - ②研究に必要な文献収集が行える。
 - ③効果的な研究法略を立案できる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 興味ある分野について、先行研究に関する最新の文献をチェックして内容を検討し、研究テーマを決定する。
 - 9-16. 関連文献の検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 研究テーマに関連する文献をチェックして、研究内容を検討し仮説を立てる。
 - 17-20. 研究方法論の検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 仮説を検証するための具体的な方法と期待される結果について検討する。
 - 21-29. 研究計画書の作成 [講義・実習・質疑応答]
 - 効果的な研究法略を立案し、研究計画を完成させる。
 - 30. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
 - 研究計画について内容をプレゼンテーションする。
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 - 1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
 - 1-30. 各回の授業内容をまとめておくこと。
学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

研究計画書(80%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程の調整をする。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H21E1 22H21E2

【代表教員】山田 賢治

【授業概要】

自己の興味ある分野の中から、学位論文作成に向けて研究テーマを明確にし、先行研究に関連する最新文献をチェックして具体的な研究方法を計画立案する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- 高い倫理観
- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①実行可能な研究テーマを選択できる。
- ②研究に必要な文献収集が行える。
- ③効果的な研究法を立案できる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 興味ある分野について、先行研究に関する最新の文献をチェックして内容を検討し、研究テーマを決定する。
- 9-16. 関連文献の検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 研究テーマに関連する文献をチェックして、研究内容を検討し仮説を立てる。
- 17-20. 研究方法論の検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 仮説を検証するための具体的な方法と期待される結果について検討する。
- 21-29. 研究計画書の作成 [講義・実習・質疑応答]
 - 効果的な研究法を立案し、研究計画を完成させる。
- 30. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
 - 研究計画について内容をプレゼンテーションする。
 - (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程の調整をする。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。(予習)

- 1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
- 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-30. 各回の授業内容をまとめておくこと。
- 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

研究計画書(80%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H21F1 22H21F2

【代表教員】松岡 弘芳

【授業概要】

自己の興味ある分野の中から、学位論文作成に向けて研究テーマを明確にし、先行研究に関連する文献をチェックして具体的な研究方法を計画立案する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①実行可能な研究テーマを選択できる。
- ②研究に必要な文献収集が行える。
- ③効果的な研究法を立案できる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 興味ある分野について、先行研究に関する最新の文献をチェックして内容を検討し、研究テーマを決定する。
- 9-16. 関連文献の検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 研究テーマに関連する文献をチェックして、研究内容を検討し仮説を立てる。
- 17-20. 研究方法論の検討 [講義・実習・質疑応答]
 - 仮説を検証するための具体的な方法と期待される結果について検討する。
- 21-29. 研究計画書の作成 [講義・実習・質疑応答]
 - 効果的な研究法を立案し、研究計画を完成させる。
- 30. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
 - 研究計画について内容をプレゼンテーションする。
 - (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。(復習)

- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施する

こと。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

研究計画書(80%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】特別研究 II

【授業コード】22H22A1 22H22A2

【代表教員】亀崎 路子

【授業概要】

特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
 - 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
 - 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
 - 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
- 《一般目標 (GIO) 》
- 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
- 3-4. 研究方法の検討 [演習]
- 5-6. 文献検索 [演習]
- 7-13. 調査 [演習]
- 14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習) 1-15. 各回のテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。
- また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を済ませておく。
- (復習)

1-15. 各回の内容を研究ノートにまとめる。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究 II

【授業コード】22H22C1 22H22C2

【代表教員】下島 裕美

【授業概要】

特別研究では、研究計画に基づき、調査や検討を行い、博士論文を作成する過程を学ぶ。特別研究 II は、研究実施への着手からデータを処理する段階までを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 - 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
 - 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
 - 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
- 《一般目標 (GIO) 》
- 自らの関心および研究計画に基づき、博士論文の作成に向けて調査や検討を行い、論文を作成する手順について理解する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

- ①適切な作業仮説の設定ができる。
- ②それに基づいた研究プロトコールが作成できる。
- ③得られたデータの統計解析が適切にできる。
- ④内外の関連文献を批判的にレビューできる。
- ⑤得られたデータに基づいて簡潔な科学論文が作成できる。

【授業計画】

1-2. 研究目的と研究方法の妥当性の再確認 [演習]

3-10. 研究の実施 [演習]

11-14. データの解析 [演習]

15. 論文の作成の準備 [演習]

(フィードバック方法) 課題の提出等を求めた場合は、フィードバックとして、時間内に解説を行うとともに、原則として添削後返却する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータを整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分を必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H2T2D1 22H2T2D2

【代表教員】樽井 武彦

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究計画に沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

〈一般目標 (GIO) 〉

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①研究に必要な倫理審査が受けられる。

②研究に必要な最新の文献収集が行える。

③計画通りに研究を遂行できる。

④得られた結果を適切に解析できる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、必要な倫理審査の指導 [講義・実習・質疑応答]

研究計画立案を確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。

3-11. 研究の実施 [実習・質疑応答]

研究を実施しながらデータを収集し、研究が適切に進められるよう指導を行う。

12-14. 研究結果のまとめと解析 [実習・質疑応答]

得られた研究結果の解析を行い仮説を検証する。

15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]

研究結果の解析について内容をプレゼンテーションする。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程の調整をする。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。

(予習)

1-14. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。

また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を済ませておくこと。

15. プレゼンテーションの準備を済ませておくこと。

(復習)

1-15. 各回の授業内容をまとめておくこと。学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分を必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H2T2E1 22H2T2E2

【代表教員】山田 賢治

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究計画に沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

〈一般目標 (GIO) 〉

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①研究に必要な倫理審査が受けられる。

②研究に必要な最新の文献収集が行える。

③計画通りに研究を遂行できる。

④得られた結果を適切に解析できる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、必要な倫理審査の指導 [講義・実習・質疑応答]

研究計画立案を確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。

3-11. 研究の実施 [実習・質疑応答]

研究を実施しながらデータを収集し、研究が適切に進められるよう指導を行う。

12-14. 研究結果のまとめと解析 [実習・質疑応答]

得られた研究結果の解析を行い仮説を検証する。

15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]

研究結果の解析について内容をプレゼンテーションする。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程の調整をする。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。

(予習)

1-14. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。

また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を済ませておくこと。

15. プレゼンテーションの準備を済ませておくこと。

(復習)

1-15. 各回の授業内容をまとめておくこと。

学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分を必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究II

【授業コード】22H2T2F1 22H2T2F2

【代表教員】松岡 弘芳

【授業概要】

特別研究Iで作成された研究計画に沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①研究に必要な倫理審査が受けられる。
- ②研究に必要な最新の文献収集が行える。
- ③計画通りに研究を遂行できる。
- ④得られた結果を適切に解析できる。

【授業計画】

- 1-2. 研究計画の確認、必要な倫理審査の指導 [講義・実習・質疑応答]
研究計画立案を確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。
- 3-11. 研究の実施 [実習・質疑応答]
研究を実施しながらデータを収集し、研究が適切に進められるよう指導を行う。
- 12-14. 研究結果のまとめと解析 [実習・質疑応答]
得られた研究結果の解析を行い仮説を検証する。
15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
研究結果の解析について内容をプレゼンテーションする。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究III

【授業コード】22H2T3A1 22H2T3A2

【代表教員】亀崎 路子

【授業概要】

特別研究IIIでは、特別研究IIの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

特別研究IIと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. ゼミ前日までにレジュメと参考文献を指導教員に提出する。

(復習)

- 1-15. 各回の内容を研究ノートにまとめる。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用

して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究III

【授業コード】22H2T3C1 22H2T3C2

【代表教員】下島 裕美

【授業概要】

特別研究では、研究計画に基づき、調査や検討を行い、博士論文を作成する過程を学ぶ。特別研究IIIは、研究成果をまとめ、論文を作成し、発表を準備する段階までを目標とする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自らの関心および研究計画に基づき、博士論文の作成に向けて調査や検討を行い、論文を作成する手順について理解する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①適切な作業仮説の設定ができる。
- ②それに基づいた研究プロトコルが作成できる。
- ③得られたデータの統計解析が適切にできる。
- ④内外の関連文献を批判的にレビューできる。
- ⑤得られたデータに基づいて簡潔な科学論文が作成できる。

【授業計画】

- 1-2. データの解析結果の整理 [演習]
- 3-8. 論文の作成 [演習]
- 9-10. 論文提出の準備 [演習]
- 11-12. プレゼンテーション資料の作成 [演習]
- 13-14. プレゼンテーションおよび質疑応答の予行 [演習]
15. 全体のまとめ [演習]
(フィードバック方法) 課題の提出等を求めた場合は、フィードバックとして、時間内に解説を行うとともに、原則として添削後返却する。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータを整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】特別研究III

【授業コード】22H2T3D1 22H2T3D2

【代表教員】樽井 武彦

【授業概要】

特別研究IIの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。さらに研究結果の解釈などにつき十分に議論し、論文やプレゼンテーションが適切に作成できるように指導していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①得られた結果を適切に評価し考察できる。
- ②考察に必要な文献収集が行える。
- ③学術論文を作成でき、内容をプレゼンテーションできる。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の整理・再検討 [実習・質疑応答]
研究で得られた結果を再検討し、仮説を再検証する。
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [実習・質疑応答]
研究結果について考察・討論を行い、研究の方向性を修正する。
- 7-9. 論文構成、内容整理 [実習・質疑応答]
論文作成に向けて、考察・討論の内容について論点を整理する。
- 10-12. 論文作成、討議 [実習・質疑応答]
学位論文を作成しながら、内容の討議を行う。
- 13-15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
学位論文を作成し、内容のプレゼンテーションを行う。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

学位論文作成に向けたタイムスケジュールに基づいて内容、日程の調整をする。討論、発表や検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。
(予習)

- 1-12. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。各回のテーマについて関連文献をあらかじめ読んでおき、必要な資料は整理しておくこと。
- 13-15. 必要な資料を整理しておき、論文やプレゼンテーション作成の準備を済ませておくこと。(復習)
- 1-15. 各回の授業内容をまとめておくこと。学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H2T3E1 22H2T3E2

【代表教員】山田 賢治

【授業概要】

特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。さらに研究結果の解釈などにつき十分に議論し、論文やプレゼンテーションが適切に作成できるように指導していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①得られた結果を適切に評価し考察できる。
- ②考察に必要な文献収集が行える。
- ③学術論文を作成でき、内容をプレゼンテーションできる。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の整理・再検討 [実習・質疑応答]
研究で得られた結果を再検討し、仮説を再検証する。
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [実習・質疑応答]
研究結果について考察・討論を行い、研究の方向性を修正する。
- 7-9. 論文構成、内容整理 [実習・質疑応答]
論文作成に向けて、考察・討論の内容について論点を整理する。
- 10-12. 論文作成、討議 [実習・質疑応答]
学位論文を作成しながら、内容の討議を行う。
- 13-15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
学位論文を作成し、内容のプレゼンテーションを行う。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

学位論文作成に向けたタイムスケジュールに基づいて内容、日程の調整をする。討論、発表や検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。

(予習)

- 1-12. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。各回のテーマについて関連文献をあらかじめ読んでおき、必要な資料は整理しておくこと。
- 13-15. 必要な資料を整理しておき、論文やプレゼンテーション作成の準備を済ませておくこと。(復習)
- 1-15. 各回の授業内容をまとめておくこと。学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H2T3F1 22H2T3F2

【代表教員】松岡 弘芳

【授業概要】

特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。さらに研究結果の解釈などにつき十分に議論し、論文やプレゼンテーションが適切に作成できるように指導していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①得られた結果を適切に評価し考察できる。
- ②考察に必要な文献収集が行える。
- ③学術論文を作成でき、内容をプレゼンテーションできる。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の整理・再検討 [実習・質疑応答]
研究で得られた結果を再検討し、仮説を再検証する。
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [実習・質疑応答]
研究結果について考察・討論を行い、研究の方向性を修正する。
- 7-9. 論文構成、内容整理 [実習・質疑応答]
論文作成に向けて、考察・討論の内容について論点を整理する。
- 10-12. 論文作成、討議 [実習・質疑応答]
学位論文を作成しながら、内容の討議を行う。
- 13-15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
学位論文を作成し、内容のプレゼンテーションを行う。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

保健学専攻 博士後期課程

臨床工学分野

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【臨床工学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身に付け、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
臨	心電学Ⅱ	岩楯 桜子	2		○	×	×	★	★				263
	超音波医学Ⅱ	岸野 智則	2		○	×	×	★		★	★		263
	先端臨床工学Ⅲ	中島 章夫	2		○	○	×	★	★	★	★	★	263
	生命支援工学	福長 一義	2	○		×	×	★					264
	人体の許容限界	小林 博子	2	○		×	×	★	★	★		★	264
床	臨床工学特別講義Ⅰ	休講											
	臨床工学特別講義Ⅱ	休講											
工	臨床医学セミナー	岸野 智則	2		○	×	×	★	★	★	★	★	264
	循環器病学セミナー	岸野 智則	2		○	×	×	★		★	★		265
	特別研究Ⅰ	岸野 智則	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	265
	特別研究Ⅰ	中島 章夫	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	265
	特別研究Ⅰ	福長 一義	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	266
学	特別研究Ⅰ	磯山 隆	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	266
	特別研究Ⅰ	岩楯 桜子	4	○	○	—	—				★		266
	特別研究Ⅱ	岸野 智則	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	267
	特別研究Ⅱ	中島 章夫	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	267
	特別研究Ⅱ	福長 一義	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	267
分	特別研究Ⅱ	磯山 隆	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	268
	特別研究Ⅱ	岩楯 桜子	2	○	○	—	—				★		268
	特別研究Ⅲ	岸野 智則	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	268
	特別研究Ⅲ	中島 章夫	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	268
	特別研究Ⅲ	福長 一義	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	269
野	特別研究Ⅲ	磯山 隆	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	269
	特別研究Ⅲ	岩楯 桜子	2	○	○	—	—				★		269

【保健学専攻 臨床工学分野 博士後期課程 履修モデル】
 ★臨床工学の研究者を目指す大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野の臨床工学分野から5科目と特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する。(計18単位)
- ・副科目として、看護学専攻に配置されている統計学Ⅰ、統計学Ⅱを履修する。(計4単位)

修了要件 (20単位以上)								
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主科目	専門分野科目	循環器病学Ⅱ 2	先端臨床工学Ⅲ 2	生命支援工学 2	心電学Ⅱ 2	人体の許容限界 2		18
	特別研究	特別研究Ⅰ (通年) 2	特別研究Ⅰ (通年) 2		特別研究Ⅱ 2		特別研究Ⅲ 2	
主科目小計		4	4	2	4	2	2	
副科目	他専攻／他専門分野科目	統計学Ⅰ 2	統計学Ⅱ 2					4
	副科目小計	2	2	0	0	0	0	
合計		6	6	2	4	2	2	22

【科目名】心電学Ⅱ

【授業コード】22H30012

【代表教員】岩橋 桜子

【授業概要】

心電学の基礎知識、実践的知識、臨床応用について解説し、演習により心電図診断能力を養う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

≪一般目標 (GIO) ≫

標準 12 誘導心電図、運動負荷心電図などの心電図診断ができるようになる。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①標準 12 誘導心電図の知識を修得し診断できるようになる。

②ホルター心電図の知識を修得し診断できるようになる。

③運動負荷心電図の知識を修得し診断できるようになる。

④微小電位心電図、ベクトル心電図の基礎知識を理解する。

【授業計画】

1. 心電診断の基礎Ⅰ [講義・質疑応答]

心電図の誘導理論などの基礎と応用を学ぶ。

2. 心電診断の基礎Ⅱ [講義・質疑応答]

心電図所見の基礎的理論と実践応用について学ぶ。

3. 心電図診断の基礎Ⅲ [講義・質疑応答]

心電図波形の経時的変化と心疾患について学ぶ。

4. 不整脈Ⅰ [講義・質疑応答]

不整脈の成因理論とその臨床応用について学ぶ。

5. 不整脈Ⅱ [講義・質疑応答]

致死的不整脈の診断法とくに標準 12 誘導心電図における鑑別法について学ぶ。

6. 虚血性心疾患 [講義・質疑応答]

虚血性心疾患の特殊な心電図所見について学ぶ。

7. ホルター心電図 [講義・質疑応答]

ホルター心電図の基礎と臨床応用、診断法について学ぶ。

8. 微小電位心電図、ベクトル心電図 [講義・質疑応答]

微小電位心電図やベクトル心電図などの特殊心電図について学ぶ。

9. 運動負荷心電図 [講義・質疑応答]

運動負荷心電図の基礎と臨床応用、診断法について学ぶ。

10. 診断演習 [演習]

各種心疾患の心電図の診断演習を行い、心電図診断能力を養う。

11. 診断演習 [演習]

各種心疾患の心電図の診断演習を行い、心電図診断能力を養う。

12. 診断演習 [演習]

各種心疾患の心電図の診断演習を行い、心電図診断能力を養う。

13. 診断演習 [演習]

各種心疾患の心電図の診断演習を行い、心電図診断能力を養う。

14. 診断演習 [演習]

各種心疾患の心電図の診断演習を行い、心電図診断能力を養う。

15. 診断演習 [演習]

各種心疾患の心電図の診断演習を行い、心電図診断能力を養う。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (100%)

【備考】

【科目名】超音波医学Ⅱ

【授業コード】22H30022

【代表教員】岸野 智則

【授業概要】

著名な英文誌から、超音波に関する研究論文を選び、まとめ、その要旨などについて担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする技能を養う。このとき、1) 研究に至る背景や目的の設定、2) 解決のための方法の確立、3) 結果の解釈、4) 考察の方法を分析し、当該文献の研究の組み立て方を説明できるようにする。また、論文作成時の注意点について具体的に説明できるようにする。これらの訓練を繰り返すことで、以下の到達目標を達成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内

容を説得力を持って発表することができる。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①科学的新奇性を開拓できる。

②端的に要領よくプレゼンテーションすることができる。

③科学的な論理展開の思考過程を身につけることができる。

④科学論文に頻用される英文記述法を修得できる。

⑤自己の研究や論文作成に活用できる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

本講義形態の概略説明と実例提示。

2-4. 文献の紹介 [プレゼンテーション]

各人が論文 1 文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。

5. 中間総括 [プレゼンテーション]

自己の研究予定テーマの紹介。

6-9. 文献の紹介 [プレゼンテーション]

各人が論文 1 文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。

10. 中間総括 [プレゼンテーション]

自己の研究予定テーマの紹介。

11-14. 文献の紹介 [プレゼンテーション]

各人が論文 1 文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。

15. 最終総括 [まとめ]

今までの講義内容をまとめる。

(フィードバック方法) 毎回のプレゼンテーション内容などに対するフィードバックは適宜行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、提示する文献の要旨について、研究結果を示す図や表を適宜加え A4 紙 1 枚程度にまとめ、担当教員を含めた受講者全員に、講義の当日配布するよう準備する。

また、文献を基に学んだ病態生理や英文表現、更には自分の考える研究テーマについて、受講者全員に紹介できるよう準備する。

(復習)

1-15. 各回のプレゼン内容から、独自のノートを作成する。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (30%)、プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (40%)

【備考】

【科目名】先端臨床工学Ⅲ

【授業コード】22H30032

【代表教員】中島 章夫

【授業概要】

臨床で用いられる医療機器の原理や安全管理システムの特徴を理解し、その問題点を把握するとともに、医療機器で用いられている回路の製作や各種計測機器の取扱いと安全性について修得するため、教育・指導方法について検討する。併せて、今後臨床で必要とされる指導能力、及び臨床工学的センス高めるため、臨床工学関連分野の最新の研究について調査・理解し、プレゼンテーションできる能力を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

・専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

≪一般目標 (GIO) ≫

臨床で用いられている医療機器の原理構造を理解し、医療安全の改善手法を身につけ、臨床工学研究者としての医療機器の改善・開発の基礎を養う。また、各種治療機器・生体計測装置の原理構造を理解し、医療現場で教育指導できる能力を養う。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①医療機器で用いられている素子やセンサの特性を理解し、教育・指導方法について検討する。

②医療機器で用いられている電源回路、各種増幅回路の入出力特性を理解し、教育・指導方法について検討する。

③各種計測機器、電源装置、信号発生装置の取扱いと安全性について修得し、教育・指導方法について検討する。

④回路制作に必要な周辺知識について修得し、教育・指導方法について検討する。

⑤論文・文献の調べ方、考察のまとめかた、プレゼンテーション技法について修得する。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

本講義の進め方を説明すると共に、講義日程の確認、文献の検索方法について確認を行う。

2-4. 臨床工学研究事例紹介 [講義・質疑応答]

臨床工学の工学的手法を用いた研究に関する論文を紹介し、内容について理解を深める。

5-7. 医療機器で用いられている電源回路、各種増幅回路等の製作 [グループワーク]

実際の医療機器で用いられている電気・電子回路の基本となる、電源回路、各種増幅回

路等の製作をキットを用いて行い、その入出力特性等測定、検討を行う。

8-9. 製作回路における教育・指導方法について検討 [グループワーク]
製作した電源回路、各種増幅回路の動作原理を元に理解を深めるための教育・指導方法について検討する。

10-12. 実験計画の立案 [グループワーク]
各種計測機器、電源装置、信号発生装置を用いた取扱と安全性に関する実験計画を立案する。

13-14. 各種計測機器における教育・指導方法について検討 [プレゼン]
各種計測機器、電源装置、信号発生装置の取扱いと安全性に関して立案した実験計画を元に、理解を深めるための教育・指導方法について検討する。

15. 総合討論 [プレゼン]
工学的な実験をおこなう立場から臨床工学分野のリーダーとして必要な教育・指導方法について討議を行う。

(フィードバック方法) グループワーク、プレゼンでの検討課題については、次回の講義でフィードバックする。

【準備学習】

(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (80%)、プレゼン (20%)

【備考】

【科目名】 生命支援工学

【授業コード】 22H30041

【代表教員】 福長 一義

【授業概要】

ロボット義手、介護ロボット、人工心臓など生活や生命を支援する医療機器について講義または調査発表を行い、その後議論をしながら意見・情報交換をする。また、工学を自らの研究と結びつけ、発展性について検討する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
《一般目標 (GIO) 》
生活・生命を支援する様々な機器および工学技術についての知見を深める。
《個別目標 (SBOs) 》
①生命を支援する医療機器の種類と概要について述べるができる。
②介護、福祉関連の医用工学技術および生命支援機器について説明できる。
③病院で使用されている医用工学技術および生命支援機器について説明できる。
④在宅で使用されている医用工学技術および生命支援機器について説明できる。
⑤人工臓器で使用されている医用工学技術および生命支援機器について説明できる。

【授業計画】

1. 生命支援工学の概要 [講義・質疑応答]
生命を支援する工学技術や機器の概要を学ぶ。
 - 2-4. 介護、福祉関連 [講義・質疑応答]
介護、福祉関連の医用工学技術および生命支援機器について学ぶ。
 - 5-7. 病院関連 [講義・質疑応答]
病院で使用されている医用工学技術および生命支援機器について学ぶ。
 - 8-10. 在宅関連 [講義・質疑応答]
在宅で使用されている医用工学技術および生命支援機器について学ぶ。
 - 11-12. 人工臓器関連 [講義・質疑応答]
人工臓器で使用されている医用工学技術および生命支援機器について学ぶ。
 - 13-14. ニーズとシーズ [講義・プレゼンテーション・質疑応答]
生命支援工学技術のニーズと各自の持っているシーズについて考える。
 15. まとめ [講義・質疑応答]
これまでの講義を総括する。
- (フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関しての文献やデータを整理し、A4 1 枚のレジュメを作成するとともに、スライドで報告できるように準備すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (40%)、プレゼンテーション (20%)、課題 (40%)

【備考】

【科目名】 人体の許容限界

【授業コード】 22H30051

【代表教員】 小林 博子

【授業概要】

人体の活動に関連して現れる様々な要因が人体に対する負荷として作用することを例を挙げて解説し、この中からいくつかの要因を対象として、人体に過大な負荷が与えられた場合の許容限界を考察し、様々な負荷の様式や防御の方法などを総合的に考察する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
《一般目標 (GIO) 》
人体に過大な負荷が与えられた場合の許容限界を考察し、様々な負荷の様式や防御の方法などを総合的に学ぶ。
《個別目標 (SBOs) 》
①人体の活動に関連して現れる様々な要因が人体に対する負荷として作用することを例を挙げて説明できる。
②人体に過大な負荷が与えられた場合の許容条件を述べるができる。
③様々な負荷の様式や防御の方法などを説明できる。

【授業計画】

- 1-4. 人体に対する負荷とは [講義・質疑応答]
日常生活および特殊環境のもとで起こりうる過大な負荷について、環境による人体の生理学的、心理学的、運動学的、生物学的、物理学的な応答と許容限界について概要をまとめて考察する。
 - 5-6. 生理学的な許容限界 [講義・質疑応答]
様々な負荷に対する生理学的な許容限界を文獻的に考察する。
 - 7-8. 心理学的な許容限界 [講義・質疑応答]
様々な負荷に対する心理学的な許容限界を文獻的に考察する。
 - 9-10. 運動学的な許容限界 [講義・質疑応答]
様々な負荷に対する運動学的な許容限界を文獻的に考察する。
 - 11-12. 物理学的な許容限界 [講義・質疑応答]
様々な負荷に対する物理学的な許容限界を文獻的に考察する。
 - 13-14. 栄養学的な許容限界 [講義・質疑応答]
肥満や飢餓など様々な負荷に対する栄養学的な許容限界を文獻的に考察する。
 15. 総合的なディスカッション [講義・質疑応答・ディスカッション]
これまでの講義内容をふまえて、ディスカッションを行う。
- (フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)
1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】 臨床医学セミナー

【授業コード】 22H30082

【代表教員】 岸野 智則

【授業概要】

英文誌「N Engl J Med」、「Lancet」などから、症例報告を除く研究論文などを選び、まとめ、その内容について担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする技能を養う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
《個別目標 (SBOs) 》
①科学的新奇性を開拓できる。
②端的に要領よくプレゼンテーションすることができる。
③科学的な論理展開の思考過程を身につけることができる。
④科学論文に頻用される英文表現を修得できる。
⑤自己の研究や論文作成に活用できる。

【授業計画】

1. ガイドンス [講義・質疑応答]
本講義形態の概略説明と実例提示。

- 2-4. 文献の紹介 [プレゼンテーション]
各人が英語の論文1文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。
5. 中間総括 [プレゼンテーション]
自己の研究予定テーマの紹介。
- 6-9. 文献の紹介 [プレゼンテーション]
各人が英語の論文1文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。
10. 中間総括 [プレゼンテーション]
自己の研究予定テーマの紹介。
- 11-14. 文献の紹介 [プレゼンテーション]
各人が英語の論文1文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。
15. 最終総括 [まとめ・講義・質疑応答]
今までの講義内容をまとめる。
- (フィードバック方法) 毎回のプレゼンテーション内容などに対するフィードバックは適宜行なう。

【準備学習】
(予習)

- 1-15. 各回とも、示す文献の要旨について、研究結果を示す図や表を適宜加えA4紙1枚程度にまとめ、担当教員を含めた受講者全員に、講義の当日配布するよう準備する。また、文献を基に学んだ病態生理や英文表現、更には自分の考える研究テーマについて、受講者全員で紹介できるよう準備する。

(復習)

- 1-15. 各回のプレゼン内容から、独自のノートを作成する。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、口頭試問(40%)

【備考】

【科目名】 循環器病学セミナー

【授業コード】 22H30092

【代表教員】 岸野 智則

【授業概要】

著名な英文誌から、循環器病学に関するA. 研究論文やB. 症例報告論文を選び、まとめ、その要旨などについて担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする技能を養う。このとき、A. 研究論文であれば、1) 研究に至る背景や目的の設定、2) 解決のための方法の確立、3) 結果の解釈、4) 考察の方法、B. 症例報告論文であれば、1) 疾患や症例背景の精査、2) 症例提示法、3) 考察の方法について分析し、当該文献のA. 研究の組み立て方や、B. 症例提示のこつなどを説明できるようにする。また、論文作成時の注意点について具体的に説明できるようにする。これらの訓練を繰り返すことで、以下の到達目標を達成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
《個別目標(SBOs)》
①科学的な新奇性を開拓できる。
②端的に要領よくプレゼンテーションすることができる。
③科学的な論理展開の思考過程を身につけることができる。
④科学論文に頻用される英文記述法を修得できる。
⑤自己の研究や論文作成に応用できる。

【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]
本講義形態の概略説明と実例提示。
- 2-4. 文献の紹介 [プレゼンテーション]
各人が論文1文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。
5. 中間総括 [プレゼンテーション]
自己の研究予定テーマの紹介。
- 6-9. 文献の紹介 [プレゼンテーション]
各人が論文1文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。
10. 中間総括 [プレゼンテーション]
自己の研究予定テーマの紹介。
- 11-14. 文献の紹介 [プレゼンテーション]
各人が論文1文献を準備し、担当教員を含む受講者全員にプレゼンテーションする。
15. 最終総括 [まとめ・講義・質疑応答]
今までの講義内容をまとめる。
- (フィードバック方法) 毎回のプレゼンテーション内容などに対するフィードバックは適宜行なう。

【準備学習】
(予習)

- 1-15. 各回とも、示す文献の要旨について、研究結果を示す図や表を適宜加えA4紙1枚程度にまとめ、担当教員を含めた受講者全員に、講義の当日配布するよう準備する。また、文献を基に学んだ病態生理や英文表現、更には自分の考える研究テーマについて、受講者全員で紹介できるよう準備する。
- (復習)
- 1-15. 各回のプレゼン内容から、独自のノートを作成する。

- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、口頭試問(40%)

【備考】

【科目名】 特別研究I

【授業コード】 22H311A1 22H311A2

【代表教員】 岸野 智則

【授業概要】

自己の興味ある分野の中から、学位論文作成に向けて研究テーマを明確にし、先行研究に関連する最新文献をチェックして具体的な研究方法を計画立案する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標(GIO)》

- 自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。
《個別目標(SBOs)》
①実行可能な研究テーマを選択できる。
②研究に必要な文献収集が行える。
③効果的な研究法略を立案できる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [講義・実習・質疑応答]
興味ある分野について、先行研究に関する最新の文献をチェックして内容を検討し、研究テーマを決定する。
- 9-16. 関連文献の検討 [講義・実習・質疑応答]
研究テーマに関連する文献をチェックして、研究内容を検討し仮説を立てる。
- 17-20. 研究方法論の検討 [講義・実習・質疑応答]
仮説を検証するための具体的な方法と期待される結果について検討する。
- 21-29. 研究計画書の作成 [講義・実習・質疑応答]
効果的な研究法略を立案し、研究計画を完成させる。
30. プレゼンテーション [実習・質疑応答]
研究計画について内容をプレゼンテーションする。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

- 1-30. 各回とも、自己の研究課題を明確にし、その進捗状況をスライドで報告できるように準備する。参考とした文献はファイリングし、口演、論文報告時にいつでも参照できる準備しておく。学位論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程を調整する。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。
- (復習)

- 1-30. 各回のプレゼン内容から、独自のノートを作成する。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

研究計画書(80%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】 特別研究I

【授業コード】 22H311B1 22H311B2

【代表教員】 中島 章夫

【授業概要】

自己の研究課題を明確にする。過去の文献などを参考に、オリジナリティのあるテーマを開拓する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考

察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

〈個別目標 (SBOs) 〉

関連する過去の研究を調査し、自己の研究課題をクリアにする。

【授業計画】

- 1-8. 研究課題の決定 [演習]
興味のある研究課題に関連する最新の文献を調査し、具体的な未解決問題を見出す。
- 9-16. 研究課題の検討 [演習]
自己の研究課題の参考となる文献を検索し、研究の背景を把握する。
- 17-24. 研究方法の確立 [演習]
実施可能な具体的な研究手法を検討する。
- 25-30. 研究計画書の作成 [演習]
論文作成に向けたタイムテーブルを作成し、セメスター毎の目標を明確にするとともに、研究計画書を作成する。
(フィードバック方法) 進捗状況を毎回報告する。

【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
毎回、進捗状況をスライドで報告できるように準備する。加工前の実験生データや、参考文献参考資料はいつでも速やかに参照できるように準備しておくこと。

(復習)

- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(60%)、研究計画書(40%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H3T1C1 22H3T1C2

【代表教員】福長 一義

【授業概要】

自己の研究課題を明確にする。過去の文献などを参考に、オリジナリティのあるテーマを開拓する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

〈個別目標 (SBOs) 〉

関連する過去の研究を調査し、自己の研究課題をクリアにする。

【授業計画】

- 1-8. 研究課題の検討 [演習]
興味のある研究課題に関連する最新の文献を調査し、具体的な未解決問題を見出す。
- 9-16. 関連文献の検索 [演習]
自己の研究課題の参考となる文献を検索し、研究の背景を把握する。
- 17-24. 研究方法の確立 [演習]
実施可能な具体的な研究手法を検討する。
- 25-30. 研究計画書の作成 [演習]
論文作成に向けたタイムテーブルを作成し、セメスター毎の目標を明確にするとともに、研究計画書を作成する。
(フィードバック方法) 進捗状況を毎回報告する。

【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
毎回、進捗状況をスライドで報告できるように準備する。加工前の実験生データや、参考文献参考資料はいつでも速やかに参照できるように準備しておくこと。

(復習)

- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(60%)、研究計画書(40%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H3T1D1 22H3T1D2

【代表教員】磯山 隆

【授業概要】

博士論文作成に向けて、研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

〈一般目標 (GIO) 〉

研究課題を明確にする。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①興味の対象を抽出することができる。

②関連論文を抽出することができる。

③研究手法を明確にすることができる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
興味の対象を明らかにする。
- 9-19. 関連文献の検討 [演習]
関連論文、先行研究について理解する。
- 20-25. 研究方法論の検討 [演習]
関連論文、先行研究の研究手法について理解する。
- 26-30. 研究計画書の作成 [演習]
研究テーマを決定し、その研究計画を作成する。
(フィードバック方法) 課題についてのフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-30. 演習内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H3T1E1 22H3T1E2

【代表教員】岩橋 桜子

【授業概要】

学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

研究遂行能力

・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

研究課題および方法を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
- 9-16. 先行研究の検討 [演習]
- 17-20. 研究方法論の作成 [演習]
- 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H3T2A1 22H3T2A2
【代表教員】岸野 智則
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究計画に沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①研究に必要な倫理審査が受けられる。
- ②研究に必要な最新の文献収集が行える。
- ③計画通りに研究を遂行できる。
- ④得られた結果を適切に解析できる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、必要な倫理審査の指導 [講義・実習・質疑応答]

研究計画立案を確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。

3-11. 研究の実施 [実習・質疑応答]

研究を実施しながらデータを収集し、研究が適切に進められるよう指導を行う。

12-14. 研究結果のまとめと解析 [実習・質疑応答]

得られた研究結果の解析を行い仮説を検証する。

15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]

研究結果の解析について内容をプレゼンテーションする。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、自己の研究課題を明確にし、その進捗状況をスライドで報告できるように準備する。参考とした文献はファイリングし、口演、論文報告時いつでも参照できる準備しておく。学位論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程を調整する。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。

(復習)

1-15. 各回のプレゼン内容から、独自のノートを作成する。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H3T2B1 22H3T2B2
【代表教員】中島 章夫
【授業概要】

特別研究Ⅰで具体化した研究課題に対して、具体的な研究方法が計画立案されているのか確認し、必要であれば軌道修正する。当該研究に関連する最新文献や学会発表を常に把握するように努め、自己の研究の位置付けやオリジナリティを明確にする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を

遂行できる。

《個別目標 (SBOs) 》

関連する過去の研究を調査し、自己の研究課題をクリアにする。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認と再検討 [演習]

研究計画案を再確認し、期限内で実施可能かについて必要に応じて修正する。

3-7. 実験準備 [演習]

研究計画に基づき実験系の構築や開発を行い、実験条件や実現性について検討を行う。

8-12. データ取得・結果の分析 [演習]

研究を実施し、論文にするとときに条件やデータが不測しないか常に検討しながらデータを取得する。得られたデータ・結果を分析し、先行研究などと比較・考察し、研究のオリジナリティや妥当性について確認する。

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション・演習]

学会発表などを見据えてプレゼンテーションの準備を行う。

(フィードバック方法) 進捗状況を毎回報告する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

毎回、進捗状況をスライドで報告できるように準備する。加工前の実験生データや、参考文献参考資料はいつでも速やかに参照できるように準備しておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、研究計画書(20%)、プレゼンテーション(10%)、論文(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H3T2C1 22H3T2C2
【代表教員】福長 一義
【授業概要】

特別研究Ⅰで具体化した研究課題に対して、妥当なアプローチをしているか確認し、必要であれば軌道修正する。当該研究に関連する最新文献や学会発表を常に把握するように努め、自己の研究の位置付けと、セールスポイントを明確にする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《個別目標 (SBOs) 》

研究論文のアウトラインを作成できる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認と再検討 [演習]

期間内にやり遂げられる研究計画であるか再確認し、必要に応じて修正する。

3-7. 開発と実験準備 [演習]

装置や実験系の開発を行う。基礎的な実験で得られた結果を基に、装置、実験系の修正や、実験条件を確認する。

8-12. データ取得 [演習]

論文にするとときに条件やデータが不測しないか常に検討しながらデータを取得していく。

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

学会報告などを見据えて口頭発表の準備を行う。

(フィードバック方法) 進捗状況を毎回報告する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

毎回、進捗状況をスライドで報告できるように準備する。加工前の実験生データや、参考文献参考資料はいつでも速やかに参照できるように準備しておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H3T2D1 22H3T2D2
【代表教員】磯山 隆
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法指導する。倫理審査が必要な場合は、倫理審査が受けられるように指導する。さらに、研究が適切に進められるよう指導を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

具体的な研究方法を明確にし、遂行する。

《個別目標 (SBOs) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表できる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

特別研究Ⅰで作成された研究テーマを確認し、研究概要をまとめる。

3-5. 研究方法の検討 [演習]

具体的な研究手法について検討する。

6-8. 文献検索 [演習]

最新文献を参考にし、研究を遂行する。

9-13. 研究の遂行 [演習]

研究を遂行する。

14-15. プレゼンテーションの準備 [演習]

研究内容の中間まとめを行い、発表できるように準備する。

(フィードバック方法) 課題が有る場合は、次回の講義で説明し、フィードバックする。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 演習内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H3T2E1 22H3T2E2
【代表教員】岩橋 桜子
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

研究遂行能力

・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習]

4-6. 研究方法の検討 [演習]

7-9. 文献検索 [演習]

10-12. フィールドワーク [演習]

13-15. プレゼンテーション [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ
【授業コード】22H3T3A1 22H3T3A2
【代表教員】岸野 智則
【授業概要】

特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。さらに研究結果の解釈などにつき十分に議論し、論文やプレゼンテーションが適切に作成できるように指導していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究テーマを明確にし、研究計画を立案する。計画に沿って研究を遂行し、学術論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

①得られた結果を適切に評価し考察できる。

②考察に必要な文献収集が行える。

③学術論文を作成でき、内容をプレゼンテーションできる。

【授業計画】

1-3. 研究内容の整理・再検討 [実習・質疑応答]

研究で得られた結果を再検討し、仮説を再検証する。

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [実習・質疑応答]

研究結果について考察・討議を行い、研究の方向性を修正する。

7-9. 論文構成、内容整理 [実習・質疑応答]

論文作成に向けて、考察・討議の内容について論点を整理する。

10-12. 論文作成、討議 [実習・質疑応答]

学位論文を作成しながら、内容の討議を行う。

13-15. プレゼンテーション [実習・質疑応答]

学位論文を作成し、内容のプレゼンテーションを行う。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、自己の研究課題を明確にし、その進捗状況をスライドで報告できるように準備する。参考とした文献はファイリングし、口演、論文報告時にいつでも参照できる準備しておく。学位論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいて内容、日程を調整する。検討文献などがあれば、前日までに要旨や文献のコピーを指導教員に提出しておくこと。

(復習)

1-15. 各回のプレゼン内容から、独自のノートを作成する。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ
【授業コード】22H3T3B1 22H3T3B2
【代表教員】中島 章夫
【授業概要】

特別研究Ⅱで得られた結果、及び指摘された問題点を考察・修正し、研究結果の解釈について十分に議論を行う。学位論文の作成と同時に、結果の一部を学会発表および学術誌へ投稿するための準備を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《個別目標 (SBOs)》

①得られた結果を適切に評価し考察できる。

②限られた時間内に研究成果を正しく伝えられるプレゼンテーションスキルを身につける。

③投稿論文を執筆する。

【授業計画】

1-2. 研究結果の整理と分析 [演習]

特別研究Ⅱで得られた結果を再度整理し、データの分析と解釈を行う。

3-4. 研究結果の考察・討議 [演習・質疑応答]

得られたデータ・結果を分析し、先行研究などと比較・考察し、研究のオリジナリティや妥当性について討議する。

5-7. 口演によるプレゼンテーション [演習・プレゼンテーション]

研究成果について学位論文をまとめるとともに、学会発表などで報告する。

プレゼンテーションの技能なども同時に学ぶ。

8-15. 論文作成 [演習・質疑応答]

学位論文作成しながら、投稿論文の執筆を同時に進める。投稿するジャーナルを決め具体的な執筆要項を元に論文の執筆を始めることで、研究論文の書き方を学ぶとともに、関連研究領域の中での学位論文の位置付けを再確認する。

(フィードバック方法) 進捗状況を毎回報告する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

毎回、進捗状況をスライドで報告できるように準備する。加工前の実験生データや、参考文献参考資料はいつでも速やかに参照できるように準備をしておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(20%)、プレゼンテーション(30%)、論文(50%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H3T3C1 22H3T3C2

【代表教員】福長 一義

【授業概要】

特別研究Ⅱで得られた結果を考察し、研究のアウトラインを修正する。学位論文の作成と同時に、結果の一部を学会発表および学術誌へ投稿するための準備を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《個別目標 (SBOs)》

①限られた時間内に研究成果を正しく伝えられるプレゼンテーションスキルを身につける。

②投稿論文を執筆する。

【授業計画】

1-2. 研究結果の整理と分析 [演習]

特別研究Ⅱで得られた結果を再度整理し、データの分析と解釈を行う。

3-4. 研究結果の考察 [演習]

分析結果と先行研究などを比較しオリジナリティや優位性、問題点を確認する。

5-7. 口演によるプレゼンテーション [演習・プレゼンテーション]

研究成果を学会発表などで報告する。プレゼンテーションの技能なども同時に学ぶ。

8-15. 論文作成 [演習]

投稿論文の執筆と、学位論文作成を同時に進める。投稿するジャーナルを決め具体的な執筆要項にしたがって論文の執筆を始めてみることで、基本的な論文の書き方を学ぶとともに、関連研究領域の中での学位論文の位置付けを再確認する。

(フィードバック方法) 進捗状況を毎回報告する。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

毎回、進捗状況をスライドで報告できるように準備する。加工前の実験生データや、参考文献参考資料はいつでも速やかに参照できるように準備をしておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(20%)、プレゼンテーション(20%)、論文(60%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H3T3D1 22H3T3D2

【代表教員】磯山 隆

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。

《個別目標 (SBOs)》

博士論文として十分な学術的価値を持ったものにできる。

【授業計画】

1. 研究内容の再検討、整理 [演習]

研究内容について再検討する。

2-3. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

研究内容をブラッシュアップする。

4-10. 論文構成、内容整理 [演習]

論文を作成し、構成および内容について検討する。

11-13. プレゼンテーション [演習]

論文内容のブラッシュアップを行う。

14-15. 論文作成、討議 [演習]

研究内容を発表できるように準備する。

(フィードバック方法) 課題が有る場合は、次回の講義で説明フィードバックする。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 演習内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H3T3E1 22H3T3E2

【代表教員】岩楯 桜子

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

研究遂行能力

・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO)》

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-12. 論文作成、討論 [演習]

13-15. プレゼンテーション [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

保健学専攻 博士後期課程
リハビリテーション科学分野

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【リハビリテーション科学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
リ	がんの理学療法学	八並 光信	2		○	個別対応	個別対応	★	★	★	★	★	274
	徒手理学療法学	松村 将司	2	○		○	×	★	★	★	★	★	274
	小児理学療法学	烏山 亜紀	2		○	×	○	★	★	★	★	★	274
	中枢神経生理学療法学	石井 博之	2		○	○	×	★	★			★	275
	国際理学療法学	木村 雅彦	2	○		○	○	★	★	★	★	★	275
ハ	地域生活環境学	榎本 雪絵	2		○	○	×	★	★	★	★	★	276
	作業科学	近藤 知子	2		○	個別対応	個別対応	★	★	★	★	★	276
ビ	精神障害作業療法学	長谷川 利夫	2		○	○	○	★	★	★	★	★	277
	神経系作業療法学	丹羽 正利	2	○		○	×	★	★	★	★	★	277
リ	認知・運動・活動障害学	柴田 茂貴	2	○	○	○	○	★	★	★	★	★	277
	老年期障害作業療法学	望月 秀樹	2		○	○	×	★					278
	臨床理学療法推論学セミナー	跡見 友章	2	○		○	×			★			278
	障害者スポーツ支援学セミナー	柴田 茂貴	2	○	○	○	○	★	★	★	★	★	278
テ	小児理学療法学セミナー	烏山 亜紀	2		○	×	○	★	★	★	★	★	279
	臨床理学療法学研究法セミナー	八並 光信	2		○	個別対応	個別対応	★	★	★	★	★	279
リ	脳卒中上肢機能回復学セミナー	岩崎 也生子	2		○	○	×	★	★				279
	神経系病態学セミナー	丹羽 正利	2	○		○	×	★	★	★	★	★	280
シ	運動器障害作業療法学特論	望月 秀樹	2		○	○	×	★					280
	特別研究 I	丹羽 正利	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	280
	特別研究 I	長谷川 利夫	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	281
	特別研究 I	望月 秀樹	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	281
	特別研究 I	近藤 知子	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	281
ヨ	特別研究 I	跡見 友章	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	281
	特別研究 I	石井 博之	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	282
	特別研究 I	柴田 茂貴	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	282
ン	特別研究 I	竹田 里江	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	282
	特別研究 II	丹羽 正利	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	283
科	特別研究 II	長谷川 利夫	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	283
	特別研究 II	望月 秀樹	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	283
	特別研究 II	近藤 知子	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	284
	特別研究 II	跡見 友章	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	284
	特別研究 II	石井 博之	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	284
学	特別研究 II	柴田 茂貴	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	284
	特別研究 II	竹田 里江	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	285

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【リハビリテーション科学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R3)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科 学	特別研究Ⅲ	丹羽 正利	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	285
	特別研究Ⅲ	長谷川 利夫	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	285
	特別研究Ⅲ	望月 秀樹	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	286
	特別研究Ⅲ	近藤 知子	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	286
	特別研究Ⅲ	跡見 友章	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	286
	特別研究Ⅲ	石井 博之	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	287
	特別研究Ⅲ	柴田 茂貴	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	287
	特別研究Ⅲ	竹田 里江	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	287

【保健学専攻 リハビリテーション科学分野 博士後期課程 履修モデル】
★リハビリテーション領域の教育・研究者を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野のリハビリテーション分野の科目から4科目と特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する。(計16単位)
- ・副科目として、保健学分野の保健福祉学を履修する。(2単位)
- ・副科目として、看護学専攻に配置されている統計学Ⅰ、統計学Ⅱを履修する。(4単位)

修了要件 (20単位以上)								
科目と単位		1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター	5 セメスター	6 セメスター	計
主科目	専門分野科目	神経系作業療法学 2	がんの理学療法学 2	徒手理学療法学 2	認知・運動・活動障害学 2			16
	特別研究	特別研究Ⅰ(通年) 2	特別研究Ⅰ(通年) 2		特別研究Ⅱ 2		特別研究Ⅲ 2	
主科目小計		4	4	2	4	0	2	
副科目	他専攻／他専門分野科目	統計学Ⅰ 2	統計学Ⅱ 2			保健福祉学 2		6
	副科目小計	2	2	0	0	2	0	
合計		6	6	2	4	2	2	22

【科目名】 がんの理学療法学

【授業コード】 22H50012

【代表教員】 八並 光信

【授業概要】

リハビリテーションの新しい領域として認められたがんの理学療法について、がんの病態生理・化学療法や放射線療法の原理・理学療法の進め方について教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

がんの病態生理、抗がん剤や放射線療法の原理について理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

造血幹細胞移植や生体部分肝移植などの先進的理学療法に対して理解する。

【授業計画】

1. がん細胞と造血幹細胞の特性 [講義・質疑応答]
がん細胞と幹細胞の相違点について学ぶ。
2. 免疫の基礎 (1) [講義・質疑応答]
免疫担当細胞の種類と機能について学ぶ。
3. 免疫の基礎 (2) [講義・質疑応答]
運動療法と免疫機能について学ぶ。
4. 放射線療法の基礎 [講義・質疑応答]
放射線療法の原理について学ぶ。
5. 放射線療法の副作用と理学療法 [講義・質疑応答]
急性、晩発性の副作用と理学療法について学ぶ。
6. 化学療法の基礎 [講義・質疑応答]
Skipper モデル、Gomperz モデル、Norton-Simon モデル、Goldie-Coldman モデルについて学ぶ。
7. 化学療法の副作用と理学療法 [講義・質疑応答]
抗がん剤の副作用と理学療法について学ぶ。
8. 頭部・頸部のがんと理学療法 [講義・質疑応答]
特に中枢神経系のがんの術後理学療法について学ぶ。
9. 肺がんと理学療法 [講義・質疑応答]
肺がん術前・術後の理学療法について学ぶ。
10. 乳がんと理学療法 [講義・質疑応答]
乳がん術後の理学療法 (リンパドレナージも含む) について学ぶ。
11. 骨肉腫と理学療法 [講義・質疑応答]
切断の理学療法と義肢について学ぶ。
12. 生体部分肝移植と理学療法 [講義・質疑応答]
生体部分肝移植の術前・術後の理学療法について学ぶ。
13. 造血幹細胞移植 [講義・質疑応答]
ドナーおよびレシピエントについて学ぶ。
14. GVHD とウイルス感染 [講義・質疑応答]
免疫抑制剤の副作用と感染症のリスク管理について学ぶ。
15. 造血幹細胞移植の理学療法 [講義・質疑応答]
造血幹細胞移植前後の理学療法と効果について学ぶ。
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (100%)

【備考】

【科目名】 徒手理学療法学

【授業コード】 22H50021

【代表教員】 松村 将司

【授業概要】

徒手理学療法は「臨床推論に基づき徒手的治療技術と運動療法を含む高度かつ個別の治療アプローチを使用し、神経・筋骨格系機能のマネージメントを行う理学療法の専門領域」である。各関節や病態に対する徒手理学療法を学び、ディスカッションする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 GIO》

徒手理学療法について専門的に説明できるようになる。

《個別目標 SBOs》

①徒手理学療法の概要から評価に至るまで説明できる。

②各関節や病態における徒手理学療法について理解し実践できる。

【授業計画】

1. オリエンテーション [講義・質疑応答]
徒手理学療法の概要について学ぶ。
2. クリニカルリズニング [講義・質疑応答]
徒手理学療法の基礎となるクリニカルリズニングの理論について学ぶ。
3. マニュアルセラピーにおける評価手順 [講義・演習・質疑応答]
徒手理学療法における評価手順の実践について学ぶ。
4. 整形外科徒手検査法 [講義・演習・質疑応答]
徒手理学療法で必要となる整形外科徒手検査法について学ぶ。
- 5-7. 肩関節に対する徒手理学療法 [講義・演習・質疑応答]
肩関節に対する軟部組織・関節モビライゼーションを用いた徒手理学療法を学ぶ。
- 8-10. 膝関節に対する徒手理学療法 [講義・演習・質疑応答]
膝関節に対する軟部組織・関節モビライゼーションを用いた徒手理学療法を学ぶ。
- 11-12. 末梢神経障害に対する徒手理学療法 [講義・演習・質疑応答]
末梢神経障害に対するニューロダイナミクスを用いた徒手理学療法を学ぶ。
- 13-14. バランス障害に対する徒手理学療法 [講義・演習・質疑応答]
主に前庭機能障害に起因するバランス障害に対する徒手理学療法を学ぶ。
15. まとめ [講義・演習・質疑応答]
これまでの講義内容を通して、ディスカッションを行う。
(フィードバック方法) 講義内容に対するフィードバックは当該講義ないしは次回の講義時間中に行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関しての文献を検索し整理しておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】 小児理学療法学

【授業コード】 22H50032

【代表教員】 鳥山 亜紀

【授業概要】

小児理学療法は、出生時あるいは発達段階の初期から障害を有する児への理学療法である。成人に対する理学療法と異なり、小児特有の知識や考え方が必要である。小児領域における理学療法について知識を整理し、小児期の特徴と正常発達を理解した上で、小児理学療法分野の代表的疾患である脳性麻痺児に対する理学療法に対する評価と治療アプローチの実践について学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

小児の正常発達と異常発達について理解し、障害児への発達支援プログラムを立案し、臨床における実際の理学療法について学ぶ。

《個別目標 (SBOs) 》

新生児・乳児の自発運動の発達の変化について理解し、評価できる。神経学的障害を持つ児に対する介入プログラムを立案し、説明、実践できる。

【授業計画】

1. 小児理学療法概論 [講義・質疑応答]
小児理学療法の基本概念および小児理学療法の特殊性についてディスカッションし、対象とする疾患・障害について知識を整理する。
2. 小児理学療法に必要な「発達学」という視点・発達理論について [講義・質疑応答]
発達理論の変遷について、発達とは何か、多面的な角度からディスカッションする。
- 3-4. 正常発達(1)(2) [講義・質疑応答]
乳幼児期初期の発達に焦点を当て、量的・質的発達についてディスカッションする。
- 5-6. 新生児・乳児の神経学的評価 [講義・質疑応答]
乳児期の神経学的評価についての先行研究を紹介し、臨床への応用について学習する。
- 7-11. 脳性麻痺に対する理学療法における評価と治療 [講義・質疑応答]
神経発達学的治療アプローチの概念を基礎に解説する。
- 12-13. 低出生体重児・ハイリスク児、NICUでの理学療法 [講義・質疑応答]
NICUにおける早期介入・発達支援について学習する。
14. 症例検討 [講義・質疑応答]
具体的症例を提示し、各症例の問題点および治療アプローチについて学ぶ。
15. まとめ [講義・質疑応答]
レポートを作成する。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)、口頭試問(20%)

【備考】

【科目名】 中枢神経系理学療法学

【授業コード】 22H50042

【代表教員】 石井 博之

【授業概要】

中枢神経疾患の中で最もリハビリテーションの対象となる脳血管障害の治療、回復過程を教授する。基本事項の病態、評価、治療、リハビリテーションに関する最新の研究とその現状を学ぶ。リハビリテーション領域における機能回復達成のための戦略的アプローチについて学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新知見、理論、技術や治療方法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律することができる。

《一般目標 (GIO)》

機能回復に関する最新の知見をもとに、従来の運動学習や運動制御の諸理論との関係を最新の研究から学び、検討する。

《個別目標 (SBOs)》

①脳血管障害の病態を理解する。

②最新の脳科学による回復過程について説明できる。

③理学療法の内容と治療原則や今後の課題について説明できる。

【授業計画】

- 1-2. 脳血管障害の病態と治療 [講義・演習]
脳血管障害の病態と治療を学ぶ。
3. 脳損傷後の機能回復機序 [講義・演習]
機能回復の機序と理論を学ぶ。
- 4-5. 治療原則 [講義・演習]
脳血管障害における治療原則を学ぶ。
6. 運動学習 [講義・演習]
脳血管障害における運動学習について学ぶ。
- 7-9. 姿勢・動作分析 [演習]
脳血管障害における姿勢・動作分析について理解する。
- 10-14. 治療実践 [演習]
脳血管障害における治療実践について理解する。
15. 今後の課題と総括 [演習]
臨床場面で活用できる知識の統合を行う。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 国際理学療法学

【授業コード】 22H50051

【代表教員】 木村 雅彦

【授業概要】

理学療法士による、学術、医療や福祉ならびに国際支援の枠組みにおける国際的な臨床・教育・研究活動についての知識と実際について整理するとともに、国際社会における我が国の理学療法が果たすべき役割とその方法論について、特に自分の興味がある分野を中心に討論および研究内容をまとめる。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

理学療法士の国際的な活動について専門的に説明できるようになる。

《個別目標 (SBOs)》

①理学療法士の国際的な学術研究活動の現状と方法論について述べるることができる。

②理学療法士の国際的な教育活動の現状と方法論について述べるることができる。

③理学療法士による国際支援の方法と現状と方法論について説明できる。

【授業計画】

1. 理学療法国際事情についてまとめる [講義・質疑応答]
日本理学療法士協会および日本理学療法士学会の国際活動について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
2. 理学療法国際事情概論2 [講義・質疑応答]
世界理学療法連盟およびアジア理学療法連盟の活動と現状ならびに日本理学療法士協会および日本理学療法士学会との国際的な交流の内容について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
- 3-4. 海外留学・研修 [講義・質疑応答]
海外への留学および海外から国内への留学受け入れ、ならびに海外での研修および海外からの研修生の受け入れの現状について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
- 5-6. 海外留学・研修2 [講義・質疑応答]
医療系大学における海外との学生交換および交流プログラムについて、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
- 7-8. 海外における理学療法活動 [講義・質疑応答]
海外における理学療法士の活動(教育ならびに医療福祉保健分野)について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
9. CBR (Community Based Rehabilitation) の現状と問題点 [講義・質疑応答]
日本理学療法士協会が推進する CBR (Community Based Rehabilitation) の現状と問題点について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
- 10-11. 諸外国における理学療法の現状 [講義・質疑応答]
欧米およびアジア各国における理学療法の現状、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
- 12-13. 理学療法士による国際的な学術活動の現状 [講義・質疑応答]
国際学会および学術誌における理学療法士による学術活動の現状と展望について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。
- 14-15. 国際支援としての理学療法 [講義・質疑応答]
災害支援を含む我が国の理学療法士が行っている国際支援の内容について、事前学習と講義および討論内容を元にまとめる。

(フィードバック方法) 講義内容に対するフィードバックは当該講義ないしは次の講義時間中に行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

(予習 60分・復習 60分)

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習すること。

【評価方法】

口頭試問(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)

【備考】

【科目名】地域生活環境学

【授業コード】22H50062

【代表教員】榎本 雪絵

【授業概要】

地域生活を行う高齢者および要介護者の生活状況に影響を及ぼす様々な環境要因について、症例報告ならびに文献検索を含め検討を行う。また、生活を支援する様々な福祉機器について、文献検索・演習を含め検討し、より適した環境整備が実践できるよう検討する。各テーマについてのプレゼンテーションおよびディスカッションする時間を設け、各テーマにおける課題や最新の知見などについて検討する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 GIO》

地域生活を行う高齢者および要介護者の生活状況に影響を及ぼす様々な環境要因について説明できる。生活を支援する様々な福祉機器の使用について、具体的な提案ができる。

《個別目標 SBOs》

①地域生活を行う高齢者および要介護者の生活状況に影響を及ぼす様々な環境要因について説明できる。

②生活を支援する様々な福祉機器について説明できる。

③先行研究から、環境整備が高齢者や要介護者、障害を有する対称の日常生活に及ぼす影響を説明できる。

④症例に適した生活環境整備方法が具体的に立案できる

【授業計画】

1. 生活環境と日常生活について [講義・質疑応答]

人的環境や物的環境など様々な環境要因が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。

2. 人的環境整備 [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた人的環境整備に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

3. 物的環境整備1 (地域環境) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた物的環境整備 (地域環境) に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

4. 物的環境整備2 (住環境:高齢者) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた物的環境整備 (住環境:高齢者) に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

5. 物的環境整備3 (住環境:脊髄損傷) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた物的環境整備 (住環境:脊髄損傷) に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

6. 物的環境整備4 (住環境:片麻痺) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた物的環境整備 (住環境:片麻痺) に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

7. 物的環境整備4 (住環境:神経筋疾患) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた物的環境整備 (住環境:神経筋疾患) に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

8. 物的環境整備4 (住環境:進行性疾患) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた物的環境整備 (住環境:進行性疾患) に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

9. 福祉機器と日常生活について [講義・質疑応答]

様々な福祉機器の導入が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。

10. 福祉機器1 (歩行補助具) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた歩行補助具物に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

11. 福祉機器2 (車椅子) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた車椅子に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

12. 福祉機器3 (電動車椅子他) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた電動車椅子他に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

13. 福祉機器4 (コミュニケーション機器他) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げたコミュニケーション機器他に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

14. 福祉機器5 (自助具他) [演習・プレゼンテーション・まとめ]

受講生が取り上げた自助具他に関する文献もしくは症例について検討し、課題や最新の知見について具体的に学ぶ。

15. まとめ [演習・まとめ]

これまでの講義内容を通して、補足が必要と思われたテーマについて、検討を行う。(フィードバック方法) 受講生のプレゼンテーションに対するフィードバックは当日の講義・演習内で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)

【備考】

【科目名】作業科学

【授業コード】22H50072

【代表教員】近藤 知子

【授業概要】

本授業では、作業科学の基礎概念である作業と作業的存在に対する理解を深め、かつ、その知識を他者に教授する力を養うことを目的とする。具体的には、自らが行う作業とそれが日々の生活および健康へと及ぼす影響を省察する。作業に対する理解を深めるために、講義を通して、作業科学の歴史、哲学的背景、前提、作業の多様な見方を学ぶ。また、15回を通して自分にとって「意味のある作業」を実施し、毎回その作業の日常生活・健康への影響を振り返り発表する。授業はディスカッションを中心に進める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

①作業と作業的存在について、多様な言葉や概念を用いて説明できる。

②作業科学の歴史、哲学的背景、前提を説明できる。

③作業の日々の生活、健康への影響を体験し、説明できる。

④作業科学について他者に教えることができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション [講義・質疑応答]

2. 作業科学誕生の背景、自分の作業プロジェクト決定 [演習]

3. 作業と日常生活、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

4. 作業の形、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論 [プレゼンテーション・討論]

5. 作業の機能、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論 [プレゼンテーション・討論]

6. 作業の意味、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論 [プレゼンテーション・討論]

7. 意味のある作業、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

8. 作業バランス、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論 [プレゼンテーション・討論]

9. 作業ルーティン、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

10. 作業の文脈(時間)、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

11. 作業の文脈(空間)、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

12. 作業の文脈(社会・文化)、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

13. 作業と権利、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論 [プレゼンテーション・討論]

14. 作業的公正と作業的不公正、作業プロジェクトプレゼンテーション、討論

[プレゼンテーション・討論]

15. 全体討論 [討論]

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)

【備考】

【科目名】 精神障害作業療法学
【授業コード】 22H50082
【代表教員】 長谷川 利夫
【授業概要】
人権という観点から、現在の精神保健医療福祉について光を当て、さらに現在論争のある諸問題につき論点を明らかにする。リハビリテーション職として個人の権利と尊厳が守られる精神保健医療福祉の実現のために何ができるかを学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
《一般目標 (GIO) 》
人権という観点から、現在の精神保健医療福祉について光を当て、さらに現在論争のある諸問題につき論点を明らかにする。リハビリテーション職として個人の権利と尊厳が守られる精神保健医療福祉の実現のために何ができるかを学ぶ。
《個別目標 (SBOs) 》
①人権の理論について述べる事ができる。
②障害者権利条約、障害者差別解消法など、障害を持った人々に関する条約、法について、内容やその意味を述べる事ができる。
③リハビリテーションにかかわる職種の相互関係について述べる事ができる。
④論争のある精神保健医療福祉の諸問題についての異なる意見のそれぞれの理論背景について述べる事ができる。
⑤異なる立場の理論背景をふまえた上で、自らの考えを述べ、それを実行に移すための準備をすることができる。

【授業計画】
1. 精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論 (1) 【講義・演習】
精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論について理解する。
2. 精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論 (2) 【講義・演習】
精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論について理解する。
3. 精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論 (3) 【講義・演習】
精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論について理解する。
4. 精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論 (4) 【講義・演習】
精神保健医療福祉を考えるうえで人権理論について理解する。
5. 障害者権利条約 (1) 【講義・演習】
障害者権利条約が障害をもった人に及ぼす影響について理解する。
6. 障害者権利条約 (2) 【講義・演習】
障害者権利条約が障害をもった人に及ぼす影響について理解する。
7. 障害者権利条約 (3) 【講義・演習】
障害者権利条約が障害をもった人に及ぼす影響について理解する。
8. 障害者差別解消法 (1) 【講義・演習】
障害者差別解消法が障害をもった人に及ぼす影響について考える。
9. 障害者差別解消法 (2) 【講義・演習】
障害者差別解消法が障害をもった人に及ぼす影響について考える。
10. 障害者差別解消法 (3) 【講義・演習】
障害者差別解消法が障害をもった人に及ぼす影響について考える。
11. 精神に障害をもった人と居住施設 (1) 【講義・演習】
精神に障害をもった人と居住施設の問題について理解する。
12. 精神に障害をもった人と居住施設 (2) 【講義・演習】
精神に障害をもった人と居住施設の問題について理解する。
13. 「専門性」の功罪 【講義・演習】
「専門性」をもつことが与える影響について理解する。
14. 隔離・身体拘束を巡る思想 【講義・演習】
隔離・身体拘束に関係する様々な考え、思想について理解する。
15. 当事者のために何が出来るか。 【講義・演習】
リハビリテーション職などが、精神に障害をもった人たちに何をすべきか、何をすべきでないかについて理解する。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(90%)、プレゼンテーション(10%)

【備考】

【科目名】 神経系作業療法学
【授業コード】 22H50091
【代表教員】 丹羽 正利
【授業概要】
中枢神経系のメカニズムやその障害における作業療法について講義するとともに、関連する最新論文を選び、研究デザイン、データ解析、およびその意義などについて討議する。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
《一般目標 (GIO) 》
中枢神経系のメカニズムやその障害のメカニズムおよびその作業療法について理解する。
《個別目標 (SBOs) 》
①中枢神経障害の概要を理解できる。
②中枢神経障害の回復を理解できる。
③中枢神経障害のリハビリテーションを理解できる。

【授業計画】
1-2. 中枢神経系の概要 【講義・質疑応答】
中枢神経系の概略、脊髄の構造と機能、脳の構造と機能、運動に関わる下行路などについて学習する。
3-4. 中枢神経障害の概要 【講義・質疑応答】
中枢神経障害の概略、脊髄損傷の病態、脳血管障害の病態について学習する。
5-6. 中枢神経障害の回復に関する文献の考察 【演習】
中枢神経障害の回復メカニズム関連の文献を選択し、ディスカッションしながら理解を深める。
7-8. 中枢神経障害に対するリハビリテーションに関する文献の考察 【演習】
中枢神経障害に対するリハビリテーション関連の文献を選択し、ディスカッションしながら理解を深める。
9-14. 最新論文によるデータ解析と考察 【演習】
中枢神経系関連の文献を選択し、ディスカッションしながら理解を深める。
15. まとめ 【講義・質疑応答】
これまでのまとめを行う。
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇等を利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】 認知・運動・活動障害学
【授業コード】 22H50101 22H50102
【代表教員】 柴田 茂貴
【授業概要】
高齢者の認知機能、運動機能、活動障害の現状を把握するとともに、リハビリテーション領域がどのように関与できるかを学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》
専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

高齢者の認知機能、運動機能、活動障害の現状を把握するとともに、リハビリテーション領域がどのように関与できるかを学ぶ。更に、フレイル、サルコペニア、ロコモティブ症候群についての理解を深めるとともに、頻度の高いアルツハイマー型認知症や脳血管性認知症についての理解を深める。

《個別目標 (SBOs)》

- ①老化に伴う心肺機能の低下について学習する。
②老化に伴う筋力の低下について学習する。
③高齢者に合併しやすい疾病について学習する。
④加齢と認知機能について学習する。
⑤老化と身体活動について学習する。
⑥高齢者の活動障害の現状について調査を行う。
⑦リハビリテーション領域と活動障害の関係について議論する。
⑧リハビリテーション領域と認知機能の関係について議論する。

【授業計画】

- 1-2. 老化に伴う心肺機能の低下 [講義・質疑応答・発表]
3-4. 老化に伴う筋力の低下 [発表・意見交換]
5-6. 高齢者に合併しやすい疾病 [講義・質疑応答]
7. 加齢と認知機能 [講義・質疑応答]
8-9. 老化と身体活動 [講義・質疑応答]
10-11. 高齢者の活動障害の現状 [講義・質疑応答]
12-13. リハビリテーション領域と活動障害の関係 [講義・質疑応答]
14-15. リハビリテーション領域と認知機能の関係 [講義・質疑応答]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (50%)

【備考】

【科目名】 老年期障害作業療法学

【授業コード】 22H50112

【代表教員】 望月 秀樹

【授業概要】

超高齢社会を迎えたわが国の高齢者を取り巻く諸問題を踏まえ、高齢者の心身の特徴や老年期障害に対する理解を深め、老年期障害に対する作業療法の方法論を学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO)》

高齢者がどのような生活をしたら、豊かな高齢期を迎えられるか、その方法論を作業療法的視点から考察する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①人間のライフサイクルの中から高齢期を捉えることができる。
②作業の視点から高齢期を理解することができる。
③豊かな高齢期とはどのようなものか説明できる。

【授業計画】

- 1-2. 高齢者を取り巻く諸問題 (医療・福祉・介護) [講義・質疑応答]
医療・福祉・介護における現在の高齢者を取り巻く諸問題に関して解説する。
3-4. 老化とは [講義・質疑応答]
老化とは何かを、身体的側面および精神的側面から分析する。
5-6. 老年期作業療法の方法 [講義・質疑応答]
老年期障害作業療法の方法について考察する。
7-8. 地域包括ケアシステムと作業療法 [講義・質疑応答]
地域包括ケアシステムの中で作業療法はどのように介入すべきかを検討する。
9-10. 老年期障害に対する様々なアプローチ [講義・質疑応答]
老年期障害障害に対する様々なアプローチ法を比較検討する。
11-14. 老年期障害作業療法学における方法論の検討 [講義・質疑応答]
老年期障害の事例を対象として症例検討を行う。
15. まとめ [講義・質疑応答]
これまでの講義を振り返り、老年期障害に対する介入方法をまとめる。
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (20%)

【備考】

【科目名】 臨床理学療法推論学セミナー

【授業コード】 22H50121

【代表教員】 跡見 友章

【授業概要】

クリニカルリーズニングの概念および臨床で必要となる理学療法的推論能力を高めるための方策について解説する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

《一般目標 (GIO)》

理学療法基礎となる クリニカルリーズニングの概念について学習する。

《個別目標 (SBOs)》

理学療法基礎となる クリニカルリーズニングスキルを高めるための方策について理解する。

【授業計画】

- 1. クリニカルリーズニングの概念① [講義・質疑応答]
クリニカルリーズニングとは何かについて説明する。
2. クリニカルリーズニングの概念② [講義・質疑応答]
クリニカルリーズニングのプロセスとリーズニングエラーについて説明する。
3. クリニカルリーズニングの概念③ [講義・質疑応答]
クリニカルリーズニングにおける 3 要素とスキルを高める方策について説明する。
4. 理学療法におけるクリニカルリーズニング① [講義・質疑応答]
理学療法評価と「統合と解釈の枠組み」について説明する。
5. 理学療法におけるクリニカルリーズニング② [講義・質疑応答]
理学療法評価における「トップダウンモデル」について説明する。
6. 理学療法におけるクリニカルリーズニング③ [講義・質疑応答]
理学療法評価における「自立度およびゴールの設定」の考え方について説明する。
7. 理学療法におけるクリニカルリーズニング④ [講義・質疑応答]
理学療法評価の「構造的理解および統合と解釈のプロセス」について説明する。
8. 理学療法におけるクリニカルリーズニング⑤ [講義・質疑応答]
理学療法評価の「構造的理解および統合と解釈のプロセス」について説明する。
9. 理学療法におけるクリニカルリーズニング⑥ [講義・質疑応答]
理学療法評価の「統合と解釈・問題点抽出」について説明する。
10. 理学療法におけるクリニカルリーズニング⑦ [講義・質疑応答]
理学療法評価の「統合と解釈・問題点抽出」について説明する。
11. 理学療法におけるクリニカルリーズニング⑧ [講義・質疑応答]
理学療法評価の「ゴール設定と治療プログラム立案」について説明する。
12. 理学療法におけるクリニカルリーズニング⑦ [講義・質疑応答]
理学療法評価の「リスク管理と考察」について説明する。
13. クリニカルリーズニングの実際① [講義・質疑応答]
実際の症例を通してクリニカルリーズニングについての理解を深める①
14. クリニカルリーズニングの実際② [講義・質疑応答]
実際の症例を通してクリニカルリーズニングについての理解を深める②
15. まとめ [講義・質疑応答]
今まで学習した内容についてのまとめを行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関して文献や資料を検索して準備すること。
(復習)
1-15. 授業内で提示する資料・文献や提示した手法などを踏まえて講義内容をまとめること。
学習の不足している点については補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、レポート (50%)

【備考】

【科目名】 障害者スポーツ支援学セミナー

【授業コード】 22H50131 22H50132

【代表教員】 柴田 茂貴

【授業概要】

障害者スポーツの現状を把握するとともに、障害者にスポーツを普及させる意義、安全性の維持およびその方法論を学ぶ。障害者スポーツの普及にリハビリテーション領域がどのように関与できるかを学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を

遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

障がい者のスポーツ活動には、どのような社会的な課題があるか理解する。日常生活でどのような支援が必要か、現状を学ぶ。また、パラリンピックアスリートのサポートとして、最新の研究からリハビリテーション領域からのアプローチを学ぶ。スポーツ種目を工夫することで、健常者と共に楽しむことができることを学ぶ。

《個別目標 (SBOs)》

- 1-2. 我が国の「障がい者スポーツ」の理念について、社会参加支から説明できる。
2. スポーツ活動支援にはどのような課題があるか、自ら調べて説明ができる。
3. 様々な障がい者スポーツ種目について、そのルールと工夫について理解し、健常者と一緒に取り組む可能性について理解する。

【授業計画】

- 1-2. 我が国の「障がい者スポーツ」政策について [講義・質疑応答・発表]
- 3-4. 障がい者スポーツの理念と課題 [発表・意見交換]
- 5-6. 障がい者のスポーツ種目とそのルール [講義・質疑応答]
7. リハビリテーションスポーツの意義 [講義・質疑応答]
- 8-9. スポーツ活動の効果とリスク管理 身体障がい者・児 [講義・質疑応答]
- 10-11. スポーツ活動の効果とリスク管理 その他の障がい者・児 [講義・質疑応答]
- 12-13. 地域社会でスポーツ活動 課題と取り組み [講義・質疑応答]
- 14-15. アスリートへの支援 パラリンピック種目を中心に [講義・質疑応答]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
- (復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、プレゼンテーション (50%)

【備考】

【科目名】 小児理学療法学セミナー

【授業コード】 22H50142

【代表教員】 鳥山 亜紀

【授業概要】

小児理学療法分野の代表的疾患である脳性麻痺児に対する理学療法に対する評価と治療アプローチについて考察する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

脳性麻痺児への発達支援プログラムを立案し、臨床における実際の理学療法介入について学ぶ。

《個別目標 (SBOs)》

脳性麻痺児に対する介入プログラムについて説明、実践できる。

【授業計画】

- 1-2. Cerebral Palsy - Back Ground Perspectives [講義・質疑応答]
脳性麻痺の全体像について学ぶ。
 - 3-4. Clinical recognition, diagnosis and assessment of children with cerebral palsy [講義・質疑応答]
脳性麻痺児の臨床像や評価について学ぶ。
 - 5-7. Principle of interventions [講義・質疑応答]
治療介入における原則について学ぶ。
 - 8-10. Interventions: orthodox and heterodox. A perspective on issues in treatment [講義・質疑応答]
色々な治療介入について学ぶ。
 - 11-13. Therapists and therapies in cerebral palsy [講義・質疑応答]
脳性麻痺の治療に携わるセラピスト及びセラピーについて学ぶ。
 - 14-15. まとめ [講義・質疑応答]
レポートを作成する。
- (フィードバック方法) 次の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項について調べ学習しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
- (復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)、口頭試問 (20%)

【備考】

【科目名】 臨床理学療法学研究法セミナー

【授業コード】 22H50152

【代表教員】 八並 光信

【授業概要】

臨床研究は、疫学的知識と臨床に即した研究デザインを策定する能力が求められる。具体的には、バイアスを最小限にし、介入研究の効果を検証する方法論について、研究課題に関連した国内外の研究論文を吟味していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

臨床研究に関する国内外の論文を吟味して、研究課題の関連領域の進捗状況を理解する。

《個別目標 (SBOs)》

研究課題に対して、現在までに明らかにされている点と今後の研究課題を明確化する。

また、自分の研究の新規性とオリジナリティーについて吟味する。

【授業計画】

- 1-4. 研究課題に関連した国内の研究論文を収集する。 [演習・質疑応答]
データベースから研究課題に関連する文献を抽出する。
 - 5-7. 収集した論文を批判的に吟味する。 [演習・質疑応答]
収集した文献を重要度別に整理していく。
 - 8-12. 研究課題に関連した国外の研究論文を収集する。 [演習・質疑応答]
データベースから研究課題に関連する文献を抽出する。
 - 13-15. 収集した論文を批判的に吟味する。 [演習・質疑応答]
収集した文献を重要度別に整理していく。
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
- (復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (100%)

【備考】

【科目名】 脳卒中上肢機能回復学セミナー

【授業コード】 22H50162

【代表教員】 岩崎 也生子

【授業概要】

本講義では近年進歩が著しい脳卒中上肢機能回復訓練に関する知見を、文献を通して教授する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

《一般目標 (GIO)》

脳卒中上肢機能回復訓練に関する歴史と近年の動向について理解する。

《個別目標 (SBOs)》

①脳卒中上肢機能回復訓練に関する歴史を説明できる。

②脳卒中上肢機能回復訓練に関する近年の動向を説明できる。

【授業計画】

- 1-4. 脳卒中上肢機能回復に関する基本的考え方と歴史 [講義・質疑応答・プレゼン]
脳卒中上肢機能回復のエビデンスに関する原著論文を紹介し、それについて討議する。
- 5-8. 脳卒中上肢機能予後 [講義・質疑応答・プレゼン]
文献を通して脳卒中上肢機能予後に関する原著論文を紹介し、それについて討議する。
- 9-11. 脳卒中上肢機能評価 [講義・質疑応答・プレゼン]
脳卒中上肢機能評価に関する原著論文を紹介し、それについて討議する。
- 12-14. 脳卒中上肢機能回復訓練のエビデンス [講義・質疑応答・プレゼン]

脳卒中上肢機能回復訓練のエビデンスに関する原著論文を紹介し、それについて討議する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

1から14回目までの講義をまとめ、理解を深める。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(40%)、口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】神経系病態学セミナー

【授業コード】22H50171

【代表教員】丹羽 正利

【授業概要】

中枢神経系のメカニズムやその障害に関連した国内外の研究論文を選び、研究デザイン、データ解析、およびその意義などについて討論する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

関連研究に関する国内外の論文を吟味して、研究課題の関連領域の進捗状況を理解する。

《個別目標 (SBOs)》

研究課題に対して、現在までに明らかになっている点と今後の研究課題を明確化する。また、自分の研究の新規性とオリジナリティーについて吟味する。

【授業計画】

1-4. 研究課題に関連した国内の研究論文を収集する。 [演習]
データベースから研究課題に関連する文献を抽出する。

5-7. 収集した論文を批判的に吟味する。 [演習]
収集した文献を重要度別に整理していく。

8-12. 研究課題に関連した国外の研究論文を収集する。 [演習]
データベースから研究課題に関連する文献を抽出する。

13-15. 収集した論文を批判的に吟味する。 [演習]
収集した文献を重要度別に整理していく。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】運動器障害作業療法学特論

【授業コード】22H50182

【代表教員】望月 秀樹

【授業概要】

運動器系障害についての理解を深め、作業療法の視点から機能障害と日常生活活動(ADL)における関係を整理し、生活機能向上へのアプローチ方法を検討する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

《一般目標 (GIO)》

運動器障害による機能・活動障害と日常生活活動における障害像とその関連性について説明で

き、生活機能向上に対する作業療法士としての介入方法が理解できる。

《個別目標 (SBOs)》

①運動器障害による機能・活動障害が理解できる。

②運動器障害による機能・活動障害と日常生活活動との関連について説明できる。

③生活機能向上に対する作業療法士としての介入方法が実施できる。

【授業計画】

1. オリエンテーション・運動器障害とは [講義・質疑応答]
運動器障害について解説し今後の授業の進め方に関して説明する。

2-6. 運動器障害の理解 [講義・質疑応答]
様々な運動器障害における症例検討を行い運動器障害に対する理解を深める。

7-10. 運動器障害との関連事項(介護予防など) [講義・質疑応答]
介護予防など運動器障害との関連事項について考察し理解を深める。

11-14. 生活機能向上に対するアプローチ [講義・質疑応答]
運動器障害における生活機能向上のアプローチ方法について考察する。

15. まとめ [講義・質疑応答]

これまでの講義を振り返り、運動器障害に対する介入方法をまとめる。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H5T1A1 22H5T1A2

【代表教員】丹羽 正利

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

自身の専門分野において明らかにしたい事は何か、テーマを絞る。

9-16. 先行文献の検討 [演習]

先行文献を読み込み、自身の専門分野に於いて何が分かっている、何が分かっているのか、明らかにする。

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

先行文献などを参考に研究デザインを検討する。

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

再現性の高い、詳細な研究計画書の作成を心がける。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I
【授業コード】22H5T1B1 22H5T1E2
【代表教員】長谷川 利夫
【授業概要】

学位論文作成に向けて、問題意識を形成し、研究課題を明確にし、研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

《一般目標 (GIO) 》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

9-16. 関連文献の検討 [演習]

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I
【授業コード】22H5T1C1 22H5T1C2
【代表教員】望月 秀樹
【授業概要】

学位論文作成に向けて、問題意識を形成し、研究課題を明確にし、研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

《一般目標 (GIO) 》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

9-16. 関連文献の検討 [演習]

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I
【授業コード】22H5T1E1 22H5T1E2
【代表教員】近藤 知子
【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

9-16. 関連文献の検討 [演習]

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。ゼミ前日までにレジュメと文献のコピーを指導教員に提出する。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間 (予習復習など) は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I
【授業コード】22H5T1F1 22H5T1F2
【代表教員】跡見 友章
【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

- 9-16. 関連文献の検討 [演習]
 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
 (予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)
 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 I

【授業コード】 22H5T1G1 22H5T1G2

【代表教員】 石井 博之

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 自身の専門分野において明らかにしたい事は何か、テーマを絞る。
 9-16. 先行文献の検討 [演習]
 先行文献を読み込み、自身の専門分野に於いて何が分かっている、何が分かっているのか、明らかにする。
 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
 先行文献等を参考に研究デザインを検討する。
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 再現性の高い、詳細な研究計画書の作成を心がける。
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程の調整をする。ゼミ前日までにレジュメと文献のコピーを指導教員に提出する。

(復習)

1-30. 学習した内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 I

【授業コード】 22H5T1H1 22H5T1H2

【代表教員】 柴田 茂貴

【授業概要】

個人の興味と社会ニーズを考慮して、研究テーマを決定する。研究テーマ領域の先行研究を網羅的に学習し研究課題(仮説)を明確にする。研究課題(仮説)を証明するために研究計画を立案し実行する。研究結果まとめて統計分析を行う。結果に対して適切な考察を行う。必要に応じて追加研究を行う。学位論文を作成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

医学・生命科学領域においてまだ解明されていない問題について興味を持ち、自らの研究課題を明確に設定した上で、課題解決のための方法を立案し、正しく遂行する。研究結果に基づいて、論理的に結論を導き、研究成果を学術論文として発信する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①医学・生命科学領域で興味をもつ問題につき、独創的な研究課題を設定できる。
 ②研究目的を明確にし、目的を達成するための実験を具体的に計画できる。
 ③計画に則って、自ら実験を正しく遂行できる。
 ④実験結果を正しく解析し、データとしてまとめられる。
 ⑤データに基づき論理的に考察し、一定の結論を導くことができる。
 ⑥研究内容をまとめた学術論文を作成できる。
 ⑦研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。

【授業計画】

- 1-3. 研究テーマについてのオリエンテーション [講義・質疑応答・演習]
 4-6. 関連文献の検索と理解 [演習]
 7. 研究課題(仮説)の検討 [演習]
 8-10. 研究方法の検討 [演習]
 11. 研究計画書の作成 [演習]
 12-17. 研究の実行とデータ収集 [演習]
 18-22. 結果の解析と考察 [演習]
 23-28. 論文作成 [演習]
 29-30. 結果発表 [プレゼンテーション・演習]
 (フィードバック方法) 研究課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 関連した論文を理解すること。

(復習)

1-30. 毎回の授業内容を理解するように復習すること。研究内容の意義、研究手法、データ解析方法などについてはしっかりと理解すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)

【備考】

【科目名】 特別研究 I

【授業コード】 22H5T1I1 22H5T1I2

【代表教員】 竹田 里江

【授業概要】

研究課題に沿って先行研究の探索及び吟味をすることで、研究の焦点を明確化する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

自己の研究課題を明確にする。

《一般目標 (GIO)》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①研究を順調に遂行する。
 ②研究結果から根拠に基づき考察をする。
 ③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
 自身の専門分野において明らかにしたいことについてテーマを絞る。
 9-16. 先行文献の検討 [演習]
 先行文献を読み込み、自身の専門分野における既知と未知を明らかにする。
 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
 先行文献などを参考に研究デザインを検討する。
 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
 再現性の高い、詳細な研究計画書の作成を心がける。
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておくこと。
 次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程の調整をする。ゼミ前日までにレジメと文献のコピーを指導教員に提出する。

【科目名】特別研究Ⅱ

【授業コード】22H5T2A1 22H5T2A2

【代表教員】丹羽 正利

【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ

【授業コード】22H5T2B1 22H5T2B2

【代表教員】長谷川 利夫

【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、研究方法を計画立案し、研究疑問の解明に向け、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO) 》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ

【授業コード】22H5T2C1 22H5T2C2

【代表教員】望月 秀樹

【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、研究方法を計画立案し、研究疑問の解明に向け、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO) 》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs) 》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H5T2E1 22H5T2E2
【代表教員】近藤 知子
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
3-5. 研究方法の検討 [演習]
6-10. 文献検索 [演習]
11-13. フィールドワーク [演習]
14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション・演習]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。ゼミ前日までにレジュメと文献のコピーを指導教員に提出する。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)
【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H5T2F1 22H5T2F2
【代表教員】跡見 友章
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
3-5. 研究方法の検討 [演習]
6-10. 文献検索 [演習]
11-13. フィールドワーク [演習]
14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)
【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H5T2G1 22H5T2G2
【代表教員】石井 博之
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
高い倫理観
・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】
1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
3-5. 研究方法の検討 [演習]
6-10. 文献検索 [演習]
11-13. フィールドワーク [演習]
14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。
また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を済ませておく。
(復習)

1-15. 学習した内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】
口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)
【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ
【授業コード】22H5T2H1 22H5T2H2
【代表教員】柴田 茂貴
【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要に応じて倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】
《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO)》

研究計画書に基づいて、適切に研究を遂行する。

《個別目標 (SBOs)》

①研究計画に基づき、研究の遂行およびプレゼンテーションができる。(技能)

②最新の文献を説明できる。(知識)

③研究テーマに関連する事項を積極的に思考できる。(態度・習慣)

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

特別研究Ⅰで策定した研究計画の確認を行い、必要に応じて再検討する。

3-5. 研究方法の検討 [演習]

研究計画にしたがって、研究方法の検討を行う。

6-10. 文献検索 [演習]

研究テーマに関連する文献の検索を行う。

11-13. プログラミング [演習]

研究テーマに沿ったプログラムの作成を行う。

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

研究の進行状況をまとめてプレゼンテーションする。

(フィードバック方法) 研究課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅱ

【授業コード】22H5T211 22H5T212

【代表教員】竹田 里江

【授業概要】

特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法が計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新の文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO)》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

3-5. 研究方法の検討 [演習]

6-10. 文献検索 [演習]

11-13. フィールドワーク [演習]

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておくこと。

回次のテーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H5T3A1 22H5T3A2

【代表教員】丹羽 正利

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-12. 論文作成、討議 [演習]

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H5T3B1 22H5T3B2

【代表教員】長谷川 利夫

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された点に対し修正を行う。論文作成に際しては、異なる見解についても理解を深めたいという新たな視点で研究を深められるようにする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO)》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ

【授業コード】 22H5T3C1 22H5T3C2

【代表教員】 望月 秀樹

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された点に対し修正を行う。論文作成に際しては、異なる見解についても理解をしたうえで、新たな視点で研究を深められるようにする。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標(GIO)》

研究結果をまとめ論文を作成する。

《個別目標(SBOs)》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ

【授業コード】 22H5T3E1 22H5T3E2

【代表教員】 近藤 知子

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション・演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。ゼミ前日までにレジュメと文献のコピーを指導教員に提出する。
(復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ

【授業コード】 22H5T3F1 22H5T3F2

【代表教員】 跡見 友章

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ

【授業コード】 22H5T3G1 22H5T3G2

【代表教員】 石井 博之

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-12. 論文作成、討議 [演習]

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程の調整をする。ゼミ前日までにレジュメと文献のコピーを指導教員に提出する。(復習)

1-15. 学習した内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ

【授業コード】 22H5T3H1 22H5T3H2

【代表教員】 柴田 茂貴

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO)》

適切に研究を遂行し、結果をまとめて論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

①研究の遂行および論文の作成とプレゼンテーションができる。(技能)

②最新の文献を説明できる。(知識)

③研究結果から科学的根拠に基づいて考察できる。(技能)

④研究テーマに関連する事項を積極的に思考できる。(態度・習慣)

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

研究計画を進行とともに再検討し、適切に方向性を見定める。

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

研究結果をもとに分析と考察を考え、討議する。

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

論文の構成を考え、研究の内容を整理する。

10-12. 論文作成、討議 [演習]

論文をまとめて、細かい内容について討議する。

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

論文の内容をプレゼンテーションする。

(フィードバック方法) 研究課題レポートに対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】 特別研究Ⅲ

【授業コード】 22H5T3I1 22H5T3I2

【代表教員】 竹田 里江

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などについて十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《一般目標 (GIO)》

研究結果をまとめて論文を作成する。

《個別目標 (SBOs)》

①研究を順調に遂行する。

②研究結果から根拠に基づき考察をする。

③研究内容を論文にまとめる。

【授業計画】

1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]

4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]

7-9. 論文構成、内容整理 [演習]

10-12. 論文作成、討議 [演習]

13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

保健学専攻 博士後期課程

診療放射線学分野

保健学専攻博士後期課程（平成29年度学則） 【診療放射線学分野】

◆保健学専攻 博士後期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
 - ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- (3) 専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- (4) 研究遂行能力
 - ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身に付け、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (5) 高い倫理観
 - ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ページ
				春	秋	夜間	土曜						
診療放射線学	画像診断学特論	天沼 誠	2	○		○	×	★	★	★	★	★	291
	分子画像技術学特論	山本 智朗	2	○	○	○	○	★	★	★	★		291
	多次元医用画像工学特論	橋本 雄幸	2	○		○	○	★	★	★	★	★	291
	磁気共鳴画像工学特論	久原 重英	2	○		○	○	★	★	★	★	★	292
	放射線応用計測学	小池 貴久	2		○	○	×	★		★			292
	画像診断学セミナー	天沼 誠	2		○	○	×	★	★	★	★	★	292
	分子画像技術学演習	山本 智朗	2	○	○	○	○	★	★	★	★		293
	多次元医用画像工学演習	橋本 雄幸	2		○	○	○	★	★	★			293
	磁気共鳴画像工学演習	久原 重英	2	○		○	○	★	★	★	★	★	293
	特別研究 I	天沼 誠	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	294
	特別研究 I	小池 貴久	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	294
	特別研究 I	橋本 雄幸	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	294
	特別研究 I	山本 智朗	4	○	○	—	—	★	★	★	★	★	295
	特別研究 II	天沼 誠	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	295
	特別研究 II	小池 貴久	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	295
	特別研究 II	橋本 雄幸	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	296
	特別研究 II	山本 智朗	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	296
	特別研究 III	天沼 誠	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	296
	特別研究 III	小池 貴久	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	297
特別研究 III	橋本 雄幸	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	297	
特別研究 III	山本 智朗	2	○	○	—	—	★	★	★	★	★	297	

【保健学専攻 診療放射線学分野 博士後期課程 履修モデル】

★診療放射線領域の教育・研究者を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野の診療放射線学分野の科目から5科目と特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する。
(計18単位)
- ・副科目として、看護学専攻に配置されている統計学Ⅰ、統計学Ⅱを履修する。(4単位)

修了要件 (20単位以上)								
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主 科 目	専門 分野 科目	分子画像技術学特論 2	分子画像技術学演習 2	多次元医用画像工学特論 2	多次元医用画像工学演習 2	磁気共鳴画像工学特論 2		18
	特別 研究	特別研究Ⅰ(通年) 2	特別研究Ⅰ(通年) 2		特別研究Ⅱ 2		特別研究Ⅲ 2	
主科目小計		4	4	2	4	2	2	
副 科 目	他専 攻/ 他専 門分 野科 目	統計学Ⅰ 2	統計学Ⅱ 2					4
	副科目小計	2	2	0	0	0	0	
合計		6	6	2	4	2	2	22

【科目名】画像診断学特論

【授業コード】22H60011

【代表教員】天沼 誠

【授業概要】

- ・頭頸部領域を中心に各種病態における解剖・生理・病理と画像の関連を学習する。
- ・各画像診断モダリティ別の画像の成り立ちを学習する。
- ・代表的疾患における画像診断モダリティ選択の適応について学習する。
- ・画像解剖をもとにした所見の拾い上げ、診断にいたる過程を理論的に学習する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・画像診断領域の最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

①画像の成り立ち、適応、所見、画像診断について理解する。

②各モダリティ別の画像の成り立ちが説明できる。

③代表的疾患における画像診断機器使用の適応を説明できる。

④代表的疾患の異常所見の拾い上げができる。

【授業計画】

1-2 各診断機器の基本的原理、画像の成り立ち [講義・質疑応答]

3-6 代表的疾患に於ける診断機器の正しい、有効な選択 [講義・質疑応答]

7-14 代表的疾患に於ける所見の拾い上げ、診断への過程 [講義・質疑応答]

15. まとめ [講義・質疑応答]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため

不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(50%)、口頭試問(50%)

【備考】

【科目名】分子画像技術学特論

【授業コード】22H60021 22H60022

【代表教員】山本 智朗 【担当教員】石川 純也

【授業概要】

核医学は代謝などの生理的または生化学的な機能を画像化していることに由来する。近年では免疫や遺伝子レベルの機能画像の提供も実用段階にある。本講義では機能画像の特徴を臓器別に学び、さらには細胞レベルで、遺伝子の機能画像について教授する。また、適時課題を施すので、それに対するプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO) 》

核医学における機能画像の詳細と特徴について理解し、他のものに最新技術を含んだ内容を説明できる。

《個別目標 (SBOs) 》

①機能画像の概要を説明できる。

②最新技術の今後の動向を説明できる。

③後進に先駆的技術を指導できる。

【授業計画】

講義に必要な資料(主に邦文)は事前に配信する。

1. 必要な論文を提示し、簡単な説明と今後の講義の進行方法を提示する。

[講義・質疑応答] (山本・石川)

2-4. SPECT イメージングとパーキンソンズムについて [講義・質疑応答] (山本・石川)

SPECTによるドーパミントランスポータに関する論文を提示し、説明および討論を行う。

5-7. PET イメージングとパーキンソンズムについて [講義・質疑応答] (山本・石川)

PETによるドーパミントランスポータに関する論文を提示し、説明および討論を行う。

8-10. 遺伝子に特殊情報(特異化合物への加水分解酵素の発言など)を用いた分子イメージングについて [講義・質疑応答] (山本・石川)

遺伝子情報を用いたイメージングに関する論文を提示し、説明および討論を行う。

11-13. がん特異遺伝子イメージングについて [講義・質疑応答] (山本・石川)

先駆的技術に関する論文を提示し、説明および討論を行う。

14. まとめ (1) [講義・質疑応答] (山本・石川)

これまでの論文をまとめ、今後の分子イメージングについて討論する。

15. まとめ (2) [講義・質疑応答] (山本・石川)

核医学以外のモダリティによる分子イメージングについて討論する。

(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】多次元医用画像工学特論

【授業コード】22H60031

【代表教員】橋本 雄幸

【授業概要】

X線CTやSPECTの画像再構成を中心に、それらがどのように発展・応用されて医療の分野に取り入れられているかを理解する。また、それらを支援するために必要な画像処理の方法、ならびに画像再構成システムについて学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

X線CTやSPECTに関連する画像処理や画像再構成について理解する。

《個別目標 (SBOs) 》

①英文プリントを読み解くことができる。(技術)

②CTに関わる画像処理や画像再構成について説明できる。(知識)

③英文の原著に興味を持ち、関連する書籍を参考する。(態度・習慣)

【授業計画】

1. 授業のガイダンス [講義・質疑応答]

授業で使用するプリントの配付と授業の進め方およびX線CTやSPECTについて

2. CTの歩み (1) [講義・質疑応答]

Tomosynthesis

3. CTの歩み (2) [講義・質疑応答]

CT's Generations

4. CTの歩み (3) [講義・質疑応答]

Rotation in Spiral Path and Cone-Beam Geometry

5. CTの歩み (4) [講義・質疑応答]

Optical Reconstruction Techniques

6. 逐次近似再構成法 (1) [講義・質疑応答]

Iterative Reconstruction with ART

7. 逐次近似再構成法 (2) [講義・質疑応答]

Pixel Basis Functions and Calculation of System Matrix

8. 逐次近似再構成法 (3) [講義・質疑応答]

Maximum Likelihood Method

9. 3次元画像再構成法 (1) [講義・質疑応答]

Spiral CT

10. 3次元画像再構成法 (2) [講義・質疑応答]

Exact 3D Reconstruction in Parallel-Beam Geometry

11. 3次元画像再構成法 (3) [講義・質疑応答]

Exact 3D Reconstruction in Cone-Beam Geometry

12. 3次元画像再構成法 (4) [講義・質疑応答]

Approximate 3D Reconstruction in Cone-Beam Geometry

13. 3次元画像再構成法 (5) [講義・質疑応答]

Helical Cone-Beam Reconstruction Methods

14. 3次元画像のアーチファクト (1) [講義・質疑応答]

Shearing in Slice Stacks Due to Gentry Tilt
15. 3次元画像のアーチファクト (2) 【講義・質疑応答】
Spiral CT and Cone-Beam Artifacts
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】
(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】磁気共鳴画像工学特論

【授業コード】22H60041

【代表教員】久原 重英

【授業概要】

磁気共鳴診断装置の画像化において重要な高周波磁場波形や傾斜磁場波形の種類などを含め、各種パルスシーケンスならびに対応する画像再構成・処理法などに関し、基本的な事項からより詳細な内容について輪講形式にて学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

・専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

≪一般目標 (GIO) ≫

高周波磁場波形や傾斜磁場波形の種類などを含め、各種パルスシーケンスならびに対応する画像再構成・処理法などに関し、基本的な事項からより詳細な内容について把握できる。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①基本的なパルスシーケンスや画像再構成・処理法などが把握できている

②高周波磁場波形や傾斜磁場波形の種類などを含めた、より詳細な内容について把握できている。

【授業計画】

1. 必要な基礎知識 t などの確認 【輪講・質疑応答】

フーリエ変換や磁気共鳴現象・回転系などに関する基本事項の確認

2-3. 高周波磁場パルス 【輪講・質疑応答】

高周波磁場パルスの波形(矩形波、sinc 波形、Variable-Rate パルスなど)、機能(励起、反転、リフォーカスなど)及び周波数選択パルス、空間選択パルス、空間-周波数選択パルス、アディアバティックパルスなど

4-5. 傾斜磁場パルス 【輪講・質疑応答】

画像化用傾斜磁場パルス、動き検出用傾斜磁場パルス(Flow、拡散強調用など)、補正用傾斜磁場パルス(渦補正、動き補正、スポイラーなど)など

6-7. データ収集、k-Space サンプリングなど 【輪講・質疑応答】

バンド幅とサンプリング、k-Space、Keyhole、Real-time、2D、3D など

8-9. 再構成技術 【輪講・質疑応答】

フーリエ再構成、グリidding再構成、ビューシェア、バラレルイメージングなど

10-11. 基本パルスシーケンス 【輪講・質疑応答】

基本パルスシーケンス(FE、SE など)、アンジオグラフィー(BB、PC、TOF)、エコートレイン形(EPI、RAKE、GRASE) など

12-14. 応用パルスシーケンス (1) 【輪講・質疑応答】

ASL、DWI、Dixon、Driven Equilibrium、Projection Acquisition、Spiral など

15. 応用パルスシーケンス (2) 【輪講・質疑応答】

最新技術の追加紹介とまとめ

(フィードバック方法) 課題レポートなどに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 毎回の講義に関するテーマについては事前に調べておくこと。

(復習)

1-15. 各回の内容をA4一枚程度にまとめておく。

※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】放射線応用計測学

【授業コード】22H60052

【代表教員】小池 貴久

【授業概要】

放射線は医療をはじめとして我々の生活の中で多岐にわたって利用されている。一方で利用方法を間違えると、被ばく、放射線障害など深刻な問題を引き起こす可能性がある。放射線の利用においては、放射線、線源、放射線と物質の相互作用を十分に理解した上で、正しい放射線計測機器の使用、計測データの取得、処理方法まで十分な理解が必要となる。本講義では放射線計測を体系的に学び、放射線計測の意義と方法論について知識や考え方を学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

≪一般目標 (GIO) ≫

放射線計測の理論および実際を理解し、放射線計測技術の修得を目標とする。また、放射線計測法を主体として、特に、放射能の測定、放射線エネルギーの測定、放射線量の測定、放射線防護に関する検出器と測定法について理解する。

≪個別目標 (SBOs) ≫

①放射能の測定について説明できる。

②放射線のエネルギーの測定について説明できる。

③線量測定について説明できる。

④放射線防護に関係した放射線計測について説明できる。

⑤近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

⑥先行研究の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

【授業計画】

1-4. 放射線計測学の基本事項 : 放射線の種類と諸作用 【講義・質疑応答】

放射線の種類と諸作用について学ぶ。

5-6. 放射線エネルギーの測定 【講義・質疑応答】

放射線のエネルギー測定について必要とされる知識・技術について学ぶ。

7-8. 放射能の測定 【講義・質疑応答】

放射能の測定について必要とされる知識・技術について学ぶ。

9-11. 線量の測定 【講義・質疑応答】

線量の測定について必要とされる知識・技術について学ぶ。

12-15. 放射線応用計測に関する学術論文を選択し、データの分析、解釈および考察について発表する [プレゼンテーション]

(フィードバック方法)

前回の講義のまとめ、質問に対するフィードバックを講義の冒頭に行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

放射線を計測するためには、放射線と物質の物理的相互作用を理解しておくことが重要である。放射線物理学の基礎を十分理解のうえ講義に臨むこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※すべての回、予習は45分、復習は45分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)

【備考】

【科目名】画像診断学セミナー

【授業コード】22H60062

【代表教員】天沼 誠

【授業概要】

・臓器領域を中心として各画像診断モダリティの基本的な原理を再確認する。

・臓器、疾患別の各画像診断モダリティの選択、適応について学習する。

・代表的疾患における画像診断モダリティ別の特徴的所見について学習する。

・ティーチングファイルを使用して理論的な画像診断演習を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

・先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

・専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

≪一般目標 (GIO) ≫

①画像の成り立ち、適応、所見、画像診断について理解する。

②各モダリティ別の画像の成り立ちが説明できる。

- ③代表的疾患における画像診断モダリティ別の特徴的所見が説明できる。
④代表的疾患の異常所見の拾い上げができ、論理的に診断へ応用できる。

【授業計画】

- 1-3. 各診断機器の基本的原理、画像の成り立ちを理解し、正しい適応決定を行う
【講義・質疑応答】
4-14. ティーチングファイルを持用い、代表的疾患に於ける所見の拾い上げ、論理的な画像診断のトレーニングを行う 【講義・質疑応答】
15. まとめ 【講義・質疑応答】
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(50%)、口頭試問(50%)

【備考】

【科目名】 分子画像技術学演習

【授業コード】 22H60071 22H60072

【代表教員】 山本 智朗 **【担当教員】** 石川 純也

【授業概要】

核医学は代謝などの生理的または生化学的な機能を画像化していることに由来する。近年では免疫や遺伝子レベルの機能画像の提供も実用段階にある。本講義では機能画像の特徴を臓器別に学び、さらには細胞レベルで、遺伝子の機能画像について教授する。また、適時課題を施すので、それに対するプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
研究遂行能力
・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

《一般目標 (GIO)》

核医学における機能画像の詳細と特徴について理解し、他のものに最新技術を含んだ内容を説明できる。

《個別目標 (SBOs)》

- ①機能画像の概要を説明できる。
②最新技術の今後の動向を説明できる。
③後進に先導的技術を指導できる。

【授業計画】

- 講義に必要な資料(主に英文)は事前に配信する。
1. 必要な論文を提示し、簡単な説明と今後の講義の進行方法を提示する。
【講義・質疑応答】(山本・石川)
2-4. SPECTによる分子イメージング例 【講義・質疑応答】(山本・石川)
SPECTによる分子イメージングに関する論文を提示し、説明および討論を行う。
5-7. PETによる分子イメージング例 【講義・質疑応答】(山本・石川)
PETによる分子イメージングに関する論文を提示し、説明および討論を行う。
8-10. SPECTまたはPETによる分子イメージング例 【講義・質疑応答】(山本・石川)
遺伝子情報を用いたイメージングに関する論文を提示し、説明および討論を行う。
11-13. がん特異遺伝子イメージングについて 【講義・質疑応答】(山本・石川)
先導的技術に関する論文を提示し、説明および討論を行う。
14. まとめ(1) 【講義・質疑応答】(山本・石川)
これまでの論文をまとめ、今後の分子イメージングについて討論する。
15. まとめ(2) 【講義・質疑応答】(山本・石川)
核医学以外のモダリティによる分子イメージングについて討論する。
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)

【備考】

【科目名】 多次元医用画像工学演習

【授業コード】 22H60082

【代表教員】 橋本 雄幸

【授業概要】

X線CTの3次元画像再構成のアルゴリズムを中心に、C言語、C#やMATLABを使ったプログラミングを学ぶ。また、コンピュータを利用してプログラミングの演習を行う。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力
・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
《一般目標 (GIO)》
X線CTの3次元信号処理から3次元画像再構成までのプログラミングについて理解する。
《個別目標 (SBOs)》
①3次元の画像処理や画像再構成のアルゴリズムについて説明できる。(知識)
②3次元の画像処理や画像再構成のプログラムを作成できる。(技術)
③プログラミングや関連するアルゴリズムについて興味を持つ。(態度・習慣)

【授業計画】

1. 授業のガイダンス 【講義・質疑応答】
授業で使用するプリントの配付と授業の進め方およびプログラミング環境について
2. CTの歩み(1) 【演習・質疑応答】
トモシンセシスのアルゴリズム
3. CTの歩み(2) 【演習・質疑応答】
2次元CTの画像再構成アルゴリズム
4. CTの歩み(3) 【演習・質疑応答】
コーンビームの投影作成アルゴリズム
5. CTの歩み(4) 【演習・質疑応答】
スパイラルスキヤンの投影作成アルゴリズム
6. 逐次近似再構成法(1) 【演習・質疑応答】
2次元逐次近似アルゴリズム
7. 逐次近似再構成法(2) 【演習・質疑応答】
3次元逐次近似アルゴリズム
8. 逐次近似再構成法(3) 【演習・質疑応答】
3次元OS-EMアルゴリズム
9. 3次元画像再構成法(1) 【演習・質疑応答】
スパイラルCT画像再構成アルゴリズム
10. 3次元画像再構成法(2) 【演習・質疑応答】
パラレルビーム3次元画像再構成アルゴリズム
11. 3次元画像再構成法(3) 【演習・質疑応答】
コーンビーム3次元画像再構成アルゴリズム
12. 3次元画像再構成法(4) 【演習・質疑応答】
Feldkamp画像再構成アルゴリズム
13. 3次元画像再構成法(5) 【演習・質疑応答】
ヘリカルコーンビーム再構成アルゴリズム
14. レジストレーション(1) 【演習・質疑応答】
相互情報量
15. レジストレーション(2) 【演習・質疑応答】
2つの画像の重ね合わせ
(フィードバック方法) 課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

課題(40%)、レポート(60%)

【備考】

【科目名】 磁気共鳴画像工学演習

【授業コード】 22H60091

【代表教員】 久原 重英

【授業概要】

磁気共鳴診断装置の画質はパルスシーケンスによるデータ収集から画像再構成・処理法までの一連の個々の処理に大きく依存している。本演習では、選択した画像種に対する各種画像再構成・処理ステップを課題とし、実機ならびにBlochシミュレータを用いて、データ収集から画像再構成・各種画像処理までの諸ステップを演習にて実施することで、実際の処理の流れと個々の処理の機能などについて学ぶ。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
先行研究を批判的に吟味できる能力
・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

磁気共鳴診断装置のデータ収集から画像再構成・処理までを演習で学ぶ。

《個別目標 (SBOs)》

①磁気共鳴診断装置のデータ収集から画像再構成・処理までの諸ステップが理解できる。

②磁気共鳴診断装置のデータ収集から画像再構成・処理までの一部のステップの処理ができ、必要に応じて該当する処理・パラメータの変更ができる。

【授業計画】

1. 準備と演習課題の選定 [講義・質疑応答]
磁気共鳴診断装置のデータ収集・画像再構成・画像処理等の基本事項の確認と演習課題(課題とする画像種ならびに対応した画像再構成・処理(2ステップ程度)の選定
- 2-3. データ収集の準備 [演習・質疑応答]
実機によるデータ収集もしくはBlochシミュレータによるRaw Data生成に向けた準備(パルスシーケンスの選定、撮像条件の検討、使用ソフトウェア(言語)の事前学習等)
- 4-5. Raw データの取得 [演習・質疑応答]
準備したパルスシーケンスを動作させ、実機もしくはBlochシミュレータより収集・生成したRaw Dataをファイルへ格納する。必要であれば各種前処理(各ch・各スライス毎へのデータ分離など)を行う。
- 6-7. 画像再構成ソフトウェアの準備 [演習・質疑応答]
選定した画像種に対する画像再構成ソフトウェア(Matlab等)の準備(コード作成・編集等)を行う。
- 8-9. 画像再構成の実施 [演習・質疑応答]
上記画像再構成ソフトウェアを用いて画像再構成を実施する。必要であれば画像処理ソフトウェアに修正を加えて再度画像再構成を行う。
10. 画像再構成処理までの結果の評価とプレゼンテーション [演習・質疑応答・プレゼンテーション]
データ収集から画像再構成までの一連のプロセスについてまとめると共に結果に対する評価(考察)も含めプレゼンする。
- 11-12. 画像再構成処理後の画像処理ソフトウェアの準備 [演習・質疑応答]
選定した画像種に対する画像再構成後の画像処理を行うための画像処理ソフトウェアの準備(コード作成・編集等)を行う。
- 13-14. 画像処理ステップの実施 [演習・質疑応答]
上記画像処理ステップを実施する。必要であれば画像処理ソフトウェアに修正を加えて再度画像処理を行う。
15. 画像処理ステップの結果の評価とプレゼンおよび全体のまとめ [演習・質疑応答・プレゼンテーション]
作成した画像処理ソフトウェアと画像処理結果について評価(考察)しプレゼンする。また、データ収集、画像再構成、画像処理までを含めた演習全体のまとめを行う。

(フィードバック方法) 課題レポートなどに対するフィードバックは次回の演習時間で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 毎回の講義に関するテーマについては事前に調べておくこと。(復習)
 - 1-15. 各回の内容をA4一枚程度にまとめておく。
※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(40%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H6T1A1 22H6T1A2

【代表教員】天沼 誠

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 - ・先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - ・専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
研究開始前にこれまでの研究内容を精査し、内容を絞り込む。
- 9-16. 関連文献の検討 [演習]
関連する論文を収集し、その概要をプレゼンテーションする。
- 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
予備研究を含め、自身の研究を行うことが可能か、問題点がないか検討する。
- 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
これまでの内容から、実際の研究計画を立案し、実験準備などを行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。(復習)
 - 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H6T1B1 22H6T1B2

【代表教員】小池 貴久

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
 - ・先行研究を批判的に吟味できる能力
 - ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - ・専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究課題を明確にする。

《個別目標 (SBOs)》

- ①興味の対象を抽出することができる。
- ②関連論文を抽出することができる。
- ③研究手法を明確にすることができる。

【授業計画】

- 1-8. 研究テーマの検討 [演習]
研究開始前にこれまでの研究内容を精査し、内容を絞り込む。
- 9-16. 関連文献の検討 [演習]
関連する論文、先行研究について理解する。
- 17-20. 研究方法論の検討 [演習]
予備研究を含め、自身の研究を行うことが可能か、問題点がないか検討する。
また、関連論文、先行研究の手法について理解する。
- 21-30. 研究計画書の作成 [演習]
研究計画を立案し、実験準備などを行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。(復習)
 - 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H6T1C1 22H6T1C2

【代表教員】橋本 雄幸

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究課題を明確にする。

《個別目標 (SBOs)》

①研究テーマに基づき、的確な研究計画書を作成できる。(技能)

②研究テーマの背景を的確に説明できる。(知識)

③研究テーマに関連する事項を積極的に思考できる。(態度・習慣)

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

自分の研究に対するテーマを最新の研究から見つけ出す。

9-16. 関連文献の検討 [演習]

テーマに関連する初期から最新の文献を読み進める。

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

研究の方法と方向性を検討する。

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

研究計画書をまとめる。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 I

【授業コード】22H6T1D1 22H6T1D2

【代表教員】山本 智朗

【授業概要】

学位論文作成に向けて自己の研究課題を明確にし、研究課題探索のための研究活動を展開する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究課題を明確にする。

【授業計画】

1-8. 研究テーマの検討 [演習]

研究開始前にこれまでの研究内容を精査し、内容を絞り込む。

9-16. 関連文献の検討 [演習]

関連する論文を収集し、その概要をプレゼンテーションする。

17-20. 研究方法論の検討 [演習]

予備研究を含め、自身の研究を行うことが可能か、問題点がないか検討する。

21-30. 研究計画書の作成 [演習]

これまでの内容から、実際の研究計画を立案し、実験準備等をする。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(50%)、研究計画書(50%)

【備考】

【科目名】特別研究 II

【授業コード】22H6T2A1 22H6T2A2

【代表教員】天沼 誠

【授業概要】

特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO)》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]

研究計画の実行に先立ち、必要な予備実験などで再確認しそれを報告する。

3-5. 研究方法の検討 [演習]

方法論についてプレゼンテーションをし、方法に問題がないか討論する。

6-10. 文献検索 [演習]

追加された文献の概要を説明する。

11-13. フィールドワーク [演習]

実際の研究を行う。

14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]

これまでの内容を説明する。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究 II

【授業コード】22H6T2B1 22H6T2B2

【代表教員】小池 貴久

【授業概要】

特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を指導する。また、継続的に研究が進められるよう指導する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。

先行研究を批判的に吟味できる能力

・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

専門分野における課題発見能力

・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

具体的な研究方法を明確にし遂行する。

《個別目標 (SBOs) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表できる。

【授業計画】

- 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
特別研究 I で作成された研究テーマを確認し、研究概要をまとめる。
- 3-5. 研究方法の検討 [演習]
具体的な研究手法について検討する。
- 6-10. 文献検索 [演習]
最新文献を参考にし、研究を遂行する。
- 11-13. 研究の遂行 [演習]
研究を遂行する。
- 14-15. プレゼンテーションの準備 [演習]
研究内容の中間まとめを行い、発表できるように準備する。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】特別研究 II

【授業コード】22H6T2C1 22H6T2C2

【代表教員】橋本 雄幸

【授業概要】

特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①研究計画に基づき、研究の遂行およびプレゼンテーションができる。(技能)
- ②最新の文献を説明できる。(知識)
- ③研究テーマに関連する事項を積極的に思考できる。(態度・習慣)

【授業計画】

- 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
特別研究 I で策定した研究計画の確認を行い、必要に応じて再検討する。
- 3-5. 研究方法の検討 [演習]
研究計画にしたがって、研究方法の検討を行う。
- 6-10. 文献検索 [演習]
研究テーマに関連する文献の検索を行う。
- 11-13. プログラミング [演習]
研究テーマに沿ったプログラムの作成を行う。
- 14-15. プレゼンテーション [演習]
研究の進行状況をまとめてプレゼンテーションする。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】特別研究 II

【授業コード】22H6T2D1 22H6T2D2

【代表教員】山本 智明

【授業概要】

特別研究 I で作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習]
研究計画の実行に先立ち、必要な予備実験などで再確認しそれを報告する。
- 3-5. 研究方法の検討 [演習]
方法論についてプレゼンテーションをし、方法に問題がないか討論する。
- 6-10. 文献検索 [演習]
追加された文献の概要を説明する。
- 11-13. フィールドワーク [演習]
実際の研究を行う。
- 14-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
これまでの内容を説明する。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)

【備考】

【科目名】特別研究 III

【授業コード】22H6T3A1 22H6T3A2

【代表教員】天沼 誠

【授業概要】

特別研究 III では、特別研究 II の指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識

- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
- 専門分野における課題発見能力
- ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。

研究遂行能力

- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

《一般目標 (GIO) 》

特別研究 II と同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
これまでの研究内容の問題点を洗い出し、その解決法を検討する。
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
結果を整理し、必要な統計解析を行う。その結果で目的が達成できるか検討する。
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
これまでの内容を論文にし、その構成に問題がないか検討する。
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
論文を査読し、質問事項に対して回答する。
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
研究成果をプレゼンテーションし、最終的な考察を行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
 - 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

ゼミ前日までにレジメと参考文献を指導教員に提出する。

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H6T3B1 22H6T3B2

【代表教員】小池 貴久

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - ・専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- 高い倫理観
- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。
- ≪一般目標(GIO)≫
- 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。
- ≪個別目標(SBOs)≫
- 学位論文として十分な学術的価値を持ったものにできる。

【授業計画】

1. 研究内容の再検討、整理 [演習]
研究内容について再検討する。
- 2-3. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
研究内容をブラッシュアップする。
- 4-12. 論文構成、内容整理 [演習]
論文を作成し、更生および内容について検討する。
13. 論文作成、討議 [演習]
論文内容のブラッシュアップを行う。
- 14-15. プレゼンテーション [演習]
研究内容を発表できるように準備する。
(フィードバック方法) 課題が有る場合は、次回の講義で説明、フィードバックする。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
 - 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H6T3C1 22H6T3C2

【代表教員】橋本 雄幸

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - ・専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

≪一般目標(GIO)≫

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

≪個別目標(SBOs)≫

- ①研究の遂行および論文の作成とプレゼンテーションができる。(技能)
- ②最新の文献を説明できる。(知識)
- ③研究結果から科学的根拠に基づいて考察できる。(技能)
- ④研究テーマに関連する事項を積極的に思考できる。(態度・習慣)

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
研究計画を進行とともに再検討し、適切に方向性を見定める。
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
研究結果をもとに分析と考察を考え、討議する。
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
論文の構成を考え、研究の内容を整理する。
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
論文をまとめて、細かい内容について討議する。
- 13-15. プレゼンテーション [演習]
論文の内容をプレゼンテーションする。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
 - 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。
☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

ゼミ前日までにレジメと参考文献を指導教員に提出する。

【科目名】特別研究Ⅲ

【授業コード】22H6T3D1 22H6T3D2

【代表教員】山本 智朗

【授業概要】

特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに、論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。

【学位授与方針の関連 学習目標】

≪学位授与方針との関連≫

- 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識
- ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。
- 先行研究を批判的に吟味できる能力
- ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。
 - ・専門分野における課題発見能力
 - ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。
- 研究遂行能力
- ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。

高い倫理観

- ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を

遂行できる。

特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものにする。

なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。

【授業計画】

- 1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]
これまでの研究内容の問題点を洗い出し、その解決法を検討する。
- 4-6. 研究結果の分析と考察、討議 [演習]
結果を整理し、必要な統計解析を行う。その結果で目的が達成できるか検討する。
- 7-9. 論文構成、内容整理 [演習]
これまでの内容を論文にし、その構成に問題がないか検討する。
- 10-12. 論文作成、討議 [演習]
論文を査読し、質問事項に対して回答する。
- 13-15. プレゼンテーション [プレゼンテーション]
研究成果をプレゼンテーションし、最終的な考察を行う。
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

- (予習)
 - 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。
(復習)
 - 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ☆概ね週当たり4時間以上必要である。
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)

【備考】

ゼミ前日までにレジメと参考文献を指導教員に提出する。
